

島根県における主婦の衣生活調査

角田 幸雄・阿部 邦子・藤井 明
野津 哲子・伊地知一枝・磯部美津子
陶山 英子・後藤 郁子
(被服教室)

An Investigation on the Actual Conditions of Housewives' Clothing Habits in Shimane Prefecture

Yukio TSUNODA・Kuniko ABE・Akira FUJII
Tetsuko NOTSU・Kazue IJICHI・Mitsuko ISOBE
Hideko SUYAMA・Ikuko GOTO

目	次	頁
I. 緒言		37
II. 調査対象および調査方法		38
III. 調査結果および考察		39
1. 和服の所持と着用状況		39
2. 改まった時の装いおよび和服への関心度		43
3. 洋服の購入状況		45
4. 洋服の嗜好傾向		51
5. 下着の購入と着用		58
6. ねまきの所持と着用状況		61
7. 作業着の種類		66
8. 品質表示の活用		67
9. 家庭洗たくの実際		70
10. クリーニングの利用状況		74
11. 衣服の整理と保管		77
12. 廃棄衣料の処理方法		80
13. 衣生活での衣料品に対する不満と苦情		80
IV. 総括		82
資料		84

I. 緒言

近年の技術革新と国民の所得水準の大幅な上昇は衣生活の面でも以前とは比較にならない大きな質的変容をもたらした。

すなわち、各種の人造繊維や繊維加工製品などが多目的に次々と開発され、これに消費者の審美的要求や個性表現の欲求が加わって衣料の多様化、個性化、高級化の傾向が進行した。イージーケア衣料や機能的衣料の定着化、TPOに合わせた衣料の区別化、ファッション衣料や高級衣料（和服も含めた）の出現、既製服化率の増大などがその顕著な変化として指摘できる。さらに、衣生活での労力軽減に大きく役立っている電気洗たく機の普及も加えることができよう。

しかしながら、他方において様々な問題も生じている。新しい繊維製品が出廻ると消費者には必然的にそれらの合理的な選択と適切な供用、管理が行われるための科学的知識が要求され、衣生活の内容は高度で複雑なものになった。そのため、消費者保護の立場から繊維製品についての組成表示をはじめ、取扱い絵表示などが制定されたが、これらの実効は未だ適正に、かつ十分に挙がっているとはいえないようである。製品に対する情報や知識の不足からクリーニング事故やその他消費者の苦情、不満の発生は著しく増加している。

また、経済の高度成長がもたらした大量消費社会は衣生活面でも多消費的体質をつくり、不用死蔵の期間を経

た衣料の廃棄処理の問題が省資源、環境汚染の見地から重要な課題となってきた。その他、衣料の加工処理剤や合成洗剤についての人体への安全性、あるいは環境公害の問題なども挙げられる。

衣生活におけるもう1つの大きな変容として、洋式化による和服の日常衣服からの後退が指摘できる。和服は今日では特定な人や改まった特定の場合しか着用されない衣服となってしまう、今後はフォーマル化、高級化の方向で位置づけられていくように思われる。ねまきについても同様で、従来の和服式にかわって洋式のパジャマなどの着用が増えてきた。

そこで、我々は衣生活の変容に関する以上のような認識の上に立って、県民についての最近の衣生活実態を知るために、和服の所持と着用状況、洋服の嗜好傾向、衣料の購入から着用、洗たく、管理、廃棄までの消費実態などについて調査した。また、衣生活の変容や消費意識、消費過程で生じる不満、苦情などの問題点などを把握し、これらの生活地域や年代間の差異も併わせ、検討する目的で本研究を実施した。

Ⅱ．調査対象および調査方法

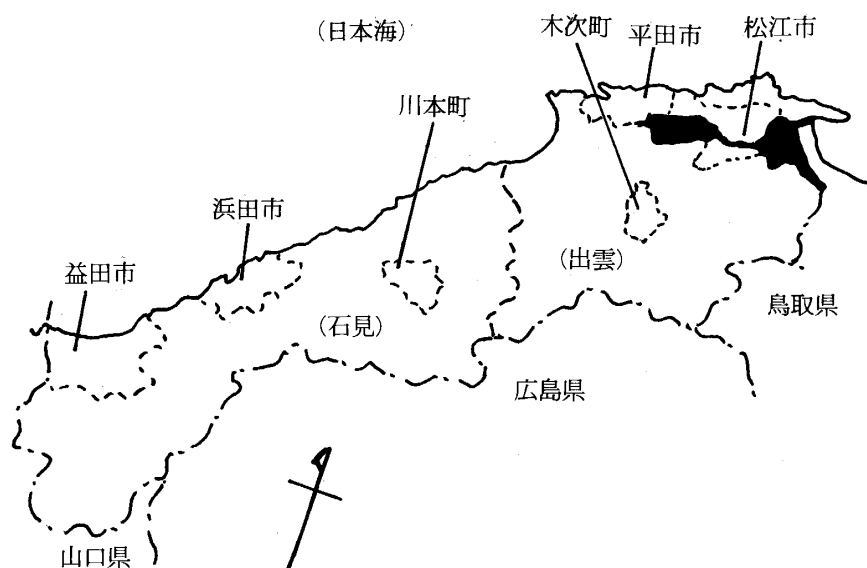
調査対象は全県的な消費実態を把握する見地からまず、都市地域、都市周辺の準農業地域および山村の農業地域の3地域を考慮して第1図、第1表に示すように出雲部

と石見部でそれぞれ1地区ずつ、計6地区を定め、各地区では、さらにいくつかの代表的な集落を選んで調査の実施区域とした。これらの地区の中から総計420世帯をその主婦年令20代、30代、40代、50代以上の4階級の層別で、都市部では住民票カードから無作為に、その他の地区ではそれぞれ担当の生活改良普及員の協力によって各所定数の世帯を抽出した。

調査の方法は各世帯を戸別に訪問し、主婦を対象に末尾の資料に示す質問内容にしたがって各30分程度の時間で面接により実施した。調査の実施時期は7～8月で、調査世帯の実数は第1表に示す通りである。

第1表 調査地域と調査数

調 査 地 域		抽出世帯数	調 査 実 数
都 市 部	松 江 市	120	99
	浜 田 市	60	48
準農村部	平 田 市	60	50
	益 田 市	60	48
農 村 部	木 次 町	60	51
	川 本 町	60	44
計		420	340



第1図 調査地域

Ⅲ. 調査結果および考察

1. 和服の所持と着用状況

1-1 和服所持数・所持率

全体および地域別の和服所持枚数についての結果は第2表に示す通りである。主婦1人当りの和服所持枚数の総平均は26.3枚で、その内訳は日常着4.6枚、外出着18.4枚、礼服3.3枚である。所持されている和服の種類は日常着8種、外出着9種、礼服8種の計25種で、この中で対象者の80%以上が所持している和服は外出着3種、礼服1種計4種である。

各種の和服のうち、その所持率に地域差の認められないのは、日常着では浴衣・コート、外出着では単衣長着・袷長着・単衣羽織・コートの6種で、地域差が顕著に

認められるのは、日常着ではウール長着・ウール羽織、外出着では訪問着・ウール羽織、礼服では単衣羽織の5種である。

所持枚数の最も多い和服は外出着の袷長着で平均5.0枚、次いで袷羽織3.4枚、コート2.2枚、ウール長着2.1枚、単衣長着2.1枚の順となっている。

都市部は他の地域に比較して、日常着、外出着、礼服いずれの場合も所持数・所持率がともに多い。これは被服に関心を持ち得る環境にあり、衣生活が豊かであるといえるが、反面派手であるとも考えられる。農村部で外出着の単衣長着が所持率約82.1%となっているが、平均所持数は2.2枚と少なく、洋服生活がほとんどであることがわかる。

第2表 和服の所持数および所持率（地域別）

用途別	種 類	所持数・所持率 地域別 人 数				1人当たり平均所持数(枚)				所 持 率 (%)			
		都 市 部	準農村部	農 村 部	全 体	都 市 部	準農村部	農 村 部	全 体	都 市 部	準農村部	農 村 部	全 体
		147	98	95	340	147	98	95	340	147	98	95	340
日常着	浴 衣	1.5	1.0	1.3	1.3	59.2	44.9	50.5	52.6				
	単 衣 長 着	0.3	0.2	0.1	0.2	13.6	6.1	1.1	7.9				
	袷 長 着	0.5	0.2	0.1	0.3	12.9	7.1	5.3	9.1				
	ウ ー ル 長 着	2.7	0.7	1.3	1.7	63.3	25.5	30.5	43.2				
	単 衣 羽 織	0.1	0.1	0.0	0.1	4.8	7.1	1.1	4.4				
	袷 羽 織	0.2	0.0	0.1	0.1	6.8	2.0	2.1	4.1				
	ウ ー ル 羽 織	1.2	0.3	0.7	0.8	39.5	15.3	20.0	27.1				
	コ ー ト	0.1	0.0	0	0.0	4.1	1.0	0	2.1				
外出着	浴 衣	1.2	1.5	1.5	1.4	49.0	71.4	61.1	58.8				
	単 衣 長 着	2.0	2.0	2.2	2.1	76.9	73.5	82.1	77.4				
	袷 長 着	4.9	4.5	5.5	5.0	90.5	91.8	90.5	90.9				
	ウ ー ル 長 着	1.5	2.7	2.4	2.1	46.3	75.5	69.5	61.2				
	訪 問 着	1.0	0.5	0.4	0.7	51.0	31.6	33.7	40.6				
	単 衣 羽 織	0.9	0.7	0.7	0.8	49.7	45.9	48.4	48.2				
	袷 羽 織	3.4	3.2	3.7	3.4	87.1	92.9	69.5	83.9				
	ウ ー ル 羽 織	0.6	1.2	0.9	0.8	30.6	62.2	46.3	44.1				
礼服	コ ー ト	2.4	2.0	2.2	2.2	89.1	92.9	89.5	90.3				
	単 衣 長 着	0.1	0	0.1	0.0	4.8	0	3.2	3.0				
	袷 長 着	0.3	0.0	0.3	0.2	16.3	2.0	16.8	12.3				
	訪 問 着	0.1	0.3	0.2	0.3	30.0	17.3	15.8	22.4				
	単 衣 羽 織	0.2	0.1	0.3	0.2	15.0	6.1	24.2	15.0				
	袷 羽 織	0.7	0.4	0.8	0.7	36.1	26.5	48.4	36.8				
	コ ー ト	0.0	0	0	0.0	2.0	0	0	0.9				
	留 袖	0.4	0.3	0.2	0.3	35.4	22.4	24.2	28.5				
服	喪 服	1.7	1.4	1.6	1.6	93.2	76.5	82.1	85.3				

袷長着の所持率は都市部で90.5%，準農村部で91.8%，農村部で90.5%であるが，平均所持数は都市部で4.9枚，準農村部が4.5枚，農村部5.5枚で改まったよそゆき用として所持されているものと考えられる。袷羽織，コートについても同様である。

礼服には喪と祝（留袖）の2種があるが，喪服の所持率は全体が85.6%で，祝の礼服（留袖）の27.7%と比べてかなり多い。喪服の所持率の多いのは，フォーマル衣服として最低限の所持が必要と考えていること，黒無地であるため流行がないなどの理由と思われる。祝の礼服（留袖）が少ないのは，着用する時間的緊急度が少ないこと，着用の儀礼的要求の少ないこと，模様の流行の激しいことなどのために貸衣裳利用の項目2-3で示すよ

うに，最近貸衣裳の利用が多くなってきたことも見逃すことのできない理由と考えられる。

地域別にみると，喪服は都市部で圧倒的に多く所持されており，農村部，準農村部の順に少なくなっており，祝の礼服（留袖）は，僅かではあるが都市部に比較的多く所持されており，次いで農村部，準農村部の順である。

次に最高所持数と最低所持数の結果は第3表に示す通りである。一般に所持枚数の個人差は大きく，ばらつき（範囲）をみると，10枚以上の開差を示す和服は袷長着27枚をはじめとして7種ある。実際に使用する和服の枚数については，さらに個人差があり所持枚数が多いことと，個人差の大きいことから，袷長着をはじめとして全般に死蔵されている和服はかなり多いのではないかと思

第3表 和服の最高・最低所持数（地域別）

（枚）

用途別	種 類	地域別 人 数 最高・最低		都 市 部		準 農 村 部		農 村 部		全 体	
		147		98		95		340			
		最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
日常着	浴 衣	8	0	8	0	5	0	8	0		
	単 衣 長 着	5	0	9	0	6	0	9	0		
	袷 長 着	14	0	5	0	3	0	14	0		
	ウール長着	14	0	5	0	13	0	14	0		
	単 衣 羽 織	7	0	2	0	1	0	7	0		
	袷 羽 織	7	0	3	0	5	0	7	0		
	ウール羽織	16	0	4	0	8	0	16	0		
	コ ー ト	2	0	3	0	0	0	3	0		
外出着	浴 衣	12	0	6	0	10	0	12	0		
	単 衣 長 着	8	0	8	0	8	0	8	0		
	袷 長 着	27	0	20	0	20	0	27	0		
	ウール長着	10	0	20	0	13	0	20	0		
	訪 問 着	7	0	7	0	2	0	7	0		
	単 衣 羽 織	6	0	5	0	3	0	6	0		
	袷 羽 織	13	0	10	0	15	0	15	0		
	ウール羽織	6	0	7	0	8	0	8	0		
礼 服	コ ー ト	10	0	6	0	6	0	10	0		
	単 衣 長 着	2	0	0	0	2	0	2	0		
	袷 長 着	5	0	2	0	2	0	5	0		
	訪 問 着	5	0	4	0	2	0	5	0		
	単 衣 羽 織	3	0	2	0	2	0	3	0		
	袷 羽 織	5	0	4	0	4	0	5	0		
	コ ー ト	2	0	1	0	0	0	2	0		
	留 袖	3	0	3	0	2	0	3	0		
喪 服	喪 服	3	0	3	0	4	0	4	0		

われる。和服を一種の財産として考える傾向は現在も残っており、まだ死蔵和服をもつ人は相当に多いようである。

最高所持数について地域別に比較すると、多種類にわたって都市部の方が多く、地域的な特性が伺われる。

1-2 用途別所持数の比率

用途別に所持数の比率をまとめたのが第4表である。各地域とも外出着の比率が最も大きく、準農村部で78.2%、次いで農村部、都市部の順となっている。日常着の比率は都市部22.7%、農村部17.5%、準農村部11.1%であり、同様に礼服についてみると都市部16.5%、農村部13.1%、準農村部10.7%となっている。全体について比較してみても外出着の比率が最も高く67.9%で、日常着、礼服はこれに比較して極めて低い。このことから和服は日常衣服から後退し、フォーマルな、あるいは外出着の名目のもとに財産視された衣服とみなされているといえる。

第4表 和服の用途別所持率 (%)

用途別	地域別	都市部	準農村部	農村部	全 体
日 常 着		22.7	11.1	17.5	18.1
外 出 着		60.8	78.2	69.4	67.9
礼 服		16.5	10.7	13.1	14.0

1-3 調製方法の比較

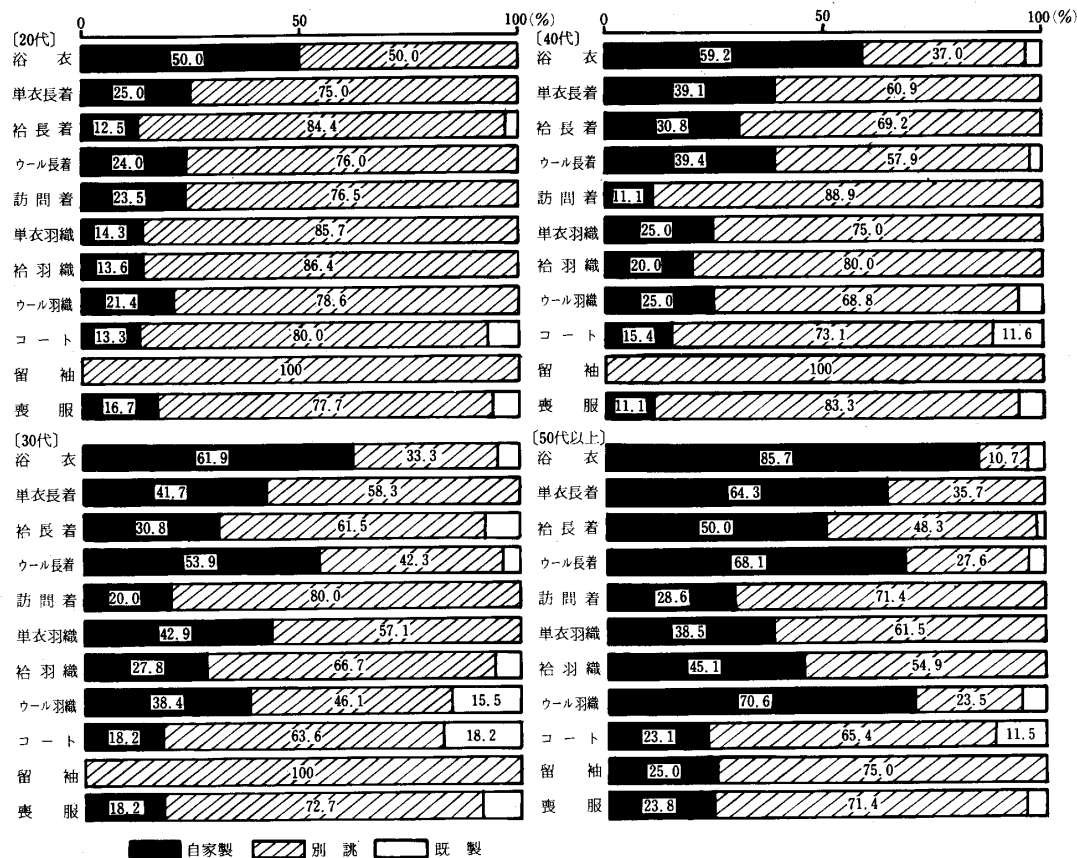
所持している和服の調製方法を自家製、別誂、既製の

第5表 和服の調製方法(全地域) (%)

種類	地域別 人 数 調 製 方 法	全 体		
		340		
		自 家 製	別 誂	既 製
浴 衣		64.5	31.4	4.1
単 衣 長 着		45.3	54.7	0
袷 長 着		39.4	58.8	1.8
ウール長着		54.4	42.7	2.9
訪 問 着		22.4	77.6	0
単 衣 羽 織		38.4	61.6	0
袷 羽 織		35.4	64.0	0.6
ウール羽織		47.1	46.1	6.8
コ ー ト		25.4	69.1	5.5
留 袖		23.8	76.2	0
喪 服		21.9	71.5	6.6

3つに分け調べた全地域における結果は第5表に示す通りである。別誂が最も多く61.3%で、次いで自家製35.7%、既製品の利用は最も少なく3.0%である。単衣物は自分で縫う人が多く、袷物は別誂が特に多かったが、いずれの種類においても既製品の利用が少ないのが特徴的である。参考までに自家製による1人当たり平均枚数をみると、1位がウール長着1.9枚、次いで袷長着1.8枚、浴衣1.7枚、袷羽織1.2枚、単衣長着1.0枚、ウール羽織0.7枚、コート0.4枚、単衣羽織0.3枚、喪服0.3枚、訪問着0.2枚、留袖0.0枚の順となっている。同様に別誂についてみると、特に袷長着が優位を示し2.7枚、次いで袷羽織2.1枚、ウール長着1.5枚、単衣長着1.2枚、コート1.1枚、喪服1.0枚、浴衣0.8枚、ウール羽織0.7枚、訪問着0.7枚、単衣羽織0.5枚、留袖0.2枚の順となっている。また、既製についてみると各種類間にはほとんど差異は認められない。

次に調製方法を年代別に比較してみると第2図に示す通りである。自家製は50代以上に最も多く52.1%、次いで40代、30代、20代の順である。同様に別誂は若年が圧倒的に多く20代で77.4%、次いで30代、40代、50代以上の順になっている。また既製品についてみると、各年代とも僅かで30代の3.7%、次いで50代以上、40代、20代の順に少なくなっている。次に、自家製による種類別の1人当たり平均枚数を比較してみると、浴衣では50代以上2.4枚、40代1.6枚、30代1.3枚、20代1.1枚の順で、単衣長着においても同様に1.8枚、0.9枚、0.5枚、0.4枚の順である。袷長着も同様で3.0枚、2.0枚、0.8枚、0.4枚で、ウール長着においても高年令ほど多く3.2枚、1.5枚、1.4枚、0.6枚の順である。訪問着においては僅かに20代が多く0.4枚、次いで30代、40代とも0.2枚、50代以上の0.1枚となっている。単衣羽織は50代以上で0.5枚、30代0.3枚、40代0.2枚、20代0.1枚の順で、袷羽織では50代以上2.3枚、40代0.9枚、30代0.5枚、20代0.3枚の順で、また、ウール羽織は50代以上1.2枚、30代0.5枚、40代0.4枚、20代0.3枚の順となっている。コートは50代以上0.6枚、40代0.4枚、30代、20代ともに0.2枚の順である。留袖においては50代以上で0.1枚、40代、30代とも0.0枚、20代では全くなく、喪服については50代以上の0.5枚に次いで20代0.3枚、30代、40代ともに0.2枚であった。この調査で特記すべきことは、50代以上では和服をほとんど縫っていることである。このことは、かつての和裁教育で身につけた技術の修得が大きく影響していると思われる。今日の和服の調製の傾向を全般的にみると、時間がかかり高度な技術の必要なものは別誂にゆだね、主婦の過重労働をできるだけ軽減していく方向にむかっているといえる。



第2図 和服の調製方法 (年代別)

1-4 年代別和服着用度の比較

年代別和服着用度の結果は第6表、第7表に示す通りである。全体について比較すると「時々着用」が圧倒的に多く72.5%、「着用せず」24.4%、「常時着用」は僅かではあるが3.1%である。年代別に比較すると50代以上

では「常時着用」3.9%、30代3.3%、40代3.1%、20代0.3%の順である。日常生活の中では和服はほとんど利用されず、洋服が大部分を占めてきていることがわかる。「時々着用」についてみると高年令になるにつれて着用率が高くなり、50代以上で78.4%、次いで40代71.3%、30代

第6表 各種和服の着用頻度 (年代別)

(1人当たり平均・枚)

種類	常時着用					時々着用					着用せず				
	年代人数					年代人数					年代人数				
	20代	30代	40代	50代以上	全体	20代	30代	40代	50代以上	全体	20代	30代	40代	50代以上	全体
浴衣	0	0.1	0.1	0	0.1	1.5	1.5	1.7	2.0	1.7	0.7	0.9	1.0	0.8	0.9
単衣長着	0	0	0.1	0.2	0.1	0.7	1.1	1.3	1.6	1.3	0.6	0.7	1.1	1.0	0.9
袷長着	0	0.1	0.2	0.2	0.1	1.9	3.5	4.8	4.8	4.1	1.0	0.8	1.5	1.0	1.1
ウール長着	0	0.1	0.2	0.5	0.2	1.6	2.5	2.8	3.2	2.7	0.8	0.8	0.7	0.5	0.7
訪問着	0	0	0	0	0	1.2	1.1	0.6	0.6	0.8	0.6	0.2	0.3	0.2	0.3
単衣羽織	0	0	0	0	0	0.3	0.6	0.5	1.0	0.6	0.2	0.5	0.3	0.3	0.3
袷羽織	0	0.2	0.1	0.1	0.1	1.1	2.7	3.5	4.1	3.2	0.9	0.7	1.0	0.8	0.9
ウール羽織	0	0	0	0.2	0.1	0.9	1.2	1.1	1.5	1.2	0.4	0.6	0.3	0.2	0.4
コート	0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.6	1.3	1.7	2.1	1.6	0.7	0.4	0.5	0.3	0.4
留袖	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0.2	0.3	0.2	0.1	0	0.1	0.1	0.1
喪服	0	0	0	0	0	0.7	1.1	1.1	1.4	1.1	0.6	0.5	0.2	0.2	0.3

第7表 和服の着用頻度（年代別）

着用頻度 \ 年代	20代	30代	40代	50代以上
常時着用	0.3	3.3	3.1	3.9
時々着用	63.4	69.3	71.3	78.4
着用せず	36.3	27.4	25.6	17.7

69.3%，20代63.4%の順となっている。「着用せず」については20代が最も多く36.3%，次いで30代27.4%，40代25.6%，50代以上17.7%の順である。若いうちは洋服の利用が多く，高年令になるにつれて僅かではあるが和服の利用が多くなっている。また，反面には各年代とも各種の和服がそのままタンスの中で死蔵品として，ねまわっていることも推察できる。それにもかかわらず和服の所持数が多いのは，因習的な衣生活の様式から脱却しにくく不用と思いながらも調製したものであろう。

所持数の多少と着用度との関係についてみると，所持数の多い者でも100%着用している者もあり，反対に所持数が少ないのに着用度の低い者もある。コートは所持枚数は少ないが，必要な枚数は所持されており着用度は高い。単衣長着，袷長着，袷羽織は相当数を所持しているが着用度は低い。

2. 改まった時の装いおよび和服への関心度

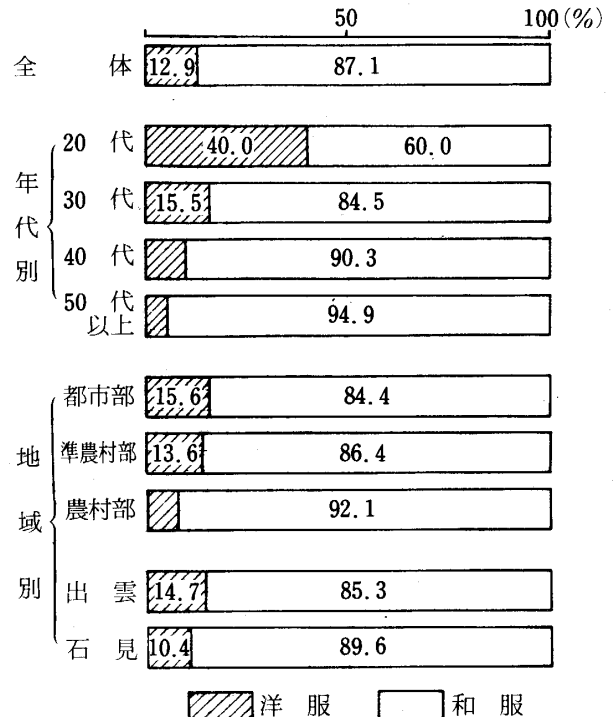
2-1 冠婚葬祭には和服か，洋服か

全体，年代別および地域別の結果は第3図に示す通りである。全体でみた場合，和服が過半数を占めており，年代別では高年令になるほど和服の占める割合が多くな

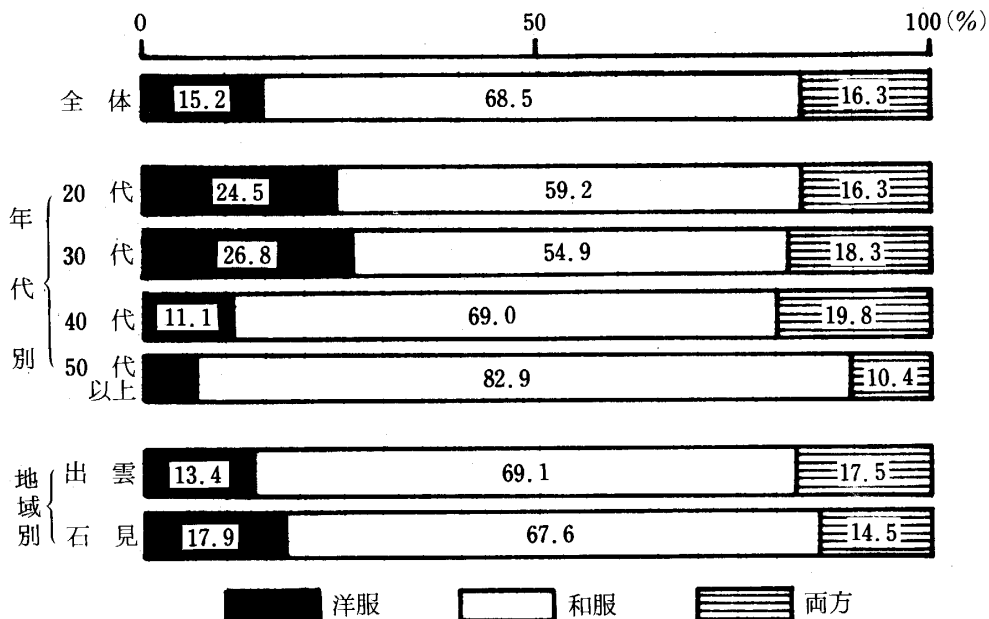
っている。地域別では3地域においては顕著な差はみられない。一般に出雲地区と石見地区の生活慣習の比較がよくなされるが，この結果からみると出雲地区と石見地区はほぼ同一傾向といえる。「両方」と答えた人の多くは夏と冬という季節で区別する場合と，身内と他人で区別する人である。また，凶のときは吉のときと大体同じ傾向にあるが，やや洋服の割合が多くなっている。

2-2 入学式・卒業式には和服か，洋服か

全体，年代別および地域別の結果は第4図に示す通り



第4図 入学式・卒業式時の服装



第3図 冠婚葬祭時の服装

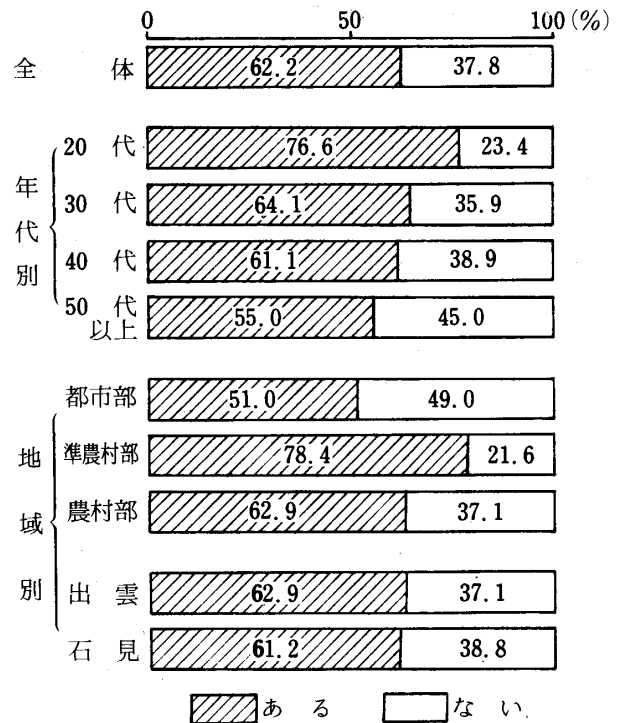
である。全体でみた場合、「和服」が87.1%と高い比率を示している。年代別では、やはり高年齢になるほど和服の占める割合が多くなっている。地域別では、特に農村部で圧倒的に和服が多くなっている。また、この項目においても出雲地区と石見地区間の差はほとんどみられない。

2-3 貸衣裳の利用

全体、年代別および地域別の結果は第5図に示す通りである。全体でみた場合、「利用したことがある」62.2%、「利用したことがない」37.8%と過半数の人が利用していることがわかる。年代別にみると低年齢ほど、何らかの種類の貸衣裳を利用した経験を持っていることがわかる。地域別では、都市部は農村部、準農村部よりも利用した人が少い。また、出雲地区と石見地区を比較してみると、大体同一傾向にある。貸衣裳の種別をみると、留袖を利用した人は全体の75.0%である。次いで打掛13.4%、ウェディングドレス3.1%などの花嫁衣裳となっている。

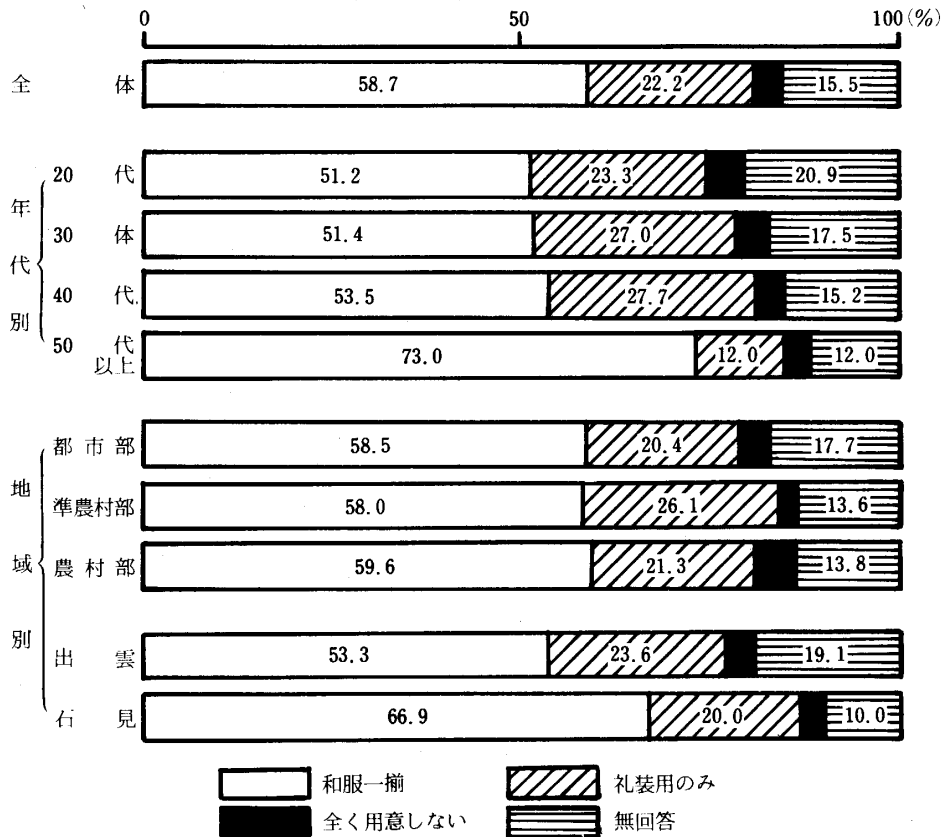
2-4 結婚仕度品としての和服の用意

あなたの娘さんの結婚支度品には和服をどの程度用意したか、また用意したいと考えているかについての全体、年代別および地域別の結果は第6図に示す通りである。全体でみた場合、「和服一揃」58.7%、「礼装用

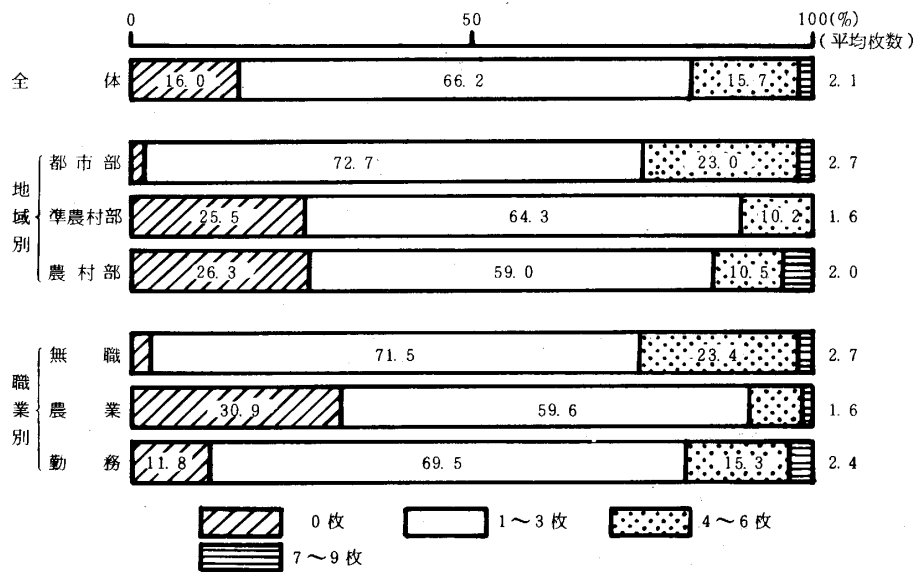


第5図 貸衣裳の利用状況

のみ」22.2%とやはり和服を用意する人が大部分であることがわかる。「全く用意しない」と答えた人はわずか3.6%である。年代別にみると、50代で「和服一揃」が



第6図 結婚仕度品としての和服の調達



第7図 洋服の購入枚数（全体、地域別および職業別）

73.0%と多くなっている。「全く用意しない」と答えた人は各年代とも大体同じ位の割合である。地域別では3地域とも大体同じ傾向にある。出雲地区と石見地区を比較した場合、石見地区の方が多少和服を用意したり、しようとする人が多い傾向にあるといえる。

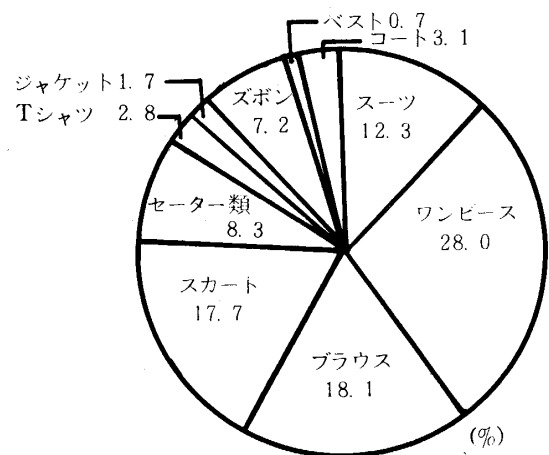
3. 洋服の購入状況

3-1 購入枚数

最近、1年間に購入した洋服の枚数についての全体、地域別および職業別の結果は第7図に示す通りである。全体で見ると、1～3枚購入した人が66.2%と過半数を占めており、購入しなかった人は16.0%である。地域別にみると、都市部で購入枚数1～3枚の人が72.7%、次いで4～6枚の人が23.0%で、約98%の人が購入しているのに比べて、農村部では1～3枚の人が59.0%、4～6枚の人が10.5%と購入枚数は少なく、購入している人の割合も73.7%と少ない。準農村部も大体農村部と同じ傾向がみられるが、平均枚数をみると準農村部が1.6枚で、農村部の2.0枚に比べて少ない。これは準農村部より農村部に7～9枚も購入した人が4.2%あったためと思われる。職業別にみると無職の人が最も多く購入し、購入枚数1～3枚の人が71.5%、4～6枚の人が23.4%を占めている。次いで多いのは勤務の人で、農業の人はそれぞれの購入枚数の割合は少なく、購入しない人の割合も30.9%と他に比べて多い。これは社会的、経済的要因ばかりでなく、余暇時間の有無も影響しているものと思われる。年代別にみると高年齢になるにしたがって購入しない人が多くみられ、それぞれの購入枚数の割合も少なくなっている。

次に、服種別購入割合をみると第8図のようになり、

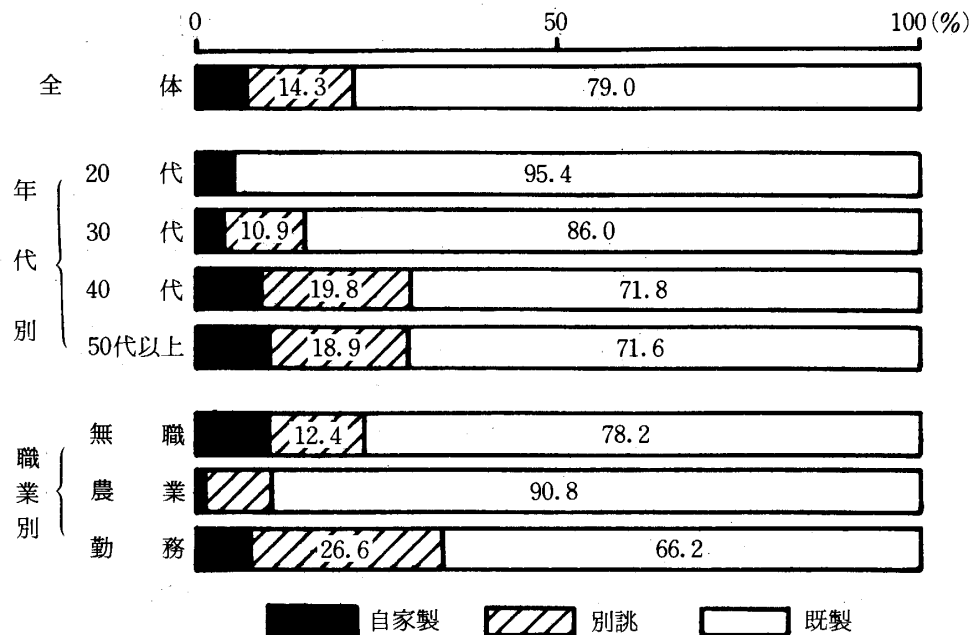
ワンピースが28.0%と最も多く、次いでブラウス、スカートの順になっている。これらの服種は日常着としてだけでなく、外出着にも広く着用されているものと思われる。



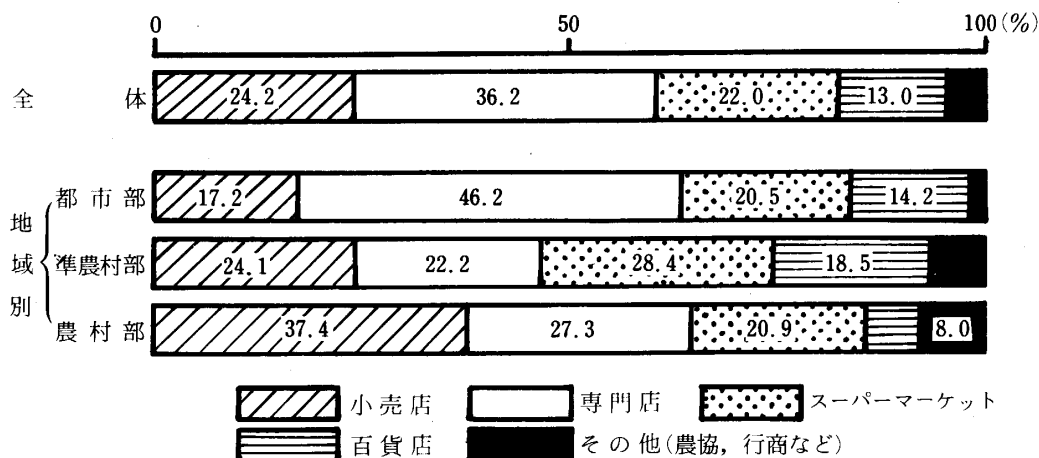
第8図 洋服の購入枚数（服種別）

3-2 調製方法

全体、年代別および職業別の結果は第9図に示す通りである。全体で見ると既製が79.0%と大部分を占めており、別誂14.3%、自家製6.7%である。年代別にみると、高年齢になるにつれて既製は少なくなり、別誂、自家製が増加している。この原因は高年齢になると経済的に余裕ができることや、体形の変化で既製が合いにくくなることなどが考えられる。また、20代では別誂が全くみられず、既製が約95%を占めている。職業別にみると、農業の人は既製が90.8%と最も多く、自家製はほとんどみられない。これは忙しくて自分で作る時間がないことや、既製であれば、すぐ必要なとき着用でき、別誂のように



第9図 洋服の調製方法



第10図 洋服の購入経路（全体および地域別）

仮り縫いなどの手間が省けることなど時間的因子が大きく関係していると考えられる。また、勤務の人は別誂の比率が26.6%と多いのは服装に関心があり、既製だけではサイズやデザイン面で満足できない人もあるためと思われる。

3-3 購入経路

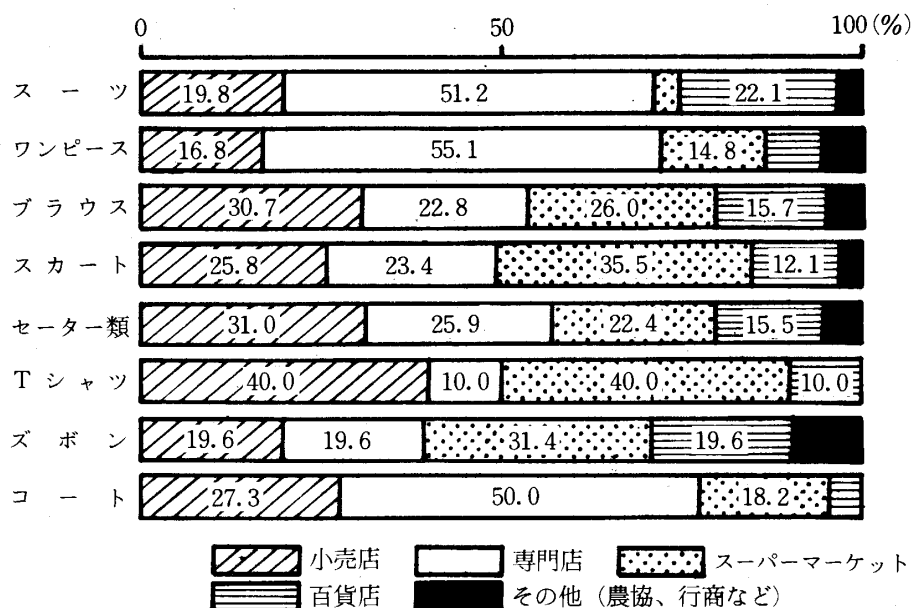
全体および地域別の結果は第10図に示す通りである。全体でみると専門店36.2%、小売店24.2%、スーパーマーケット22.0%の順で、百貨店が13.0%で第4位を占めている。地域別にみると、都市部で専門店46.2%が最も多いのに比べて、準農村部ではスーパーマーケット28.4%、専門店22.2%の順である。農村部では小売店の占める割合が37.4%と最も多く、次いで専門店、スーパーマーケットの順になっている。また、百貨店の占める割合

が農村部で6.4%と少ないのは近くに百貨店がないことや、忙しいことも原因しているものと思われる。それに比べ準農村部で百貨店が18.5%と多いのは交通の便がよいことなどが考えられる。年代別には余り差がみられなかった。

次に、服種別購入経路をみると第11図のようになり、スーツ、ワンピース、コートは専門店で購入する人が50%以上を占めて多く、スーパーマーケットで購入する人は少なくなっている。スーパーマーケットではTシャツ、スカート、ズボン、ブラウスが多く購入されている。なかでも、Tシャツは小売店とスーパーマーケットで80.0%を占め、専門店や百貨店はきわめて少ない。

3-4 購入動機

全体および年代別購入動機の結果は第8表に示す通り



第11図 洋服の購入経路（服種別）

第8表 洋服の購入動機（全体および年代別）

(%)

購入動機 区 分	計 画的 に 買 う	必 要 に せ ま ら れ て	季 節 の 変 り 目 に 買 う	い つ も 同 じ 服 ば か り	流 行 お く れ と 思 っ た	と き 安 い 物 が み つ か っ た	う 町 に 出 た つ い で に 買 う	お 金 が で き た と き	お に 買 う ・ お 盆 ・ お 祭	欲 し か っ た	人 に す す め ら れ て	そ の 他
全 体	4.7	47.0	8.4	4.5	1.6	7.2	14.1	3.2	1.1	5.6	0.6	2.0
20 代	0.9	39.3	15.0	3.7	0.0	1.9	16.8	7.5	0.9	13.1	0.9	0.0
30 代	4.0	44.2	8.5	5.5	1.0	9.1	14.6	3.0	1.0	7.6	0.5	1.0
40 代	6.9	40.9	5.7	4.9	2.0	12.1	15.4	0.8	2.0	3.7	0.8	4.8
50 代 以 上	3.7	59.3	6.8	4.3	1.9	6.2	8.0	4.9	0.6	1.2	1.2	1.9

である。全体では「必要にせまられて」購入する人が47.0%と最も大きな割合を示し、次いで「町に出たついでに買う」14.1%、「季節の変わり目に買う」8.4%の順で、種類の購入動機で買われていることがわかる。また「計画的に買う」人が予想に反して少なく、「町に出たついでに買う」「安い物がみつかったとき」「欲しかった」などの衝動買いと思われるような動機が少なくないことは、今後の衣生活改善に考慮すべき点と思われる。

次に、年代間で購入動機の顕著な差異をみると、「必要にせまられて」は高年令になるにつれて多くみられるのに対して、「欲しかった」は低年令になるにつれて多くみられ、「必要にせまられて」と対応していることが

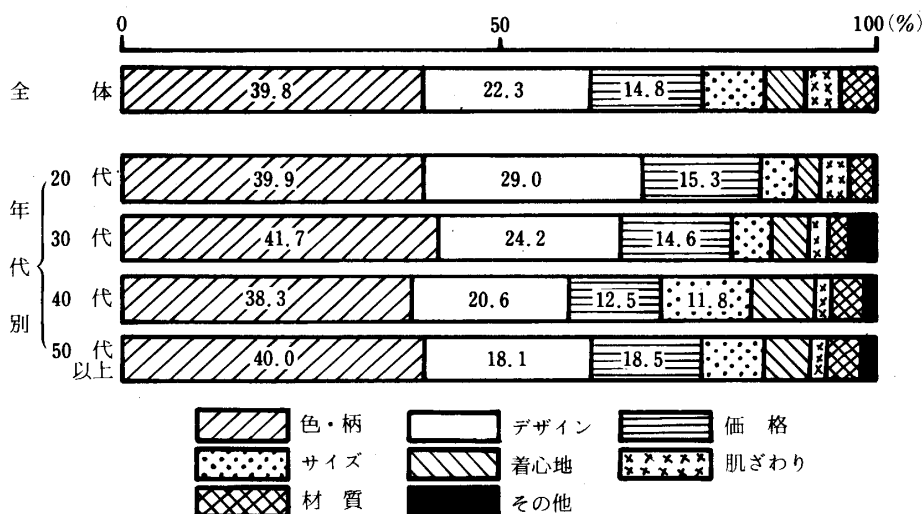
わかる。

地域別および職業別購入動機の結果は第9表に示す通りである。地域別にみると、「計画的に買う」は都市部より準農村部、準農村部より農村部に多い。「お金ができたとき」「欲しかった」は都市部がわずかに多くみられ、準農村部、農村部の順となり、農村部においてはいずれの場合も0%を示している。また、他地域に比べて農村部において、「季節の変わり目に買う」が著しく少なく、「町に出たついでに買う」が目立って多い。職業別では、勤務の人に「必要にせまられて」「町に出たついでに買う」が他に比べて少なくなっている。これは勤務の人は町に出る機会が多いとみられることから、「町に出

第9表 洋服の購入動機（地域別および職業別）

（%）

購入動機 区分		計画的に買う	必要にせまられて	季節の変わり目に買う	いつもの同じ服ばかり	流行おくれと思つたとき	安い物がみつかったとき	町に出たついでに買う	お金ができたとき	祭に買う お正月・お盆・お	欲しかった	人にすすめられて	その他
地域別	都市部	1.7	45.6	10.6	3.1	1.7	7.5	9.7	5.6	0.8	9.2	0.3	4.2
	準農村部	5.6	55.5	10.5	5.0	1.2	5.0	8.7	1.8	1.8	4.3	0.6	0
	農村部	9.5	42.1	2.6	6.9	1.6	8.4	26.9	0	1.0	0.0	1.0	0
職業別	無職	3.4	49.7	8.0	2.5	2.0	6.3	12.3	3.2	1.4	8.3	0.3	2.6
	農業	4.2	48.7	8.2	7.8	1.3	7.8	19.8	0.4	0.9	0.0	0.9	0
	勤務	8.4	37.7	9.8	4.2	0.7	8.4	9.8	7.7	0.7	7.7	0.7	4.2



第12図 洋服の購入ポイント

たついでに買う」ことは少ないのであろう。また、日頃服装に対する関心も深いことから、必要にせまられる前に何らかの他の動機で購入する人があると思われる。

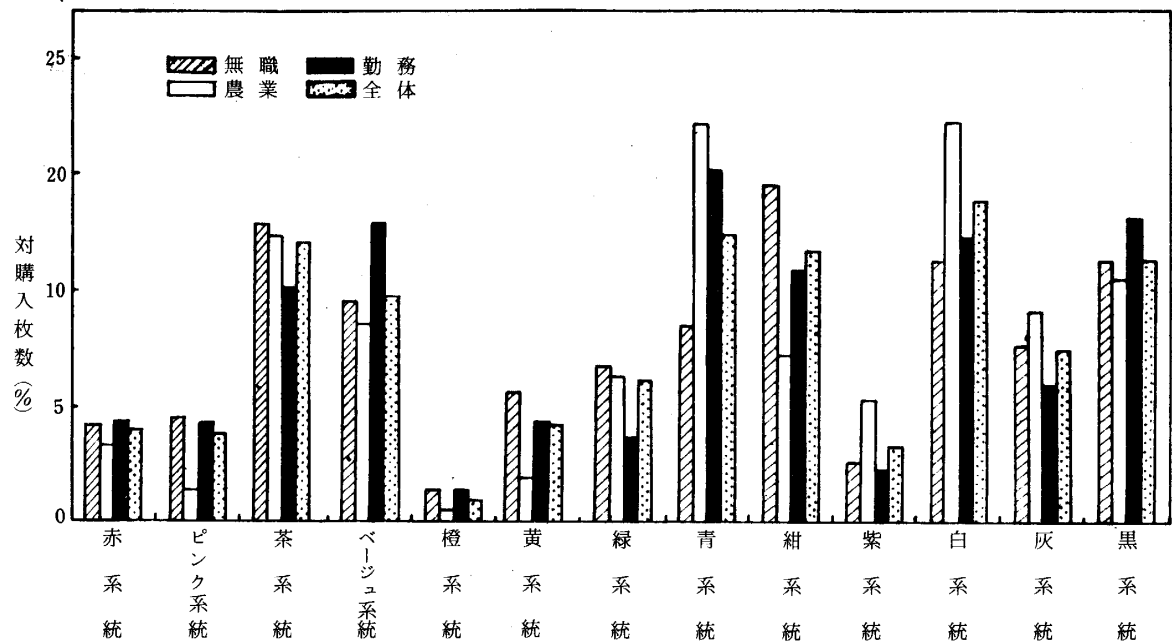
3-5 購入ポイント

全体および年代別購入ポイントの結果は第12図に示す通りである。全体では「色・柄」39.8%が第1位を占め、次いで「デザイン」22.3%、「価格」14.8%である。その他の購入ポイントとして「サイズ」を挙げる人が8.2%、「着心地」6.0%、「材質」4.6%となっている。年代別にみると、「デザイン」を挙げる人が20代で最も多く、高年令になるにつれて少なくなっている。これに対して、「材質」の占める割合は高年令になるにつれて増加している。しかし、主な購入ポイントは年令に関係なく、「色・柄」「デザイン」「価格」の順である。地域別に

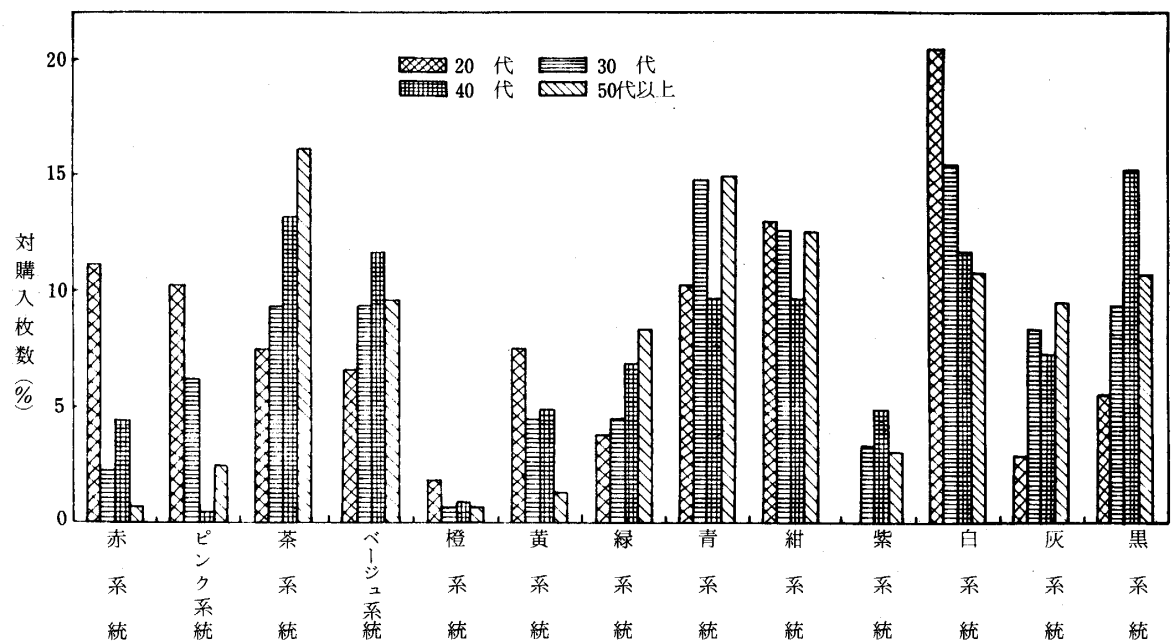
みると、農村部において「デザイン」を挙げる人が他地域に比べて多く、準農村部では「サイズ」を挙げる人が少ない代りに、「着心地」が多くなっていることが目立つ。また、都市部において他地域に比べて「材質」を挙げる人が多いことも特徴といえるようである。職業別にはあまり差がみられなかった。なお、「その他」として洗たくのしやすさを挙げた人は1.8%と極めて僅少であった。

3-6 色

購入した衣服の色を系統別に全体および職業別にした結果は第13図に、年代別の結果は第14図に、服種別の結果は第15図に示す通りである。全体では多く購入される色系統は白、青、茶、紺、黒の順で、橙、紫、ピンク、赤はきわめて少ない。職業別にみると、農業の人は白系



第13図 購入した洋服の色系統（全体および職業別）

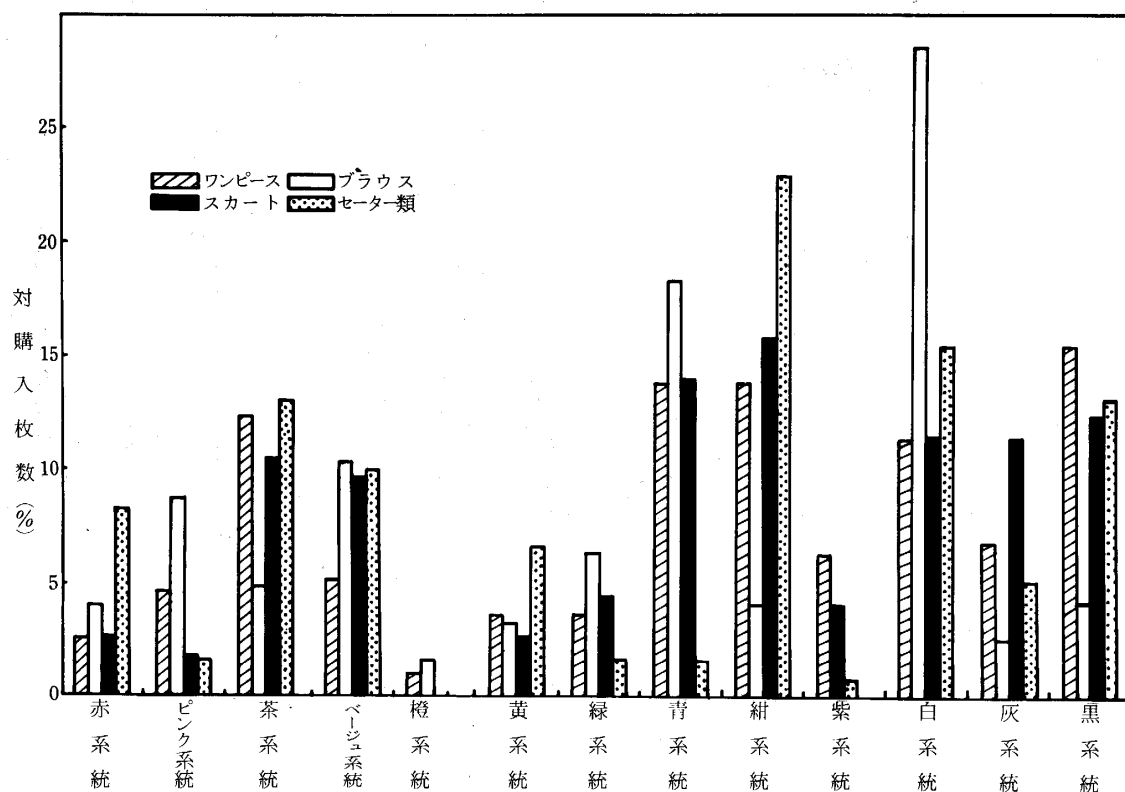


第14図 購入した洋服の色系統（年代別）

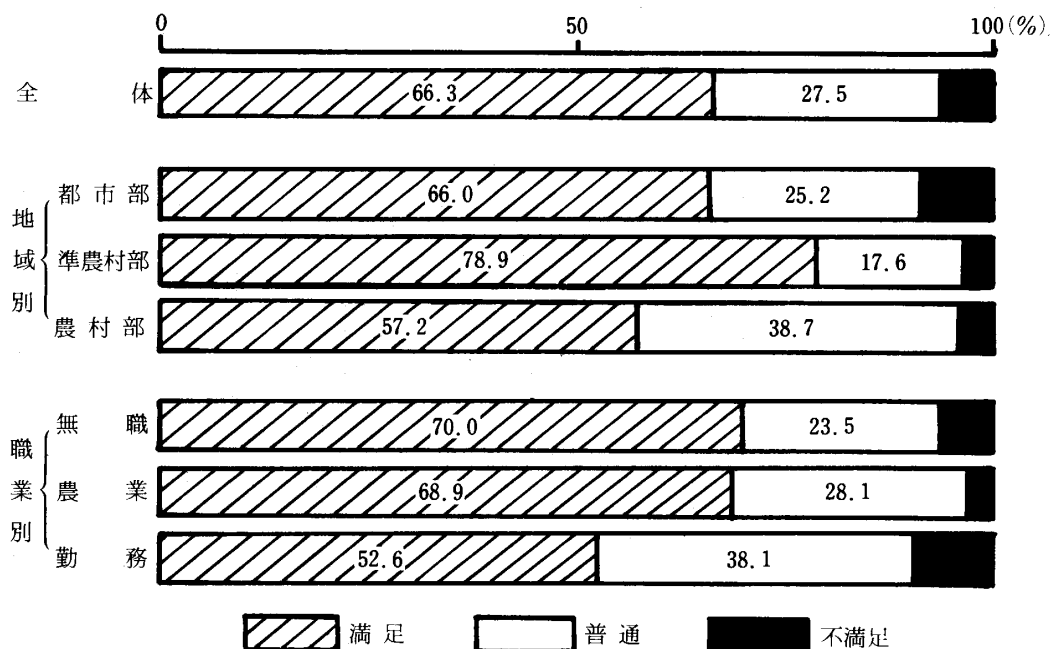
統の色を多く購入し、ピンク、黄、紺系統の色は他の職業の人に比べて少ない。また、無職の人は紺を多く購入している。しかし、茶、ベージュ、黒、灰の各色系統はいずれの職業の人にも多く購入されており、職業による差はあまりみられない。年代別にみると、年代間に顕著な差異のみられる色系統は白、黒、赤、ピンク、茶で、なかでも赤、ピンク、白は20代に多く、茶、黒は高年令に多くみられる。地域別では、職業別における農業の人と同様に農村部に白系統が多くみられ、紺、ベージュ、ピンクの各色系統は都市部、準農村部に比べて少ない。

都市部には茶、ベージュ、紺系統が多く購入されており、青、白、紫の各色系統は少ない。

服種別にみると、服種間に差がみられる色系統は白、紺、茶、青である。白はブラウス、セーター類に多く、紺はセーター類、スカートに多い。青系統の色にはブラウスが多く、紺系統のブラウスは他の服種に比べて少ない。ワンピース、スカートには青、紺、茶が大体同じ割合で多く購入されている。また、灰、ベージュの色系統はスカートに多く、ピンク、紫の色系統はブラウスやワンピースに多い。



第15図 購入した洋服の色系統（服種別）



第16図 既製服の着用感

3-7 既製品の着用感

全体、地域別および職業別の結果は第16図に示す通りである。全体では、既製服は不満が6.2%ときわめて少ない。これは最近の既製服が、デザインやサイズの種類が豊富になり、多くの消費者の要求に応じられることや、既製服業界が流通販売機構を拡大したことなどが考

えられる。職業別にみると、不満は僅かであるが勤務に9.3%と他より多くみられ、次いで無職、農業の順になっている。そして、満足は勤務に52.6%と少ない。これは、勤務の人は服装に関心があってサイズやデザインなどで既製品に満足できない人もあると思われる。年代別では、40代に不満9.8%と他に比べて比較的大きな割

合を示した以外に、差はあまりみられなかった。

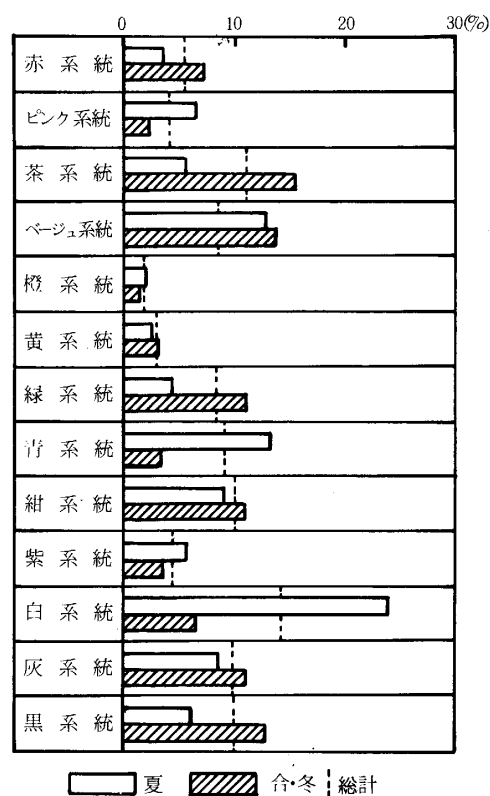
4. 洋服の嗜好傾向

スーツ、ワンピース、ベスト、ブラウス、スカート、セーター類およびジャケットの7種の洋服の中で気に入っているものを1着ずつ、色、柄、服の丈、衿の形、袖の形、スカートの形および流行のとり入れ方の各項目についての回答を求め、洋服の嗜好傾向を調べた。これに対して回答のあった服種はスーツ162着、ワンピース249着、ベスト60着、ブラウス135着、スカート145着、セーター類98着、ジャケット60着であった。

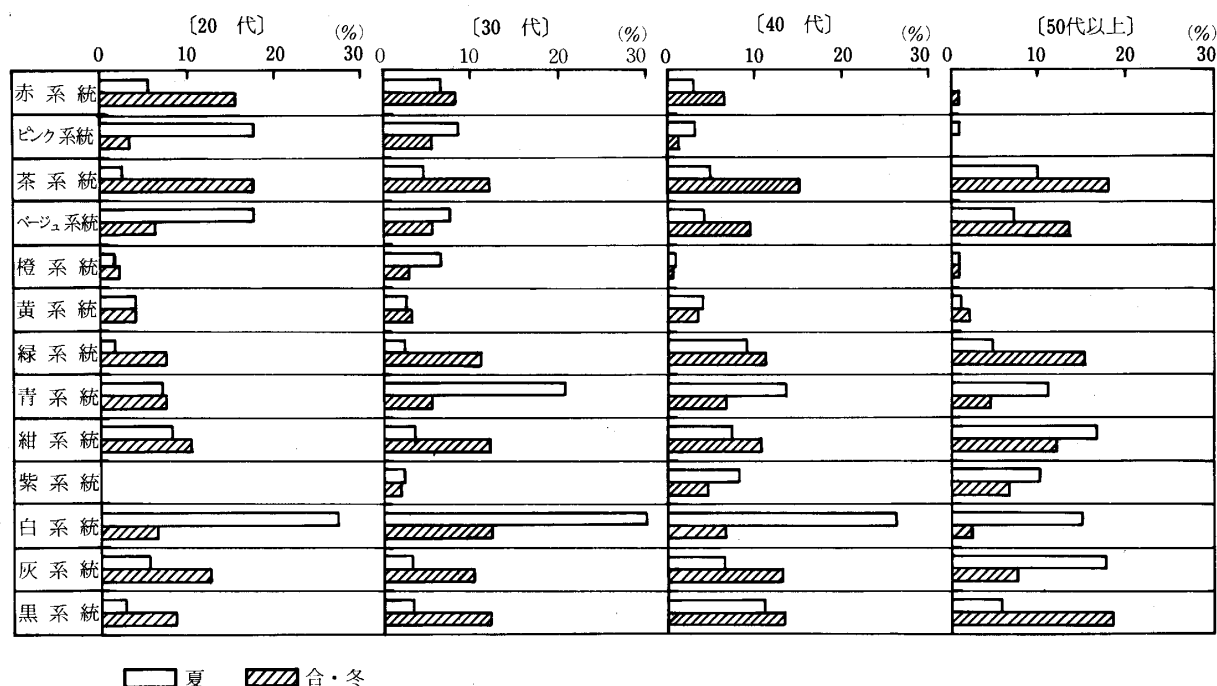
4-1 色

嗜好色を総合的にまとめた結果は第17図に示す通りである。13種の色のうち全般的に好まれる色を多い方から挙げると、白の14.3%をはじめ、茶、紺、黒、灰系統が挙げられ、少ないものは橙系統の1.8%、次いで黄、ピンク、紫系統などである。季節的に大きな差がある色は白、青、黒、茶系統である。なかでも白と青系統は夏は冬のそれぞれ、3倍以上に達し、黒、茶系統は冬が多く夏の2倍以上を占めている。

年代別の結果は第18図に示す通りである。赤、ピンク系統は20代で10%程度あるが、高年令になるほど減少し



第17図 洋服の色の嗜好傾向 (全体)



第18図 洋服の色の嗜好傾向 (年代別)

て50代以上ではわずか1%にすぎない。紫系統は20代で0%，年代の上昇とともに増加して、50代以上では8%を示している。黒、緑系統も高年齢になるほど多くなり、50代以上では20代の約2倍になっている。茶、ベージュなどのアースカラー、青、紺、灰系統は年齢を問わず好まれている。白は20代、30代、40代では最も多く用いられている色であるが、華やかに見えるためか50代以上ではやや敬遠されている傾向がみられる。なお、地域別ではピンク、黄系統は都市部に比べ農村部が少なく、紫系統は農村部が多くなっており、その他はあまり大きな差

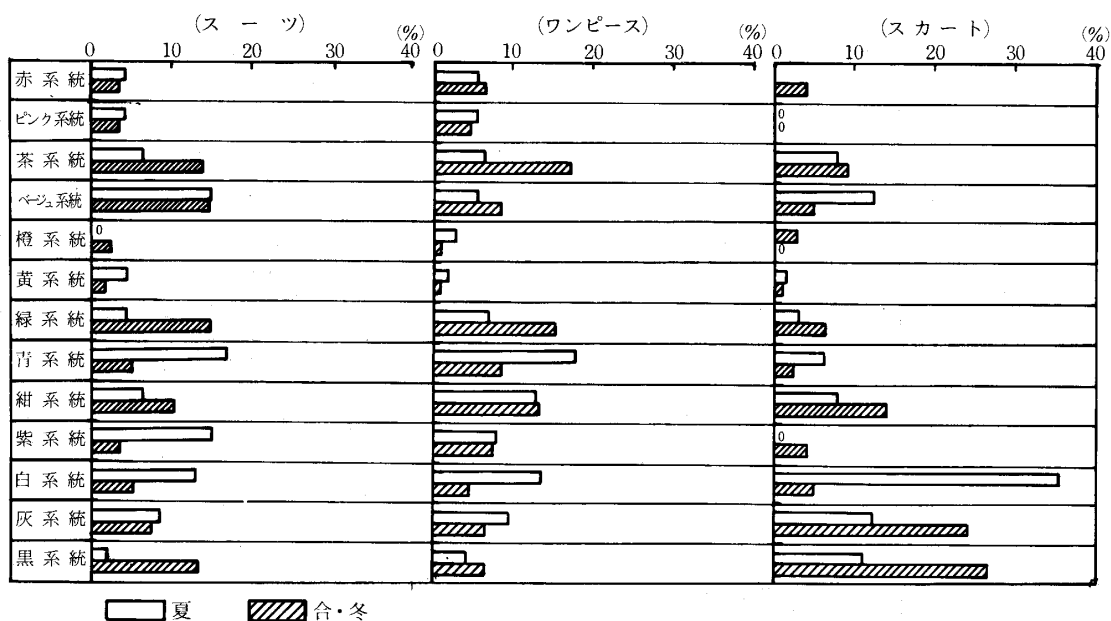
異は認められない。

服種別の結果は第19図および第20図に示す通りである。スーツ、ワンピース、スカートは夏、合・冬別、セーター類、ジャケットは夏物の回答がごく少数だったので、冬物だけについてまとめた。

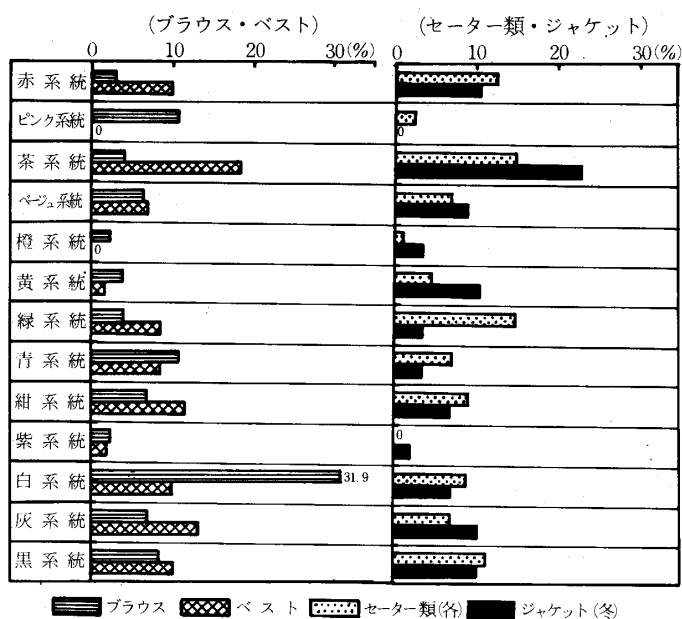
1) スーツ

夏の最高は青系統の17%，ベージュ、紫、白系統がこれに次いで多く、合・冬はベージュ、緑系統の14.8%に次いで茶、紺系統などが比較的多く挙げられている。

2) ワンピース



第19図 洋服の色の嗜好傾向〔服種別(1)〕



第20図 洋服の色の嗜好傾向〔服種別(2)〕

赤、ピンク系統などの華やかな色がスーツに比べてやや増加している。夏に多い色は青系統の17.6%，白，紺系統がこれに次ぎ，冬は茶系統の16.8%をはじめ，紺系統などが好まれている。

3) スカート

夏は白系統が35.4%と全体の半以上を占め，次いでベージュ，灰，黒系統が多い。合・冬は黒の26.3%をはじめ，灰，紺系統がこれに次ぎ，無彩色が目立って多くなっていることがスカートの特徴である。

4) ブラウス

白が31.9%と圧倒的に多く，ピンク，青がこれに次いで10%程度となっている。

5) ベスト

茶系統が最も多く18.5%を占め，灰，紺，赤，黒，白系統などがこれに次いで多くなっている。

6) セーター類

茶，緑，赤，黒系統などが多く，それぞれ12～15%を占めている。

7) ジャケット

茶系統が22.8%と群を抜き，赤，黄，灰，黒系統がそれぞれ10.5%でこれに次いでいる。

4-2 柄

服種別の結果は第21図に示す通りである。無地の多い服種はスカート，セーターなどで80%以上を占め，次にジャケット，ベスト，スーツ，ブラウスと次第に減少し，ワンピースは30.2%と最も少なくなっている。反対にプリントはワンピースが最も多く52.5%を占め，ブラウス，スーツ，スカート，ベスト，ジャケット，セーター類の

順で次第に減少している。チェックはスーツが最も多く14.1%を占め，他の服種は10%以下である。たて縞，よこ縞，斜縞も比較的少なく7%以下である。その他の項目にはボーダー柄，霜降，編込模様などが挙げられている。

年代別では大きな差異は認められず，20代は50代以上に比べて無地がやや多く，プリントはやや減少し，チェック，縞柄類はほとんど差はない。

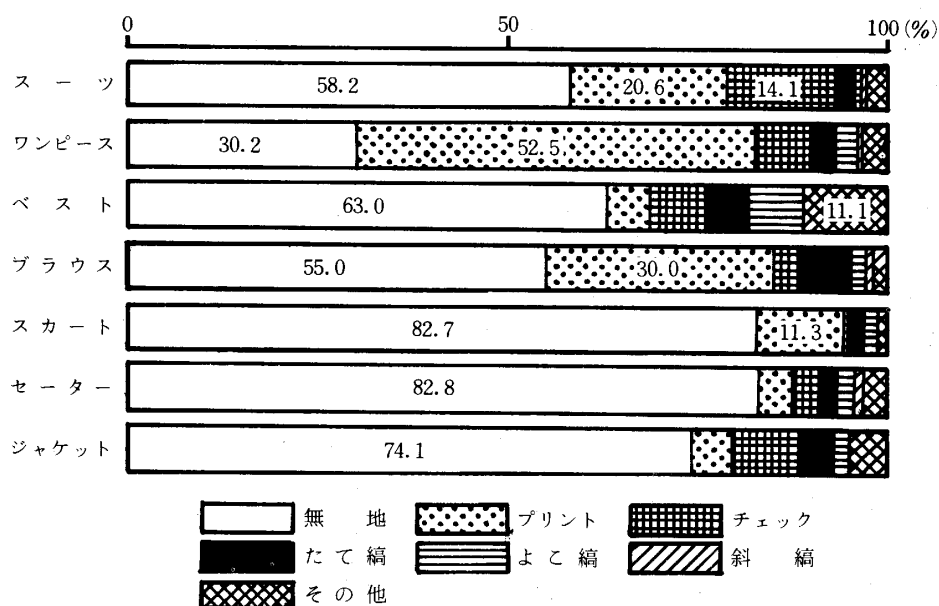
4-3 服の形

スーツ，ワンピース，ブラウス，スカート，セーター類，ジャケットの6種の服を，服の丈，衿の形，袖の形，スカートの形の4つの要素に分けて検討してみた。

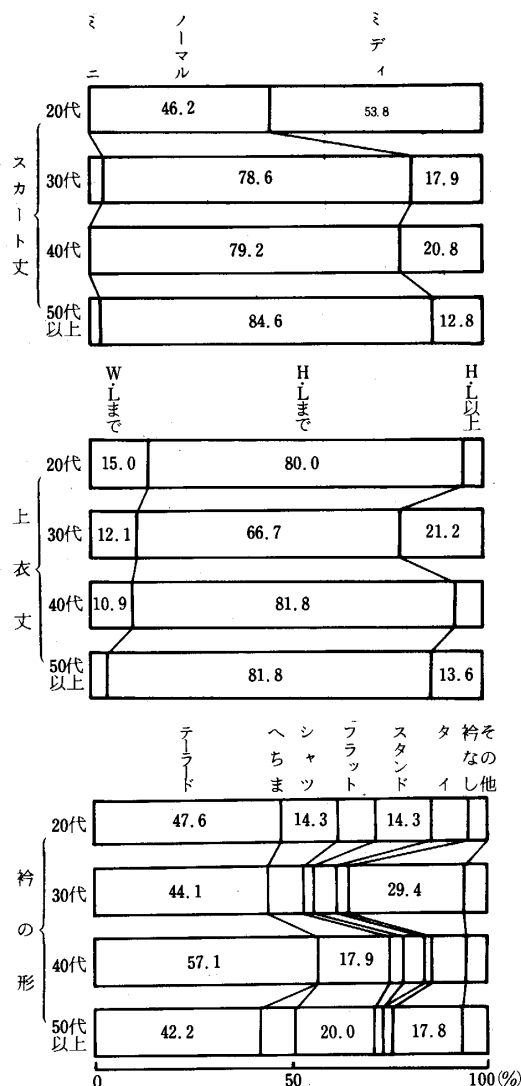
(1) スーツ

年代別の結果は第22図(a)，(b)に示す通りである。スカート丈についてみると，ミニ，ノーマル，ミディのうち，20代ではノーマルが46.2%，ミディが53.8%と，ややミディが多くなっているが，ノーマルは30代で78.6%と急激に増加し，40代で79.2%，50代以上では84.6%と最も多くなっている。ミディは30代になると急に減少し，50代以上では僅かに12.8%となっている。ミニは30代と50代以上にそれぞれ3%前後みられるだけである。

上衣丈は全般的にH・L（ヒップライン）までの長さのものが最も多く，20代，40代，50代以上ではそれぞれ80%，30代だけがやや少なく66.7%となっている。W・L（ウエストライン）までの長さのものは20代で15%，高年令になるにつれて減少し，50代以上で4.5%と非常に少なくなっている。H・L以上の長さのものは30代で21.2%，50代以上，40代，20代の順で減少し，20代では僅かに5%となっている。



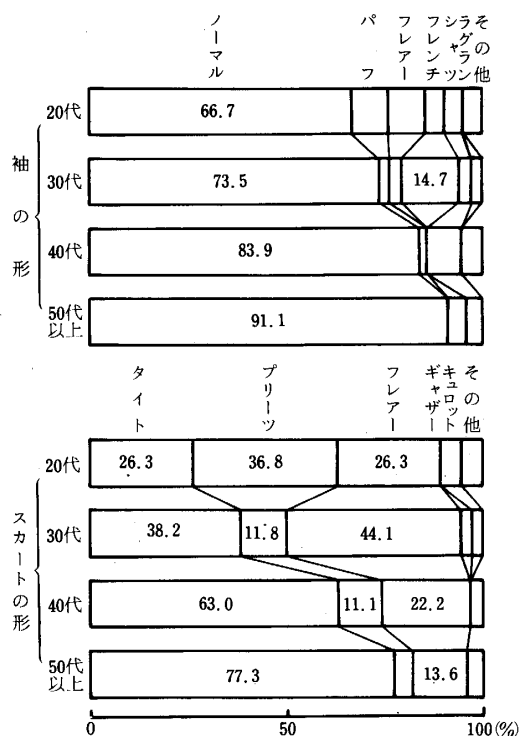
第21図 洋服の柄の嗜好傾向 (服種別)



第22図(a) 洋服の形の嗜好傾向(スーツ)

衿の形についてみると、20代はテラードカラーが47.6%と最も多く、シャツカラー、スタンドカラーが14.3%、その他フラットカラー、タイカラー、衿なしと種々の衿が挙げられている。30代はテラードカラー44.1%、衿なし29.4%で、その他の衿は非常に少ない。40代ではテラードカラー57.1%と各年代のうち最高で、シャツカラー、衿なしがこれに次ぎ、これ以外の衿は非常に少ない。50代以上ではテラードカラー、シャツカラー、衿なしが多く、他の衿はごく少量である。へちまカラーはこの年代だけに現われ8.9%を占めているのが目立つ。

袖の形は全体的にみてノーマルスリーブがほとんどを占め、20代では66.7%、50代以上では91.1%と高年令になるほどその割合が多くなっている。20代ではノーマルスリーブの他にパフスリーブ、フレアスリーブ、フレンチスリーブ、シャツスリーブなどが用いられているが、高年令になるほど袖の形の種類が少なくなり、50代以上



第22図(b) 洋服の形の嗜好傾向(スーツ)

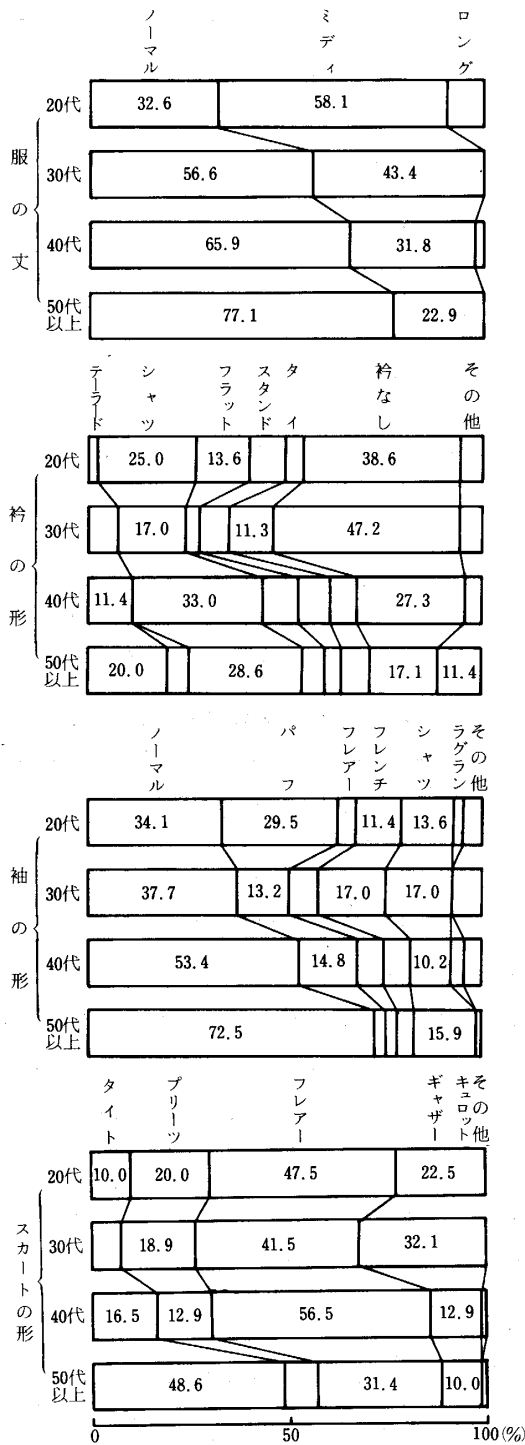
になるとノーマルスリーブ以外はフレンチスリーブとシャツスリーブだけになっている。

スカートの形についてみると、タイトスカートは20代で26.3%で、高年令になるにつれて増加し、50代以上では77.3%を占めている。逆にブリーツスカートは20代の中でも36.8%と最も多く、高年令になるほど減少し、50代以上では4.5%と非常に少なくなっている。フレアスカートは30代で44.1%と最も多く、20代、40代、50代以上の順序で減少している。ギャザースカートは30代で、キュロットスカートは20代、30代でごくわずかず挙げられているにすぎない。その他の項目の主なものはパンタロンである。

2) ワンピース

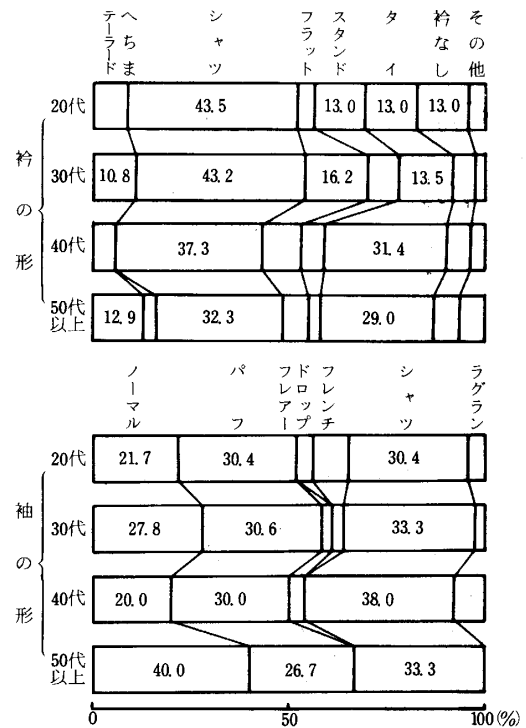
年代別の結果は第23図に示す通りである。服の丈についてみると、ノーマルは20代では32.6%で、高年令になるほど増加し、50代以上では77.1%を占める。反対にミディは20代では58.1%と多く、高年令になるにつれて減少し、50代以上では22.9%となっている。ロングは20代で9.3%、40代は2.3%と、まだあまり好まれていない。

衿の形を全般的にみると、衿なし、シャツカラーが多くみられるが、テラードカラーは20代で2.3%とごく少なく、高年令になるにつれて次第に増加し、50代以上では20%を占めている。一般的な衿と思われるフラットカラーは20代で13.6%、その他の年代では4~9%程度で意外に少ない。

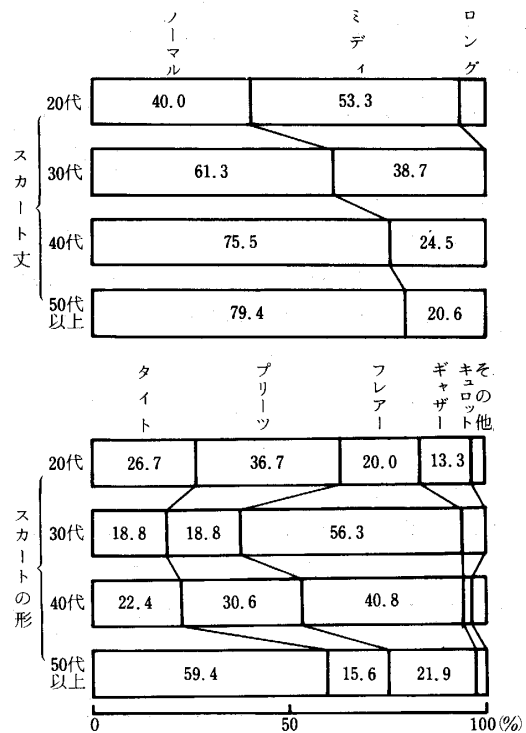


第23図 洋服の形の嗜好傾向(ワンピース)

袖の形をみると、ノーマルスリーブは20代で34.1%で、高年齢になるほど急激に増加し、50代以上では72.5%に達している。パフスリーブは20代で29.5%と多くみられるが、ノーマルスリーブとは逆に30代以上になると急に減少し、50代以上では2.9%と非常に少なくなっている。シャツスリーブでは10~17%程度ではあるが各年代に平均して好まれている。その他フレンチスリーブ、フレアスリーブなども少量ずつ挙げられ、ラゲランスリーブは20代と40代に3%程度みられるにすぎない。



第24図 洋服の形の嗜好傾向(ブラウス)



第25図 洋服の形の嗜好傾向(スカート)

スカートの形は、20代、30代はほぼ同じような傾向で、最も多いのがフレアスカート、次いでギャザースカート、プリーツスカート、タイトスカートの順序になっている。40代ではフレアスカートが56.5%で、各年代の中で最も多くなっている。50代以上ではタイトスカートが48.6%と最も大きな割合を示しており、フレアスカートはこの年代で急に減少して31.4%となり、プリーツ

スカートとギャザースカートは10%以下でごく少なくなっている。

3) ブラウス

衿の形、袖の形を年代別にまとめた結果は第24図に示す通りである。衿の形では、シャツカラーが最も多く各年代とも40%前後を占め、次はタイカラーで、特に高年令では30%前後を占める。その他にテーラードカラー、フラットカラー、スタンドカラー、衿なしなどが少しずつ挙げられている。

袖の形は各年代ともシャツスリーブが35%程度、パフスリーブが30%前後、ノーマルスリーブは20代から40代では20～28%、50代以上で急に増加し40%となっている。フレアスリーブ、ドロップショルダースリーブ、フレンチスリーブ、ラグランスリーブなどは年代によってごく少量あげられている。

ブラウス丈を全体的にみると、H・Lまでの長さのものが約80%、W・LまでとH・L以上の長さのものがそれぞれ10%である。

4) スカート

年代別の結果は第25図に示す通りである。スカート丈は20代ではノーマルが40%で高年令になるにつれて増加し、50代以上で79.4%となり、ミディは20代で53.3%で、年代の上昇とともに減少している。ロングは20代で6.7%みられるにすぎない。

スカートの形は、20代ではスーツのスカートと大体同じ傾向を示しているが、高年令になるとスーツのスカートに比べ、タイトスカートの割合が減少し、プリーツスカート、フレアスカートの割合が多くなっている。これは、これら替スカートは平常着、家庭着として裾幅に余裕のあるものが好まれるためと思われる。

5) ジャケット

服の丈、衿の形、袖の形の全体の結果は第26図に示す通りである。服の丈は、H・Lまでの長さのものが62.3%と最も多く、H・L以上の長さのものが31.1%、W・Lま

での長さのものが僅かに6.6%である。

衿の形をみると、テーラードカラーは62.3%で最高となり、シャツカラー、スタンドカラーが9.8%、ごくわずかではあるがフラットカラー、へちまカラー、タイカラーなども挙げられている。

袖の形はノーマルスリーブが94.8%と大部分を占め、残りはフレンチスリーブとシャツスリーブである。

6) セーター類

服の丈を全般的にみると、W・Lまでの長さのものが12.5%、H・Lまでの長さのものが72%、H・L以上の長さのものが15.4%となっている。

衿の形としては、衿なし67.7%、スタンドカラー18.2%、フラットカラー、タイカラー、へちまカラーはごく少なく2%程度である。

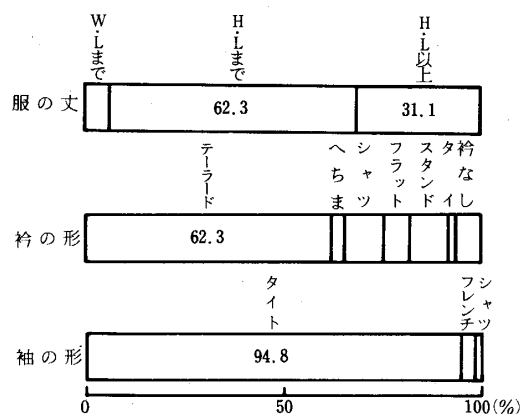
袖の形は90.9%がノーマルスリーブで、残りの9%がラグランスリーブ、シャツスリーブ、パフスリーブなど

第10表 ワンピースのデザインの嗜好傾向

部分の デザイン	衿の形	袖の形	スカートの形	着 数	順 位
1	衿 な し	ノーマルスリーブ	フレアスカート	17	1
2	シャツカラー	ノーマルスリーブ	フレアスカート	15	2
3	テーラードカラー	ノーマルスリーブ	フレアスカート	9	3
4	テーラードカラー	ノーマルスリーブ	タイトスカート	8	4
5	シャツカラー	ノーマルスリーブ	タイトスカート	8	
6	衿 な し	ノーマルスリーブ	タイトスカート	8	
7	シャツカラー	シャツスリーブ	フレアスカート	7	5
8	シャツカラー	ノーマルスリーブ	ギャザースカート	5	6
9	シャツカラー	パフスリーブ	フレアスカート	5	
10	タイカラー	ノーマルスリーブ	フレアスカート	5	
11	ノーマルカラー	ノーマルスリーブ	ギャザースカート	5	

第11表 スーツのデザインの嗜好傾向

部分の デザイン	衿の形	袖の形	スカートの形	着 数	順 位
1	テーラードカラー	ノーマルスリーブ	タイトスカート	36	1
2	テーラードカラー	ノーマルスリーブ	フレアスカート	15	2
3	シャツカラー	ノーマルスリーブ	タイトスカート	15	
4	衿 な し	ノーマルスリーブ	タイトスカート	8	3
5	テーラードカラー	ノーマルスリーブ	プリーツスカート	6	4
6	テーラードカラー	ノーマルスリーブ	パンタロン	6	



第26図 ジャケットの形の嗜好傾向 (全体)

である。

以上、服の形で年代別に共通していることは、スカートの長さは低年齢ほど長くなる傾向にあり、袖の形、スカートの形は20代ではバラエティに富んでおり、高年齢になるにつれてノーマルな形に片寄る傾向がみられる。

次に、ワンピースおよびスーツについて服の形の嗜好傾向を総合的にまとめた。ワンピースのデザインの嗜好傾向は第10表に示す通りである。ワンピースについて、衿、袖、スカートの形の組合せ 59種、185着のうち、5着以上のデザインを抽出した結果、衿なしはノーマルスリーブでフレアスカートの組合せが最も多く、シャツカラーはノーマルスリーブでフレアスカートの組合せが15着で2位であった。第10表に挙げた6位までの11種のデザインの服は合計92着で全着数の $\frac{1}{2}$ を占めている。衿なし、シャツカラー、テーラードカラーにノーマルスリーブ、またはシャツスリーブがつき、フレアスカート、タイトスカート、ギャザースカートなどの無難な組合せのデザインが最も一般的で、多数の人に好まれていることがわかる。

スーツのデザインの嗜好傾向は第11表に示す通りである。スーツ39種、133着のうち、5着以上のデザインを抽出してみると、テーラードカラーはノーマルスリーブでタイトスカートの組合せが36着で全着数の27%を占め最も多くなっている。その他シャツカラー、衿なしにフレアスカート、プリーツスカート、パンタロンなどと

の組合せが多く、袖はノーマルスリーブが大多数占めている。この6種のデザインのスーツが86着におよび、全133着の65%に及んでいる。

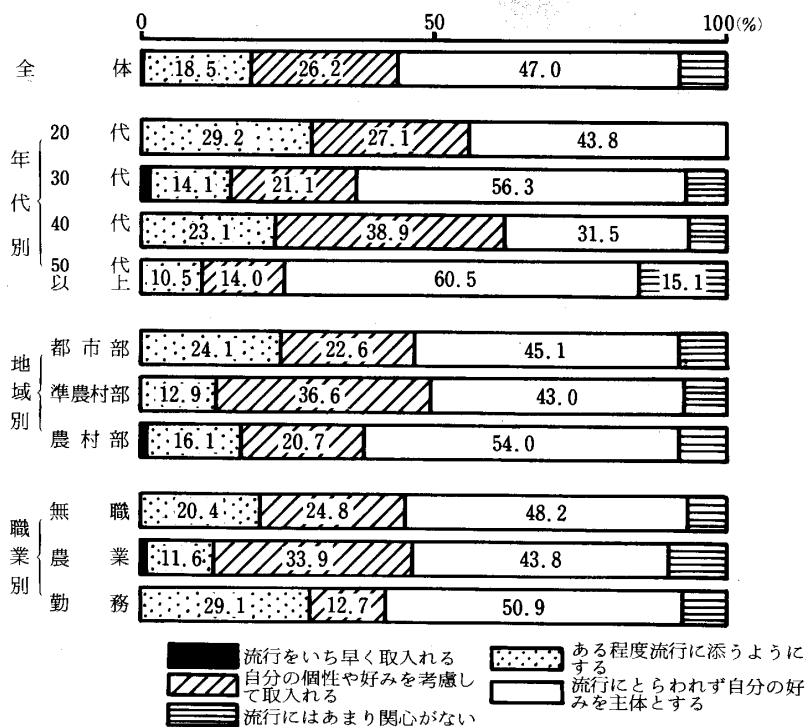
4-4 流行のとり入れ方

全体、年代別、地域別、職業別の結果は第27図に示す通りである。全体では「流行にとらわれず自分の好みを主体にする」が47%と最も多く、次いで「自分の個性や好みを考慮してとり入れる」が26.2%を占め、「ある程度流行に添うようにする」が18.5%、「流行にはあまり関心がない」が8%で、「流行をいち早くとり入れる」が0.3%と最低の割合になっている。

年代別でみると、「流行にはあまり関心がない」という人が20代では全くなく、30代、40代には7%程度、50代以上では15.1%と最高を示している。20代では「ある程度流行に添うようにする」が29.2%で他の年代に比べて最も多くなっている。

地域別でみると、都市部では「ある程度流行に添うようにする」の項目が他の2地区よりやや多く、24.1%となり、農村部は「流行にとらわれず自分の好みを主体にする」の項目が54.0%で最も多くなっている。「流行にはあまり関心がない」という人は3地区とも8%前後であまり差はみられない。

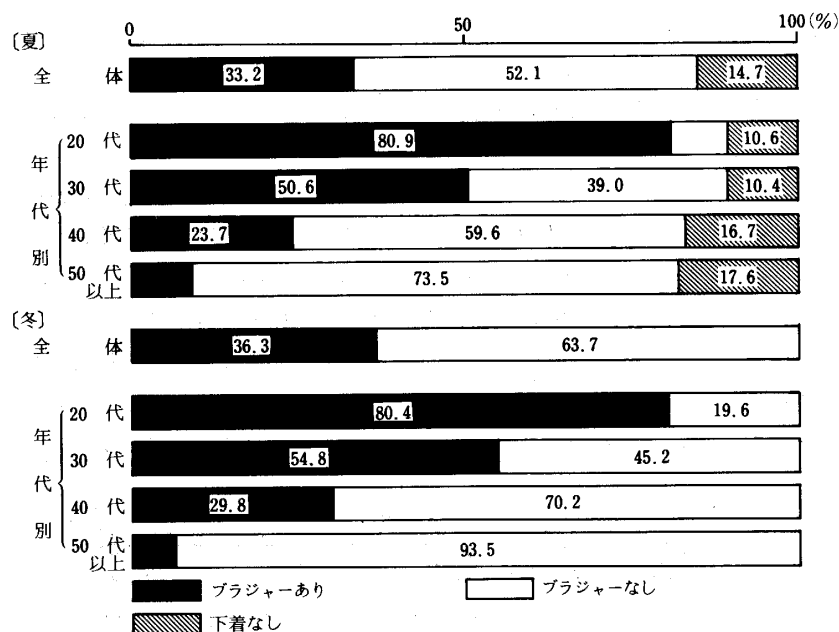
職業別でみると、「ある程度流行に添うようにする」は勤務の人が29.1%と最も多く、無職の人がこれに次ぎ、農業の人は11.6%と最も少なくなっている。「自分の個



第27図 流行の取り入れ方

第12表 夏期・冬期の下着の着用状態

着用状態																				
	① ブラジャー	② ブラジャー＋スリッパ	③ ブラジャー＋シャツ	④ ブラジャー＋シャツ＋スリッパ	⑤ ブラジャー＋スリッパ＋シャツ	⑥ ブラジャー＋ウインタム	⑦ ブラスリッパ	⑧ ブラスリッパ＋シャツ	⑨ ボディースーツ	⑩ ボディースーツ＋シャツ	⑪ ボディースーツ＋スリッパ	⑫ スリッパ＋ブラジャー	⑬ スリッパ＋ブラジャー＋シャツ	⑭ シャツ＋ブラジャー＋スリッパ	⑮ シャツ＋ブラスリッパ	⑯ スリッパ	⑰ スリッパ＋シャツ	⑱ シャツ	⑲ シャツ＋スリッパ	⑳ ウインタム
夏	19.4	6.5	0.3	0.3	0	0	4.4	0.3	1.2	0	0	0.3	0	0.3	0.3	43.5	0.9	6.2	1.5	0
冬	3.9	8.8	10.5	2.6	2.9	0.3	1.6	3.6	0.7	0.3	0.3	0	0.3	0	0.3	9.2	14.7	23.5	12.1	4.2



第28図 下着の着用状況

性や好みを考慮してとり入れる」の項目は農業の人が33.9%と最も多く、「流行にとらわれず自分の好みを主体にする」「流行にあまり関心がない」の2項目は3者とも目立った差異はみられない。

5. 下着の購入と着用

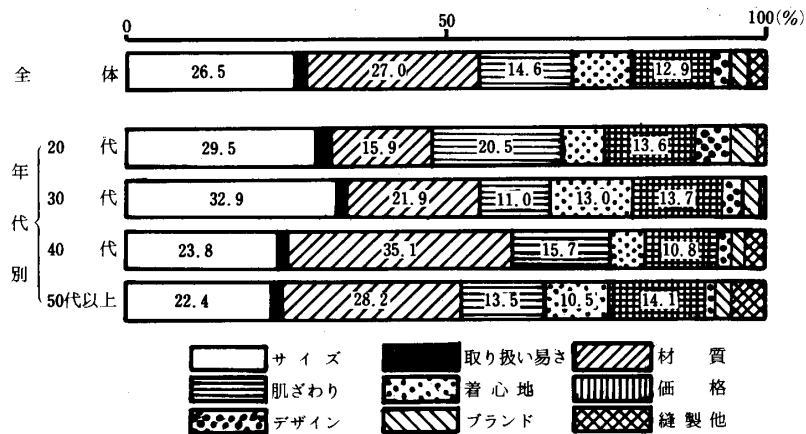
5-1 下着の着用の仕方

夏期・冬期の下着の着用の仕方を調べた結果は第12表に示す通りである。夏期の着用の仕方は15通りあったが、その中で第1位には「スリッパのみ」が43.5%と半数近くを占めており、次いで「ブラジャーのみ」が19.4%である。肌にブラジャーをつけ、その上にシャツを着たものと、肌の上にシャツを着て、その上にブラスリッパなどを重ね着している人はきわめて少ない。また、家庭では夏に「下着を全く着用しない」が14.7%と多く第3位

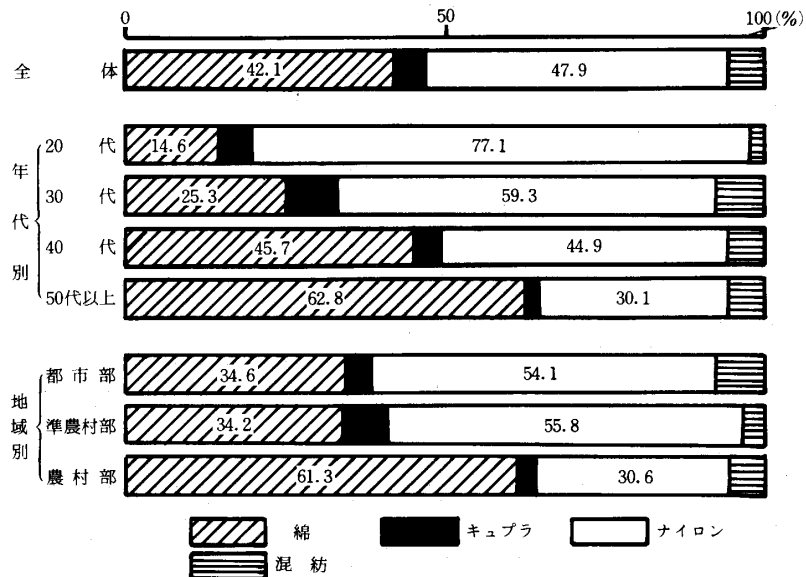
を占めている。冬では、着用の仕方は18通りあったが、第1位は「シャツのみ」の23.5%である。また、シャツの着用は夏とは異って70.8%と著しく増えていることがわかる。

次に全体および年代別のブラジャー着用の有無と下着なしについての結果は第28図に示す通りである。ブラジャーを着用している人（第12表の①～⑭）は全体では夏・冬とも大体同じ割合である。年代別にみると、季節に関係なくブラジャーを着用している人は20代が多く、高年齢になるにしたがってその割合が減少し、ブラジャーを着用していない人（第12表の⑮～⑳）が逆に多くなっていることがわかる。また、夏に下着を着用していない人は高年齢になるにつれて多くなっている。

5-2 下着の購入ポイント



第29図 下着の購入ポイント



第30図 スリッパの素材

全体および年代別の結果は第29図に示す通りである。全体でみた場合、材質とサイズがまず挙げられる。年代別にみると、材質、縫製を挙げる人は高年令ほど多く、肌ざわり、デザイン、ブランド名を挙げる人は20代に多いことがわかる。価格については各年代間に顕著な差はみられない。

5-3 下着の素材

シャツの素材の結果は各年代、各地域とも89～100%の人が綿のものを選択しており、綿との混紡を選ぶ人が若干ある程度である。

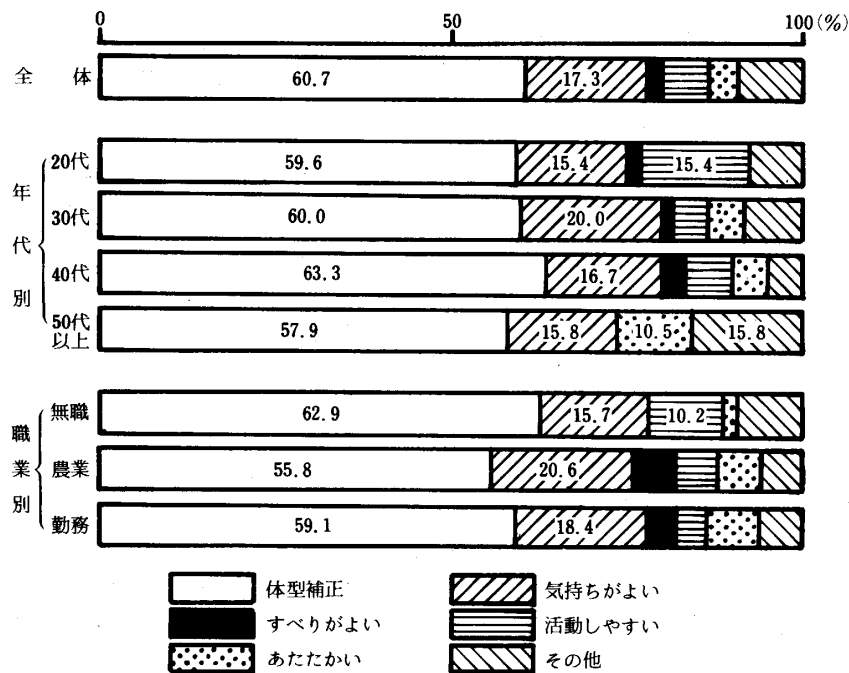
次にスリッパの素材の結果は第30図に示す通りである。全体でみた場合、綿を選ぶ人とナイロンを選ぶ人が同程度を占めている。年代別では高年令になるほど綿を選ぶ人が多くなり、ナイロンは低年令層に多く逆の傾向を示している。地域別にみると、都市部と準農村部は同じ傾向にあるが、農村部では綿が61.3%と多く、都市部と準農村部でナイロンが多いのと逆の結果になっている。

5-4 整容下着

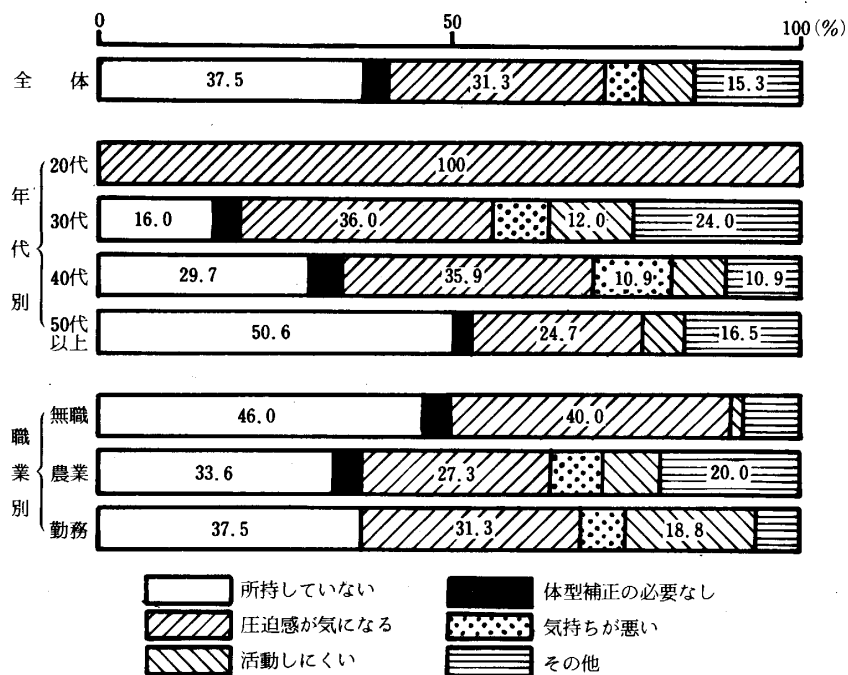
5-4-1 ブラジャーの着用

ブラジャーの着用理由の結果は第31図に示す通りである。全体、年代別および職業別はいずれも「体型の補正」がその理由の過半数を占めている。年代別にみた場合、「活動しやすい」が20代で15.4%を占めているのに対して、50代ではこの理由がみられないのが特徴として挙げられる。職業別にみた場合、「あたたかい」が無職では1.9%と少ないのに対して農業、勤務では多くなっている。

次に、ブラジャーの非着用理由の結果は第32図に示す通りである。全体でみた場合、「所持していない」「圧迫感が気になる」がその主な理由として挙げられる。「その他」としては「面倒である」「習慣である」が主な理由である。年代別にみた場合、20代では「圧迫感が気になる」だけであり、「所持していない」は高年令になるにしたがって多くなっている。職業別にみた場合、「圧迫感が気になる」のは無職に多くみられる。「活動しに



第31図 ブラジャーの着用理由



第32図 ブラジャーの非着用理由

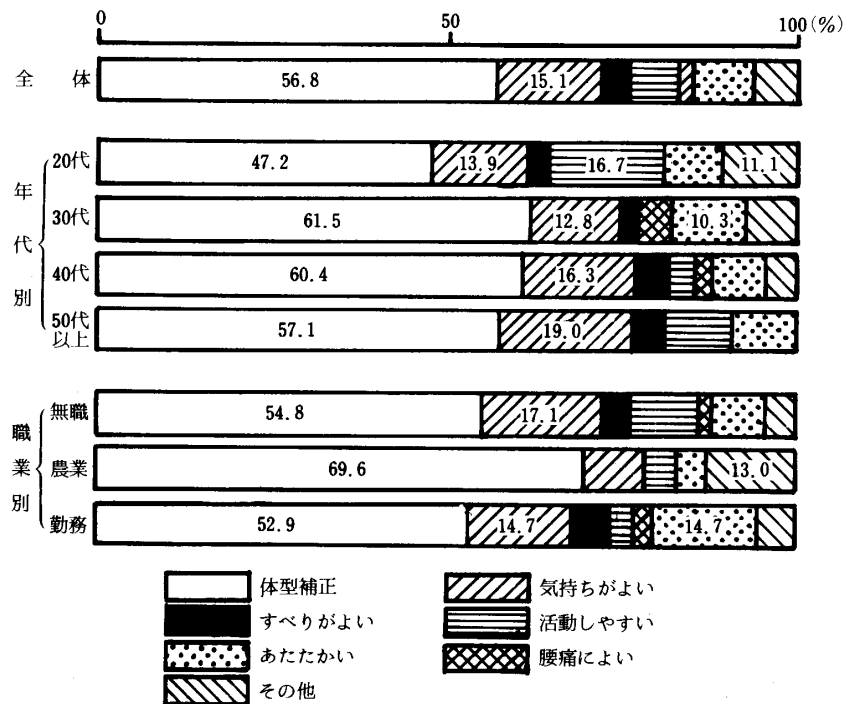
くい」をその理由に挙げている人は無職では2.0%と少ないのに対して、勤務では18.8%と多くなっている。

5-4-2 ガードルの着用

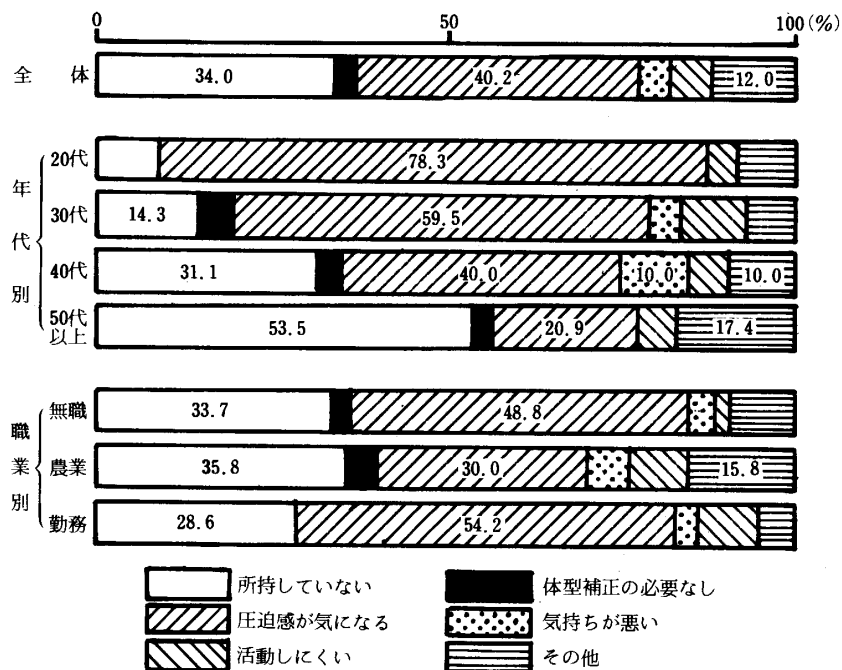
ガードルの着用理由の結果は第33図に示す通りである。全体、年代別、職業別ともに「体型の補正」がその理由の第1位を占めている。職業別にみた場合、「あたたか

い」を挙げている人が勤務の人に多くみられる。

次に、ガードルの非着用理由の結果は第34図に示す通りである。全体では「圧迫感が気になる」が40.2%と第1位を占め、次いで「所持していない」34.0%である。職業別では大差はみられないが、勤務の人に「圧迫感が気になる」を挙げている人が多くなっている。年代別に



第33図 ガードルの着用理由



第34図 ガードルの非着用理由

みた場合、「所持していない」人は高年齢になるにしたがって多くなり、「圧迫感が気になる」人は逆に低年齢層ほど多い傾向となっている。「その他」の理由の主なものはブラジャーと同様「面倒である」「習慣である」が挙げられている。

6 ねまきの所持と着用状況

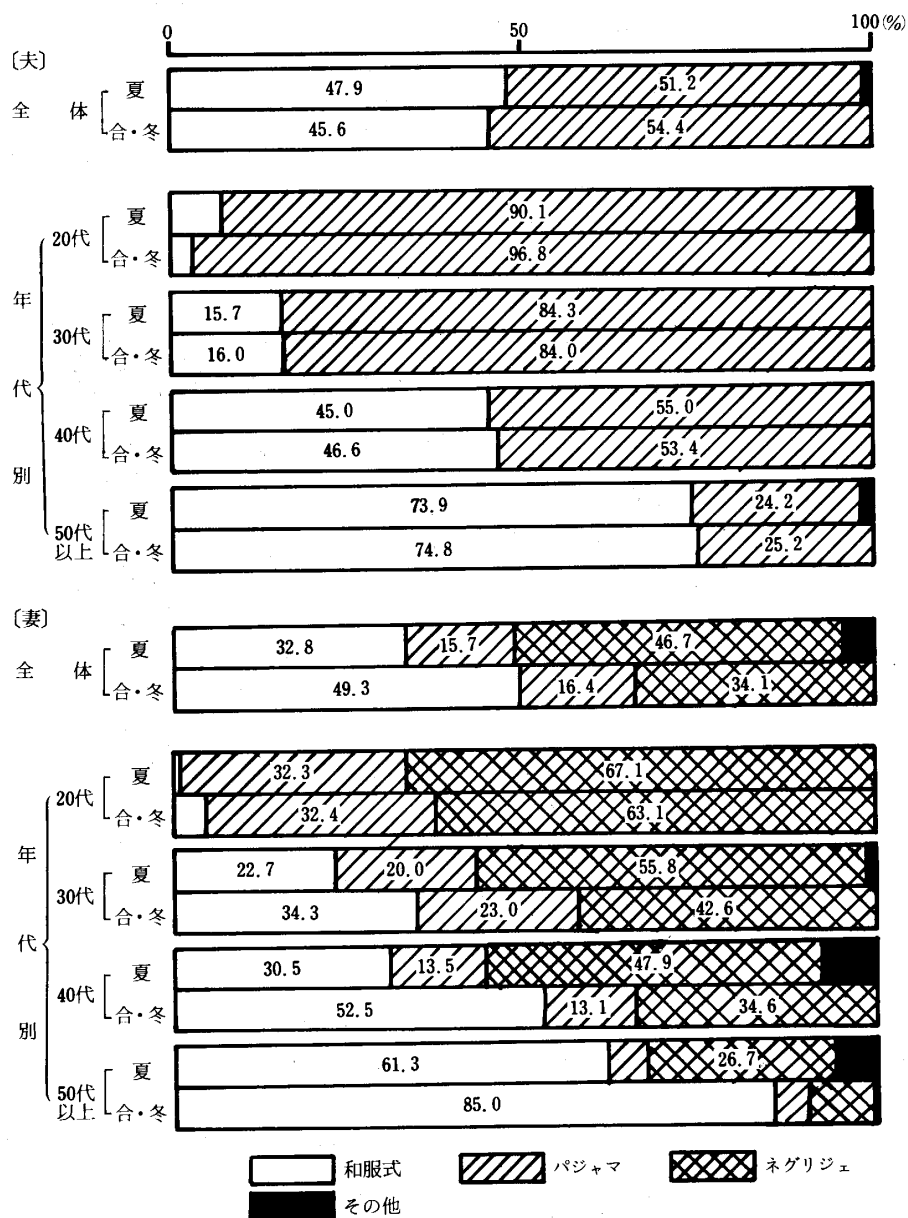
6-1 ねまきの所持数

夫と妻のねまきの所持数について全体および年代別にまとめた結果は第13表に示す通りである。1人当たりの所持数の総平均は夫の場合5.1枚で、その内訳は和服式2.4

第13表 ねまきの所持数（年代別）

（1人当たり平均・枚）

区分	年代 人数 平均・最高・最低	20代			30代			40代			50代以上			全体		
		夫(23), 妻(47)			夫(88), 妻(79)			夫(93), 妻(110)			夫(118), 妻(105)			夫(322), 妻(341)		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
夫	和服式	0.3	2	0	0.8	5	0	2.3	5	0	4.2	10	0	2.4	10	0
	パジャマ	4.8	4	0	3.9	7	0	2.7	5	0	1.4	5	0	2.7	7	0
妻	和服式	0.2	2	0	1.9	6	0	2.4	4	0	4.2	10	0	2.6	10	0
	パジャマ	2.3	5	0	1.4	5	0	0.8	5	0	0.3	3	0	1.0	5	0
	ネグリジェ	4.7	7	0	3.3	5	0	2.4	5	0	1.0	6	0	2.5	7	0



第35図 ねまきの型式別所持率（全体および年代別）

枚、パジャマ2.7枚であった。妻の場合は6.1枚で夫に比べて多く、その内訳は和服式2.6枚、パジャマ1.0枚、ネグリジェ2.5枚であった。これを年代別にみると、和服式は夫の場合、20代で平均0.3枚と最も少ないが、高年令になるにつれて増加し、50代以上では4.2枚所持している。妻の場合も同様の傾向を示している。パジャマは和服式と反対に20代で夫4.8枚、妻2.3枚と最も多く、高年令になるにしたがって所持数は急激に減少している。ネグリジェについても同様の傾向で20代で4.7枚と最も多く、高年令になるにつれて著しく減少している。所持数の地域別比較ではねまきの型式に関係なく、都市部が農村部に比べて若干多い傾向がみられた。

6-2 ねまきの型式別所持率

ねまきの型式別所持率を夏用と合・冬用で全体および年代別にまとめた結果は第35図に示す通りである。夫の場合、全体でみると夏、合・冬の差はほとんどなく、型式別には和服式とパジャマが同程度を占めている。その他は夏に着用しているもので、そのほとんどがじんべいおよびシャツとすててこであった。これを年代別にみると、6-1の所持数でも述べたように、和服式は夏、合・冬を通じて20代は10%未満で少なくて、高年令になるにつれて増加の傾向がみられ、50代以上では約70%に達している。パジャマではこの逆の傾向を示している。

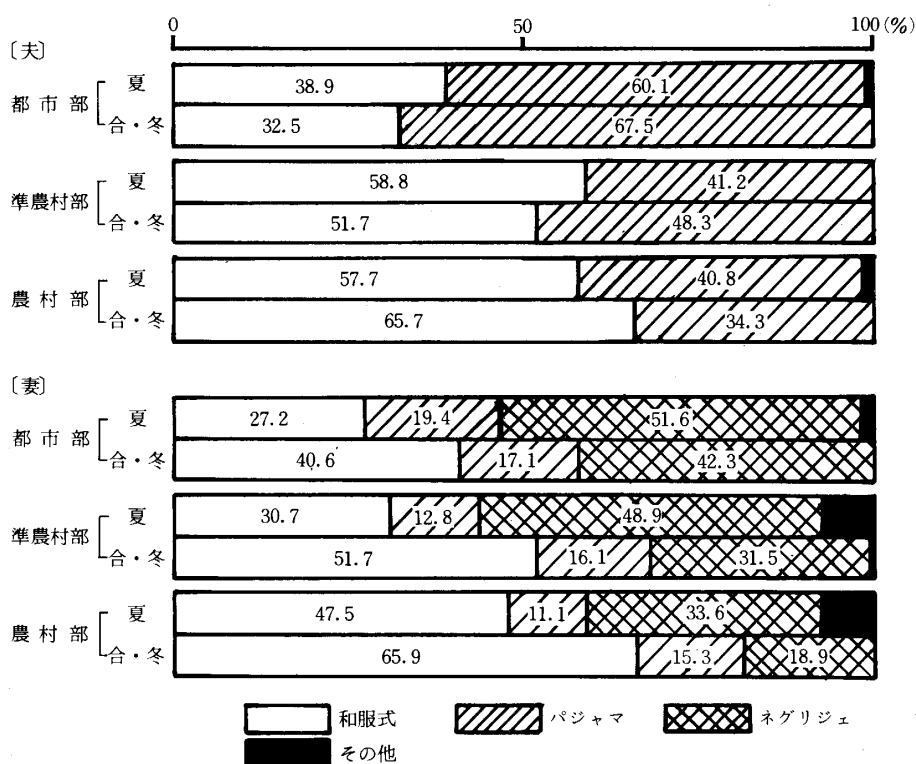
このことから低年令層は洋服式を、高年令層は和服式を好むことがわかる。妻の場合は全体でみると、夏はネグリジェが最も多く、次いで和服式、パジャマ、その他となっている。冬は和服式が最も多く、次いでネグリジェ、パジャマ、その他の順である。また、その他は単服、ワンピースの古くなったものなどが着用されている。このことは夏は洗たくが簡単で涼しい洋服式を、冬は保温性のよい和服式を好んで着用していることを示している。年代別にみると、和服式は夫の場合と同じ傾向を示し、また各年代ともパジャマよりネグリジェが多い。

次に、型式を地域別で比較すると、第36図に示すように、夫の和服式の着用は夏、合・冬を通じ、都市部が最低で準農村部、農村部の順で多くなっている。これは生活習慣の違いによるものと思われる。妻の場合も同じ傾向がみられた。

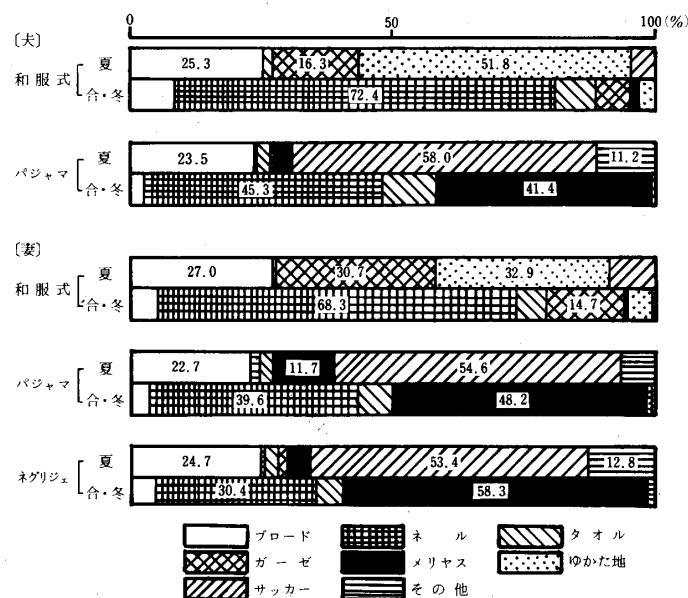
6-3 ねまきの素材と生地

「ねまきの素材は何か」の問に対しての回答を求めた結果は、和服式は95%が綿、その他が合繊（混紡を含む）、パジャマ、ネグリジェについては綿の他に合繊が13%前後を占めていた。

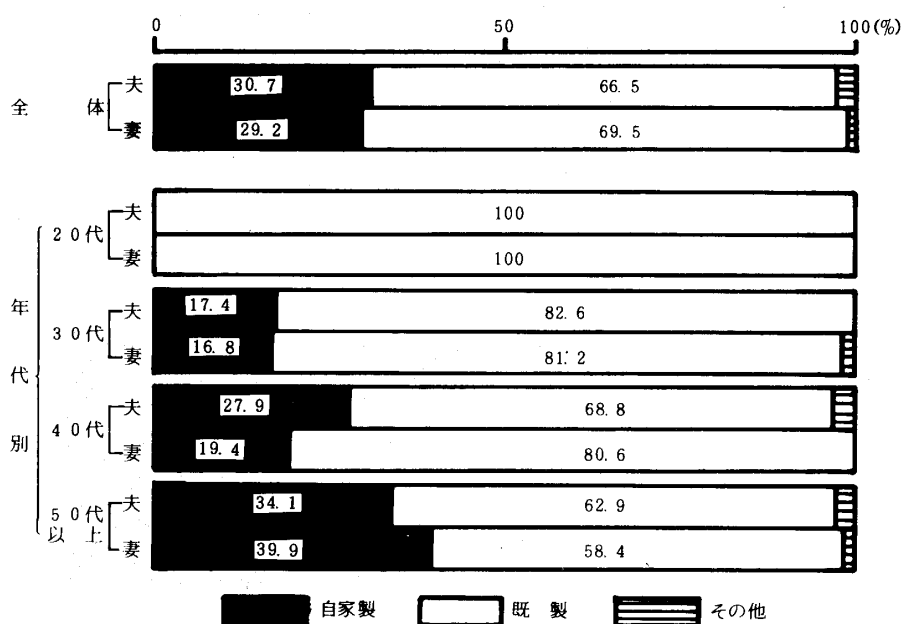
生地については第37図に示す通り、和服式では夏はゆかた地が最も多く、ガーゼ、ブロードがこれに次いでいる。冬はネルが最も多く、次いでブロード、ガーゼの順



第36図 ねまきの型式別所持率（地域別）



第37図 ねまきの生地（全体）



第38図 和服式ねまきの調製方法（全体および年代別）

になっている。パジャマ、 negligee では、夏はサッカー、ブロードが多いが、冬になると逆にメリヤス、ネルが多くなっている。これらのことから、夏は通気性が良く洗たくの簡単なもの、冬は保温性の良いものを選択していることがわかる。

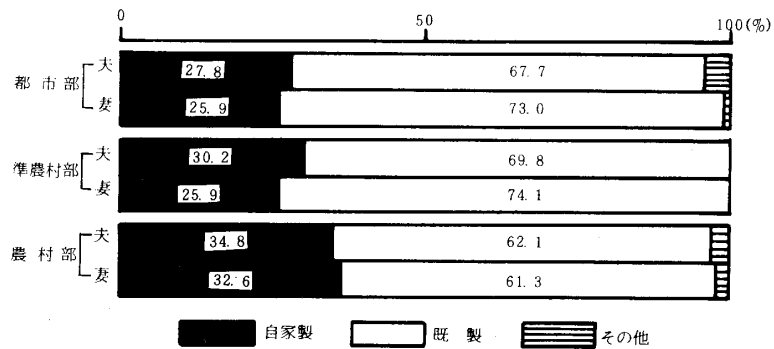
6-4 和服式ねまきの調製方法

全体の結果は第38図に示す通りである。夫の場合は30.7%、妻の場合は29.2%が自家製である。その他の調製方法には、主に誂えのゆかたなどの着古したものをねまきとして使用している人が含まれている。なお、パ

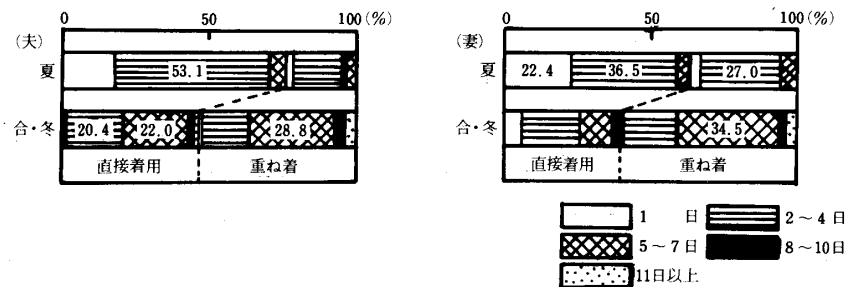
ジャマ、 negligee では自家製はほとんどみられなかった。これを年代別にみると、自家製は20代では全くみられないが、高年齢になるにしたがって増加し、50代以上では4割弱を占めていることがわかる。地域別では第39図にみるように、農村部で他の地域に比べ自家製が多くなっている。

6-6 着用方法および着用期間

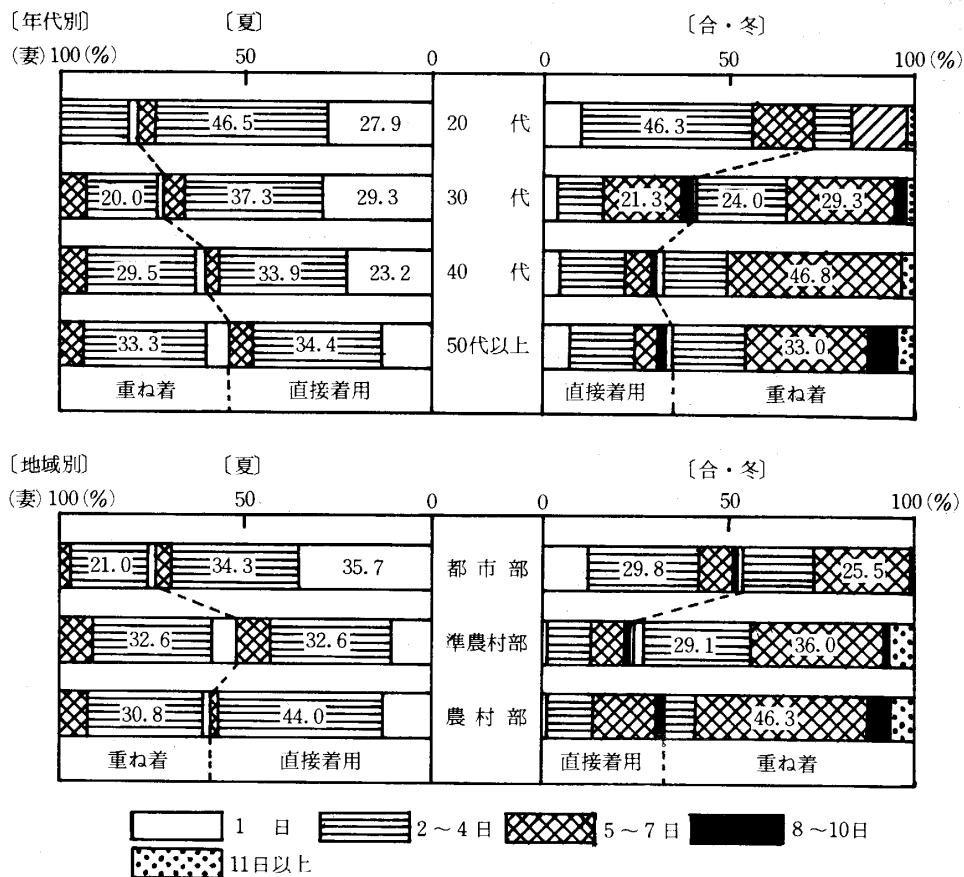
着用方法および着用期間についてまとめてみると第40図の通りである。着用方法は夫の場合、夏はねまきを肌の上に直接着ている人（以下、直接着用と記す）が76.4



第39図 和服式ねまきの調製方法（地域別）



第40図 ねまきの着用方法および着用期間（全体）



第41図 ねまきの着用方法および着用期間（年代別および地域別）

%と多いが、冬は逆に肌着を着た上にねまきを着用する人（以下、重ね着と記す）が23.6%となっている。着用期間においては、夏では直接着用の方は2～4日が53.1%と最も多く、1日の人は17.8%とこれに次いでいる。また、重ね着の方は2～4日が16.5%と多く、5～7日の人がこれに次いでいる。冬は直接着用の方の中では2～4日、5～7日が20%程度と多くなっている。重ね着の方は5～7日が28.8%と最も多く、2～4日がこれに次ぐが、11日以上という人も若干みられた。妻の場合も同じ傾向を示しているが、着用方法としては、直接着用の方は季節を通じて夫の場合より少ない。

年代別および地域別にみた結果は第41図に示す通りである。年代別にみると、妻の場合、直接着用の方は季節を通じて高年齢になるほど減少している。着用期間においては夏に直接着用している人は各年代とも平均して2～4日が最も多く、1日がこれに次いでいる。重ね着の方は20代以外は2～4日が最も多く、5～7日がこれに次いでいる。冬は直接着用の方は30代以外では2～4日が多く、30代では5～7日の人が多くなっている。また、8～10日、11日以上という人も若干ではあるが、高年齢になるにしたがって増加している。これらを地域別にみると、妻の場合、着用方法では夏はいずれの地域とも直接着用の方が多く、その内訳は都市部74.1%、準農村部52.2%、農村部59.2%となっている。冬では都市部は直接着用の方が53.9%と多いが、他の地域は農村部32.6%、準農村部24.4%と少なくなっている。着用期間では夏に直接着用の方は、都市部で1日の人と2～4日の人が35%前後とはほぼ同程度多く、準農村部、農村部では2～4日がそれぞれ32.6%、44.0%と最も多い。重ね着の方は3地域とも2～4日が最も多く、5～7日がこれに次いでいる。冬に直接着用している人は都市部、準農村部では2～4日が多く、それぞれ29.8%、11.6%であり、農村部では5～7日が16.8%と多い。重ね着の方は3地域とも5～7日が最も多い。8～10日、11日以上という人を合せると、農村部に12.6%みられるが、都市部では1.4%しかみられない。夫の場合の年代別、地域別比較は妻の場合とほとんど同じ傾向であった。

7. 作業着の種類

地域別にみた作業をする時の服装は第14表に示す通りである。都市部での作業の内容は家庭園芸、日曜大工、溝掃除などであるから、夫の場合の服装は半数近くが「Tシャツまたはポロシャツとズボン」を挙げている。妻の場合は「ブラウスとスカートまたはワンピース」が49.7%と第1位を占めている。ジーンズの着用者は夫が4.2%、妻12.9%と妻の方が多くなっている。

第14表 作業時の服装

(1) 都市部

作業内容……家庭園芸、日曜大工、溝掃除など

a. 夫

服 装	%
Tシャツまたはポロシャツとズボン	47.2
作 業 服	15.5
トレーニングウェア	12.7
ワイシャツとズボン	12.0
ワイシャツとジーンズ	4.2
そ の 他	8.4

b. 妻

服 装	%
ブラウスとスカートまたはワンピース	49.7
ブラウスとスラックス	17.7
ブラウスとジーンズ	12.9
ブラウスともんぺ	8.2
Tシャツまたはポロシャツとスラックス	5.4
トレーニングウェア	3.4
そ の 他	2.7

(2) 準農村部・農村部

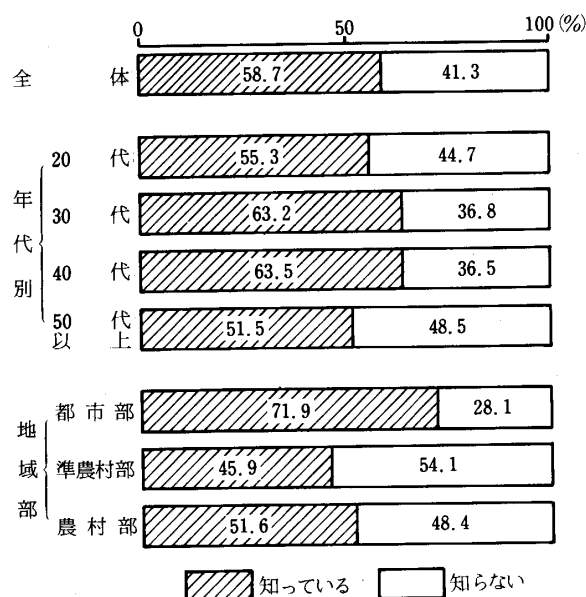
作業内容……農作業

a. 夫

服 装	%
ワイシャツとズボン	54.7
作 業 服	21.4
Tシャツまたはポロシャツとズボン	14.6
トレーニングウェア	2.1
そ の 他	7.2

b. 妻

服 装	%
ブラウスともんぺ	37.4
ブラウスとスラックス	32.6
作 業 服	17.4
Tシャツまたはポロシャツとスラックス	5.3
ブラウスとジーンズ	4.7
そ の 他	2.6



第42図 家庭用品品質表示法

次に準農村部、農村部では夫は「ワイシャツとズボン」が54.7%と第1位を占めている。作業内容は農作業がほとんどであるが「作業服」は21.4%と意外に少ないことがわかる。妻は「ブラウスともんぺ」「ブラウスとスラックス」がだいたい同じ位の割合で多い。また、「もんぺ」の着用者をみると都市部の8.2%に対し準農村部、農村部では37.4%とかなり多くなっている。この調査から服装の年代による差異をみると、もんぺの着用者が高年令に多く、また、ジーンズの着用者は低年令に多いことが指摘できる。

8. 品質表示の活用

8-1 家庭用品品質表示法の認識

家庭用品品質表示法という言葉を知っているかについて調べた全体、年代別および地域別の結果は第42図に示す通りである。全体でみた場合、「知っている」58.7%、「知らない」41.3%である。年代別では、30代、40代では知っている人が60%を越え、多くなっている。地域別では、都市部で71.9%と知っている人が他の地域に比べて多い。






次に、何によって知ったかについての結果は第43図に示す通りである。全体でみた場合「新聞・テレビなど」が43.3%と第1位、次いで「衣料品についているのを見て」27.1%である。年代別にみた場合、「講習・講演会」は高年令ほど多く、20代では「学校」が13.8%と多くっており、学校教育の成果が伺われる。地域別にみた場合、農村部は「講習・講演会」が55.8%と高く、都市部

の3.6%と大きな差があり、農村部ほど講習・講演会を開くなど地域活動が活発なことがわかる。また、農村部では「広報など」「学校」を挙げる人はいなかった。

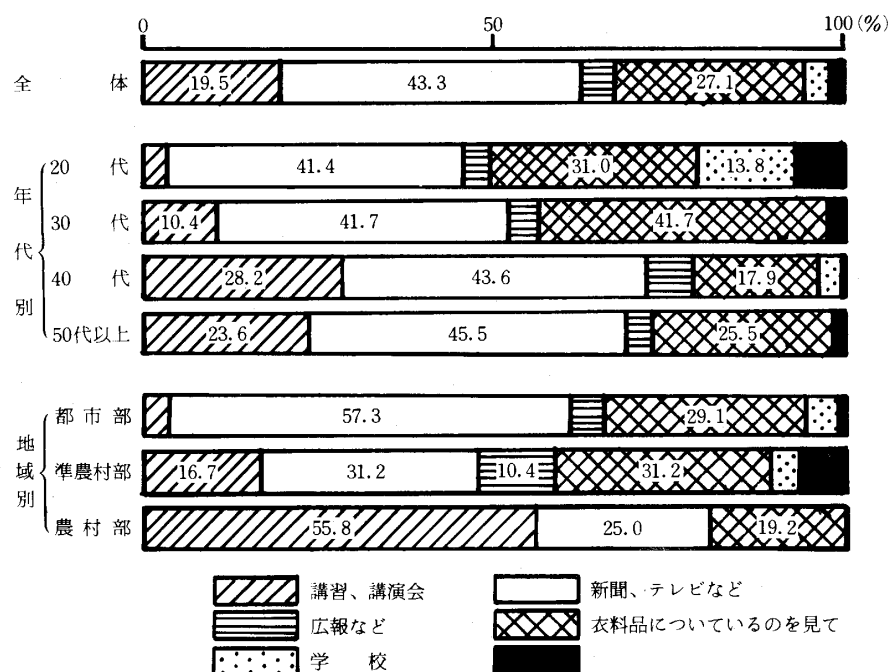
8-2 購入時の品質表示の確認

衣料品を買うとき、どんな繊維でできているか、表示を見るかについて調べた全体、年代別および地域別の結果は第44図に示す通りである。全体でみた場合「必ず見る」「見ることもある」を合わせた数、すなわち、87.6%の人は購入時に表示を見ているといえる。年代別では、50代で「必ず見る」人が少なくなり「全然見ない」人が多くなっている。地域別では、都市部では「必ず見る」が61.6%と高い比率を示しているのに対して農村部では28.4%と低くなっている。

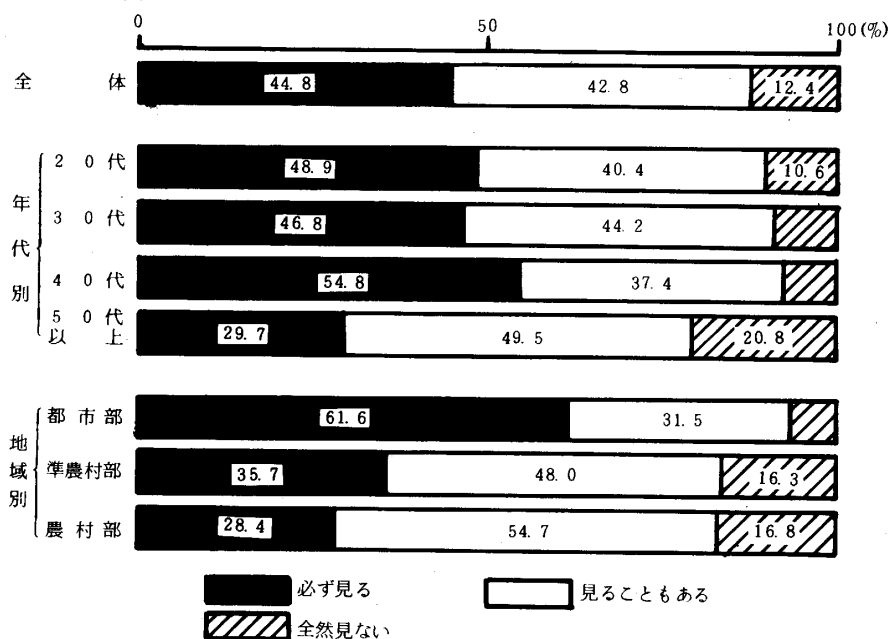
8-3 取扱い絵表示に対する理解度

記号別にみた理解度は第15表に示す通りである。この中で正しく理解されている割合の多かった記号は、とである。を除いた記号は、すべて過半数が理解されていないことがわかる。記号について、不完全な理解が53.3%と第1位を占めているのはあて布のの意味が解読されなかったためで、「アテ布」と語句で下に示すなどの改善が望まれる。他の記号についてはそれぞれ表示の中の語句の意味が何をあらわすのか明確に解読できなかったためである。

次に、この6種の絵表示についての理解の程度を全体、年代別および地域別に示すと第45図の通りである。全体でみた場合、記号すべてに無関心または誤った理解をし



第43図 家庭用品品質表示法を知った理由

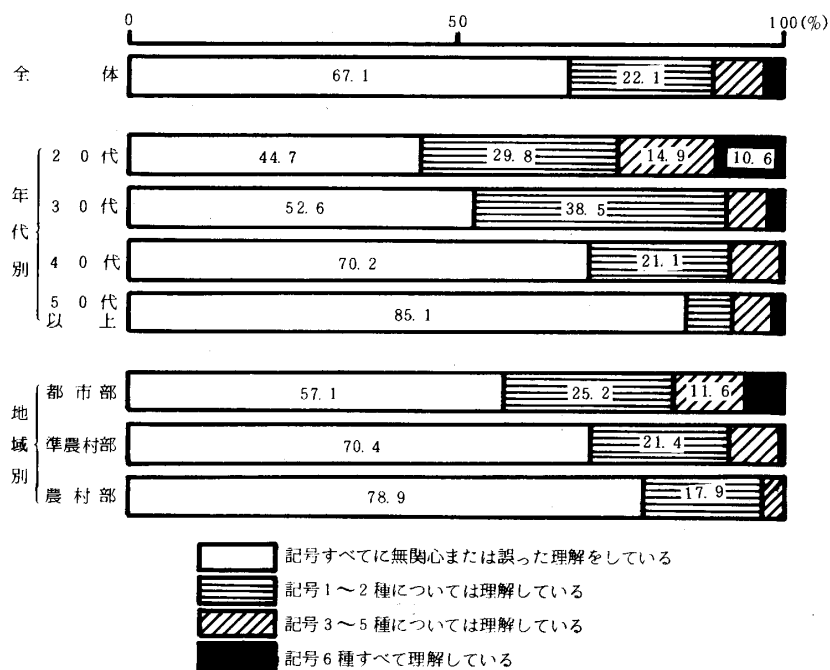


第44図 衣料品の購入時の表示確認

第15表 表示記号別理解度

(%)

理解度 \ 記号	58 30 中性	エソシ	中	ドライ セキユ糸	ヨウワ	平
正しく理解	10.6	17.9	7.6	6.8	20.9	9.7
不完全な理解	33.2	17.4	53.3	30.0	22.0	25.0
無理解	56.2	64.7	39.1	63.2	57.1	65.3



第45図 取り扱い絵表示の理解度

ている人が67.1%と過半数を占めている。記号6種すべて理解している人はわずかに2.9%である。年代別にみると、記号すべてに無関心または誤った理解をしている人が高年齢になるにしたがって急激に多くなっている。記号6種すべて理解している人は20代では10.6%と他の年代に比べて多くなっているが、これは学校教育の浸透の成果とみることができよう。地域別にみると、準農村部、農村部では都市部に比べて記号すべてに無関心または誤った理解をしている人の割合が多い傾向にある。記号6種すべて理解している人は都市部で6.1%であるのに対して準農村部では3.6%、農村部では0%と都市部から離れるにつれて理解度が少ない傾向となっている。

8-4 衣料の品質表示に関する不満について

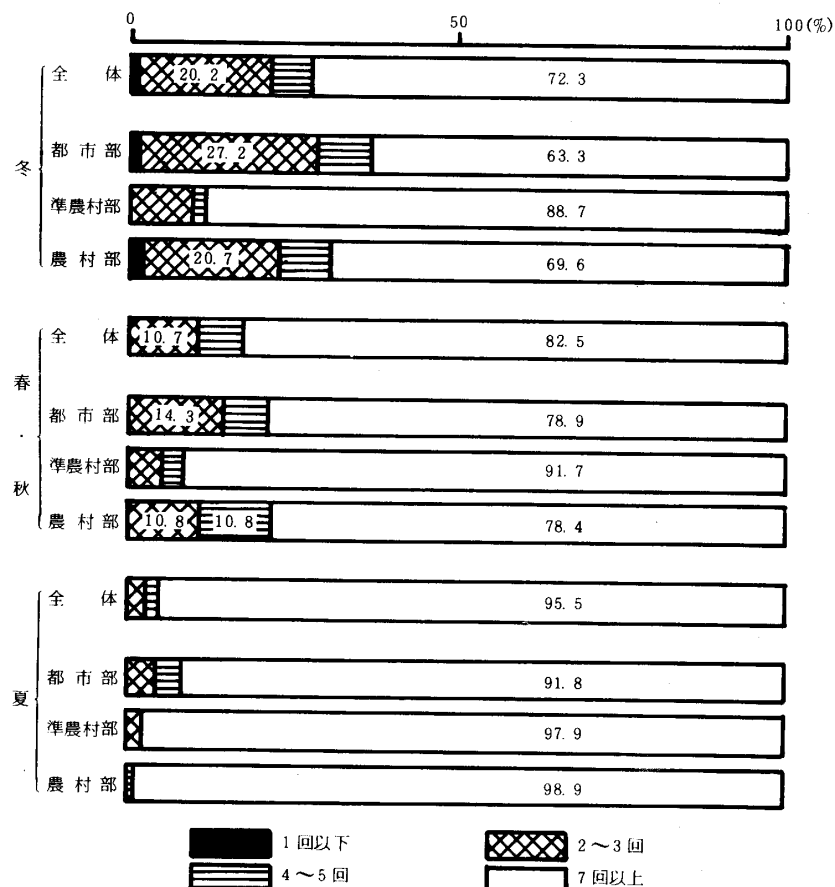
全体でみた場合、不満を感じた経験者は17.4%であり、経験していない人は82.6%である。年代別、地域別の明確な差異は認められない。

次に、示された不満の具体例は第16表に示す通りであり、大別して「組成表示に関するもの」14件、「サイズ表示に関するもの」11件、「取扱い絵表示に関するもの」5件であった。本調査から品質表示について何らかの不

第16表 示された不満の具体例

類別	件数	例
組成表示に関するもの	14	<ul style="list-style-type: none"> 毛100%表示のセーターに毛玉が目立った 綿100%表示のブラウスでも吸湿性が悪かった
取扱い絵表示に関するもの	5	<ul style="list-style-type: none"> ドライクリーニングの表示品でも水洗たうができる 手洗い表示品が手洗いで収縮した
サイズ表示に関するもの	11	<ul style="list-style-type: none"> メーカーによってS, M, Lや号数がまちまちだ 特価品のサイズ表示は信用できない

満や不信感を持った経験者が約2割示されたが、この割合は、品質表示に対する関心度が高まるにつれてさらに多くなることが推測される。



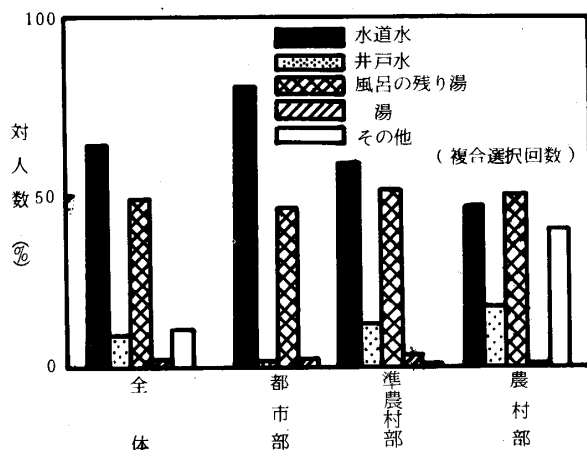
第46図 洗たく回数（全体および地域別）

9. 家庭洗たくの実際

9-1 洗たく回数と用水

冬期，春秋期，夏期における洗たく機を使つての洗たくを週何回位行なうかを全体および地域別にみた結果は第46図の通りである。一週間に7回以上洗たくする人は夏期が最も多く，春秋，冬の順となっており，夏期には96%，冬期でも72%の人が毎日洗たくしている。しかし，冬期には週1回かそれ以下の人が1%ほどみられた。地域別にみると，都市部が準農村部，農村部に比較して毎日洗たくする人の割合が少ないことがわかる。職業別の結果を示すと第47図の通りである。各時期とも毎日洗たくする人の割合は，無職が農業，勤務に比べて少なく，その差は冬期に著しい。夏期にはいずれの職業の人も96%以上の人が毎日洗たくしていることから，洗たく回数は農業や勤めによって衣類の汚れる機会の多いことと密接な関係があるものと考えられる。また，年代別では一般に低年齢の人が高年齢の人よりも毎日洗たくする人が多い傾向を示した。

次に，洗たく用水は何を使っているかを全体および地域別にみた結果は第48図に示す通りである。ここで「その他」はわき水，山水等である。都市部では水道水の利用がほとんどであるが農村部では井戸水，わき水等の使用割合が非常に多くなっている。このことから洗たく用水と洗たく回数には，何らの関係も見出されない。また，風呂の残り湯の使用率は46～50%で地域差はほとんどみ



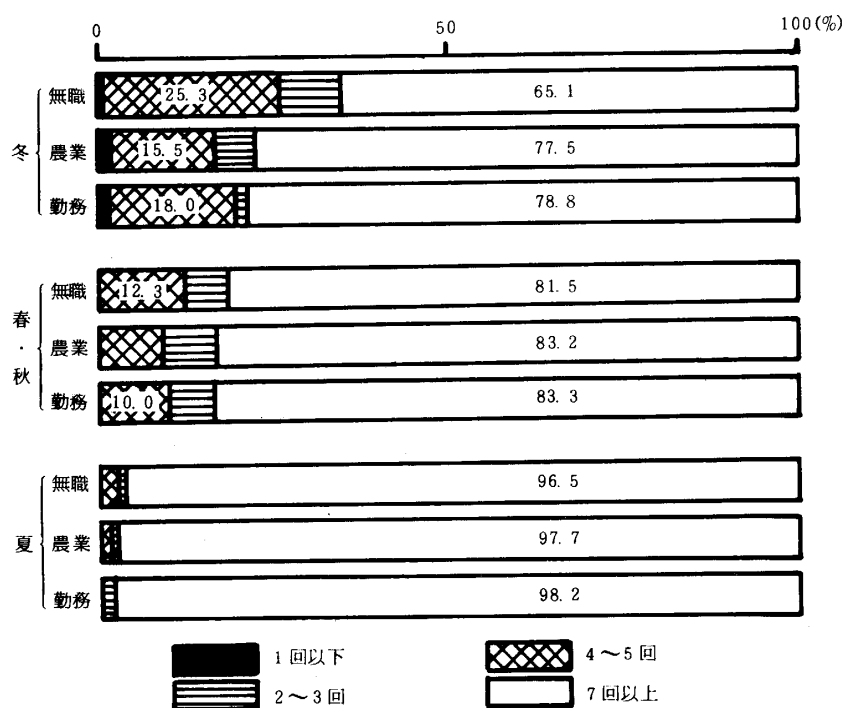
第48図 洗たく用水

られず，年代別においても40～58%の範囲内で顕著な差異は認められなかった。

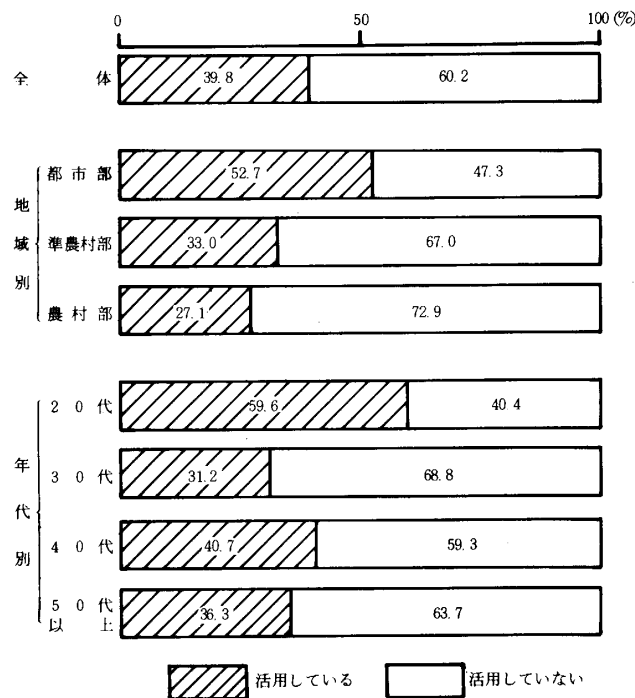
9-2 洗たくの方法

洗たくの際，衣料品についている表示を見て活用しているかについて全体，地域別および年代別にみた結果は第49図に示す通りである。活用していると答えた人が全体では約40%あり，地域別では都市部で約53%，年代別では20代が約60%と半数を越えている。

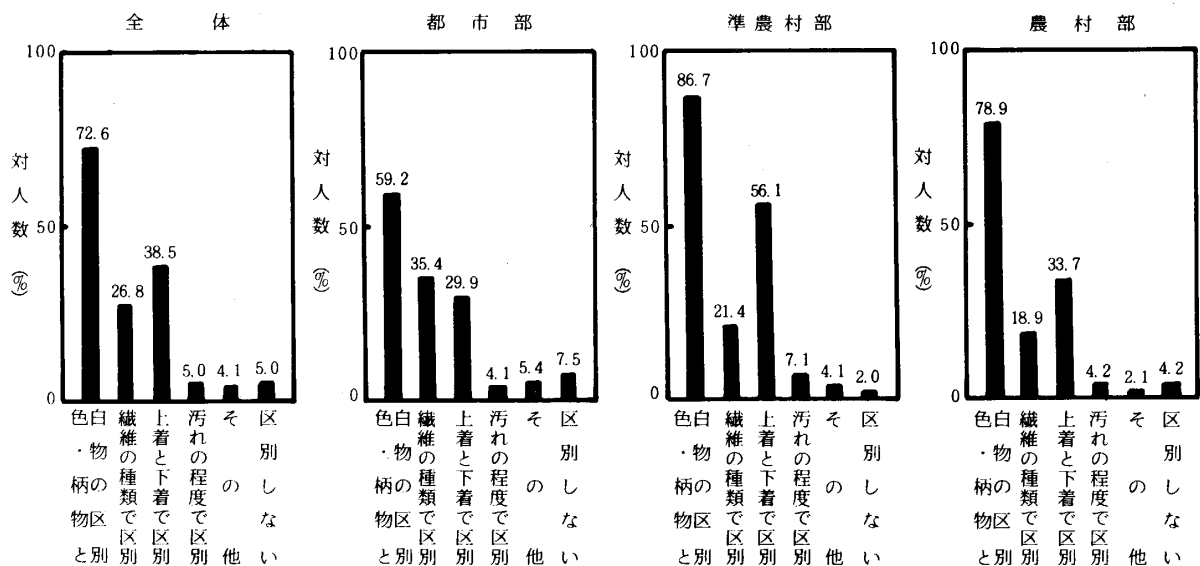
次に洗たくの際，洗たく物の分類はどのようにするかについて調べた結果を全体および地域別にみると第50図の通りである。「区別しない」と答えた人は全体で7.5%と少なく，ほとんどの人が何らかの方法で分類していることがわかる。その割合は「色柄物と白物との区別」が



第47図 洗たく回数 (職業別)



第49図 洗たく時における表示の活用



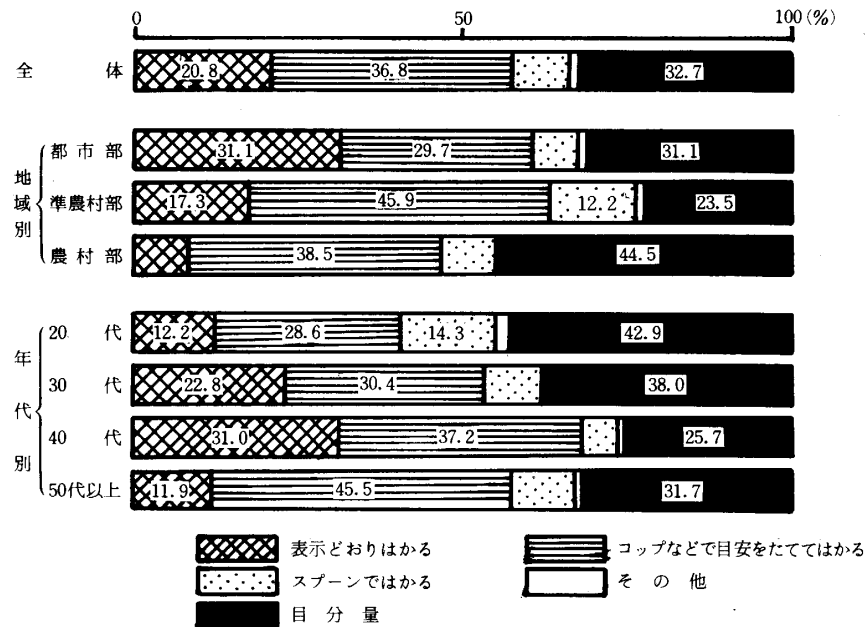
第50図 洗たく物の分類

(複合選択回答)

最も多く、「上着と下着との区別」「繊維の種類で区別」の順となっている。これは地域別にみた準農村部、農村部でも同じ傾向となった。しかし、都市部では「繊維の種類で区別」する人の割合が35%を示し、「上着と下着との区別」より大きくなっており、衣料品の表示を活用していることを示した結果（第48図）の裏付けとして注目される。年代別では大きな差はみられなかったが、「衣料品についている表示を活用している」と答えた人の割合が60%を示した20代が、「繊維の種類で区別」と

答えた人の割合は20%と低い値を示し、対応した結果を示さなかった。

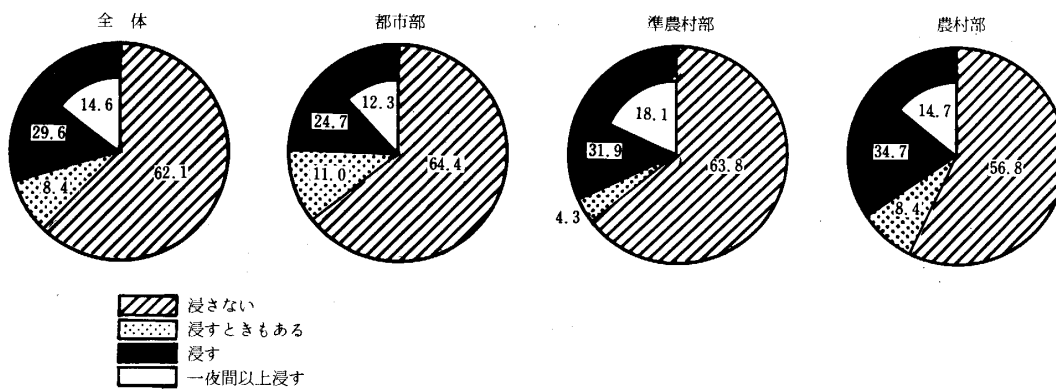
また、洗剤の分量はどのようにして決めるかについて全体、地域別および年代別にみた結果は第51図に示す通りである。「表示どおりはかる」と答えた人は全体で21%と小さな割合を示したが、「コップで目安」「スプーンではかる」を一緒にすると、66%の人が何らかの形で洗剤を計量しているといえる。地域別では、都市部で「表示どおりはかる」人が31%と最も多く、農村部では「目



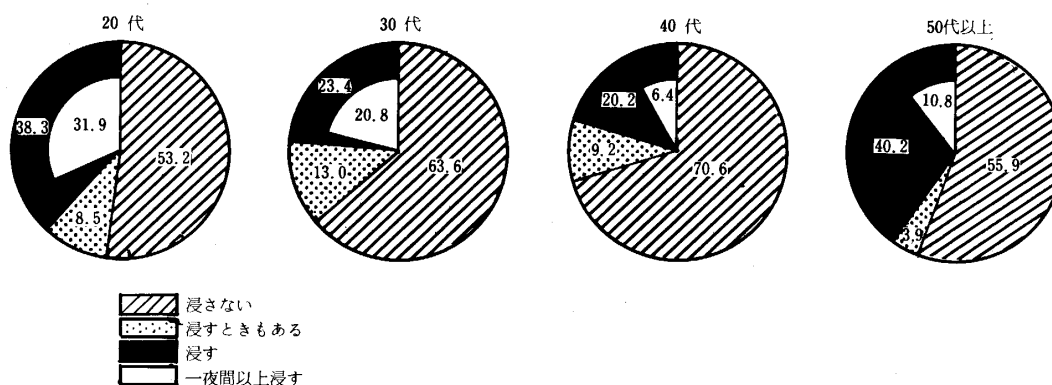
第51図 洗剤の分量の決め方

分量」と答えた人が44.5%と大きな割合を示したのが目立っている。年代別では、20代で「表示どおりはかる」

人が12%と小さな割合を示し、しかも「目分量」と答えた人が42.5%と大きな割合を示したことが挙げられる。



第52図 予 浸（全体および地域別）



第53図 予 浸（年代別）

9-3 予浸と予洗

洗たくの際、あらかじめ浸しておくか、また一夜間以上浸す人の割合について調べた結果を全体、地域別および年代別に示すと第52図、第53図の通りである。「浸す」および「浸すときもある」と答えた人は全体で38%あり、地域別では農村部が多く43.1%を示した。また、再汚染や汚れの繊維内部浸透により洗浄率がえって低下し、不適当といわれている「一夜間以上浸漬」と答えた人は全体で14.6%、地域別では準農村部が最も多く、農村部、都市部の順になった。これらの結果を年代別にみると、「浸す」「浸すときもある」と答えた人は20代、50代に多く、30代、40代では少ない。「一夜間以上浸漬」する人が低年齢層に多く、特に20代の31.9%という値は問題が残る。

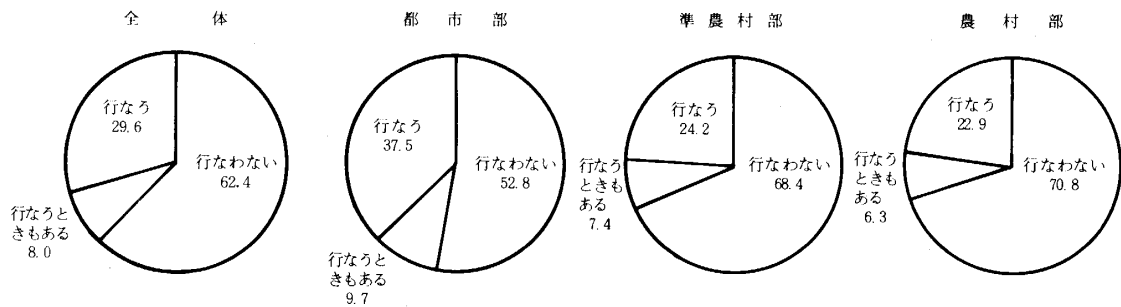
次に洗たくの際、下洗い（水洗い）を行うかについて調べた結果を全体、地域別および年代別にみると第54図、第55図の通りである。「行なう」および「行なうときもある」と答えた人は都市部で多く47.2%を示した。準農村部、農村部は30%前後で予浸の場合と比べてかなり低い割合である。年代別にみると、「行なう」「行なうときもある」と答えた人の割合は40代が最も多く、次の

で30代、20代、50代の順になった。予浸をすると答えた人の割合が大きかった20代、50代で予洗をする人の割合は小さくなっていることがわかる。予浸、予洗の両面から考えてみると、40代の人是最も理想的な方法をとっている人が多いといえる。

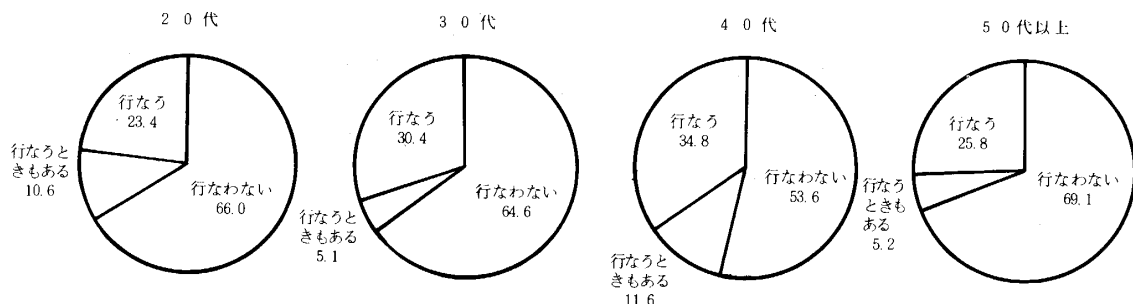
9-4 洗 剤

衣料用洗剤として何を使用しているかについて全体、地域別および年代別にみると第56図の通りである。全体では、粉末合成洗剤の占める割合が83%を示し、固形石けんおよび粉末石けんの使用者は合せて9%にすぎない。地域別では、都市部で固形石けん、粉末石けんの使用者が合せて14.5%あり、他地域よりも多くなっているが、粉末合成洗剤に比べると著しく低い値である。準農村部はすべて粉末合成洗剤となっているが、これは調査対象が限られた地域であり、購入経路（農協販売）が限られてしまった結果であろう。年代別では低年齢ほど固形石けん、粉末石けんの使用者が多いことが挙げられる。

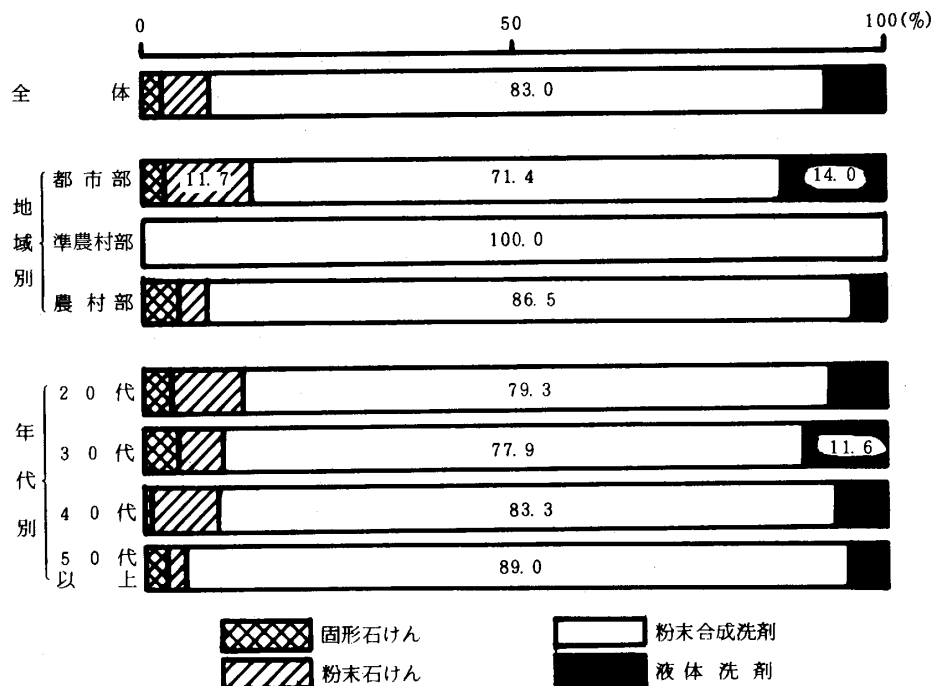
次に、合成洗剤の使用が原因であると考えられる“手あれ”などの経験があるかについて全体、地域別および年代別にみた結果は第57図の通りである。全体で21%の人が手あれの経験があると答えている。地域別では都市



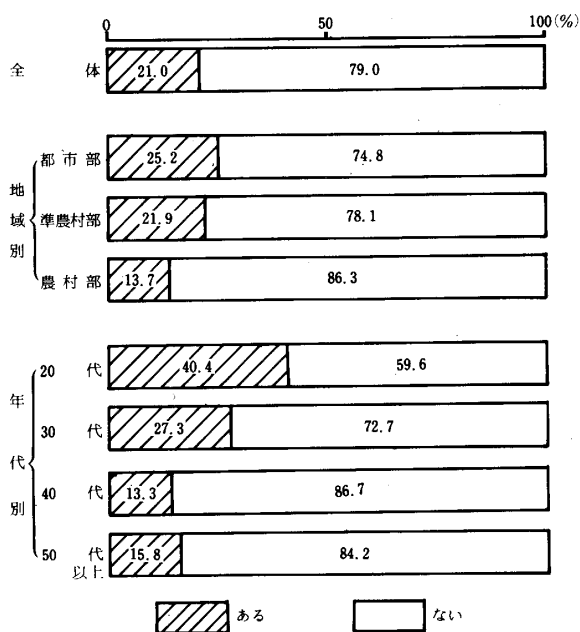
第54図 予 洗 (全体および地域別)



第55図 予 洗 (年 代 別)



第56図 使用されている衣料用洗剤



第57図 洗剤による手あれの経験

部、年代別では20代において経験のある人の割合が多くなっている。この結果は衣料用洗剤として固形石けん、粉末石けんを利用している人の割合が都市部、20代で多くなっていることと対応している。

また、合成洗剤の安全性や公害について関心があるかについて全体、地域別および年代別にみると第58図の通りである。「強い関心をもっている」と「関心がある」と答えた人の割合は、全体で48%であり半数に満たない。

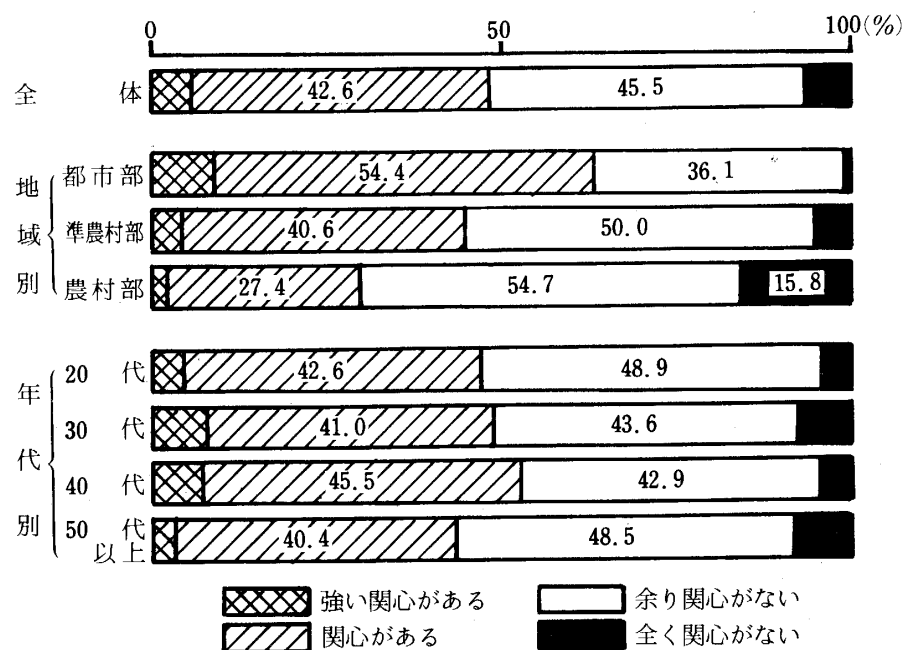
また、地域別では都市部で関心がある人の割合が最も多く、準農村部、農村部の順となっている。都市部は特に63%と大きな割合を示しているが、これは都市部で衣料用洗剤として固形石けん、粉末石けんを利用している人の割合が多いことと、手あれの経験者の割合が多いことと対応している。しかし、年代別では50代で関心があると答えた人の割合がやや少ないことを除いては大きな差はみられない。

10. クリーニングの利用状況

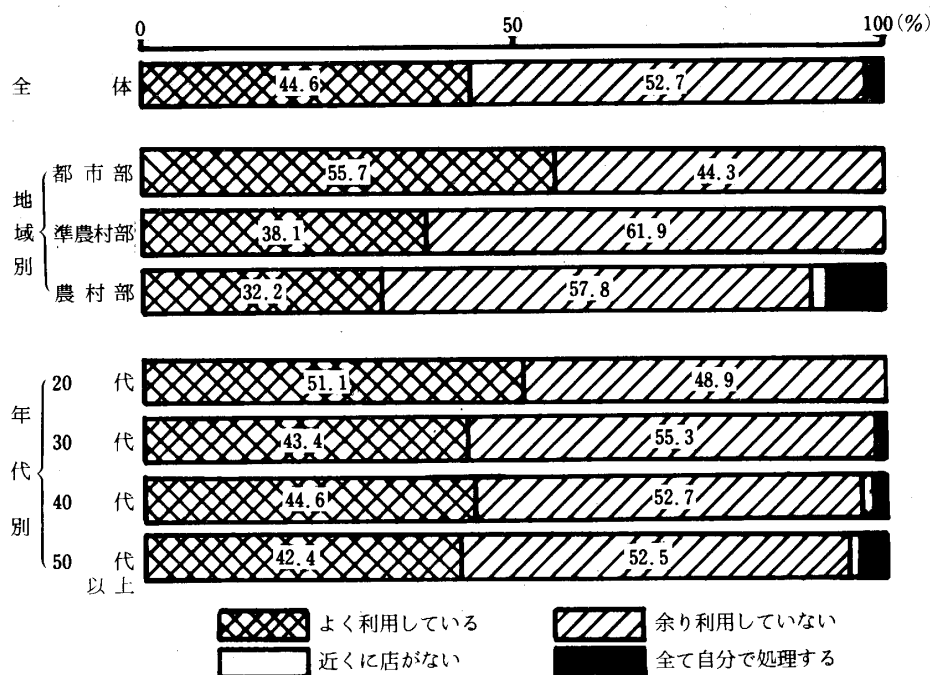
10-1 クリーニング店の利用

クリーニング店をよく利用しているかどうかについての調査結果は第59図に示す通りである。「よく利用する」と答えた人が全体で44.6%、地域別では都市部で55.7%を示したが年代別には大きな差はなかった。また、農村部では「全て自分で処理するので利用の必要がない」という人が7.8%あり、これを年代別にみると50代が多く、20代では皆無となり、クリーニング依存度が高いことを示している。次に、これを低年齢層（20代、30代）と高年齢層（40代、50代）に分けて職業別にまとめた結果は第60図の通りである。この結果から農村部の低年齢層で「よく利用する」と答えた人が非常に少ないことがわかる。また、無職の人は年代に関係なく高い利用率を示している。「利用したくても近くに店がない」と答えた人が農村部でわずかにみられた。

次に、クリーニング店に出す衣類はどんな品物か、またその利用の程度について調べた結果は第61図に示す通



第58図 合成洗剤の安全性および公害についての関心

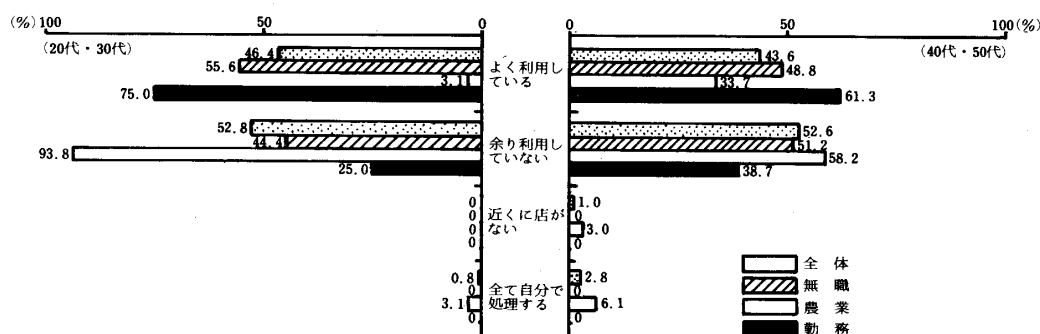


第59図 クリーニング店の利用状況（全体・地域別および年代別）

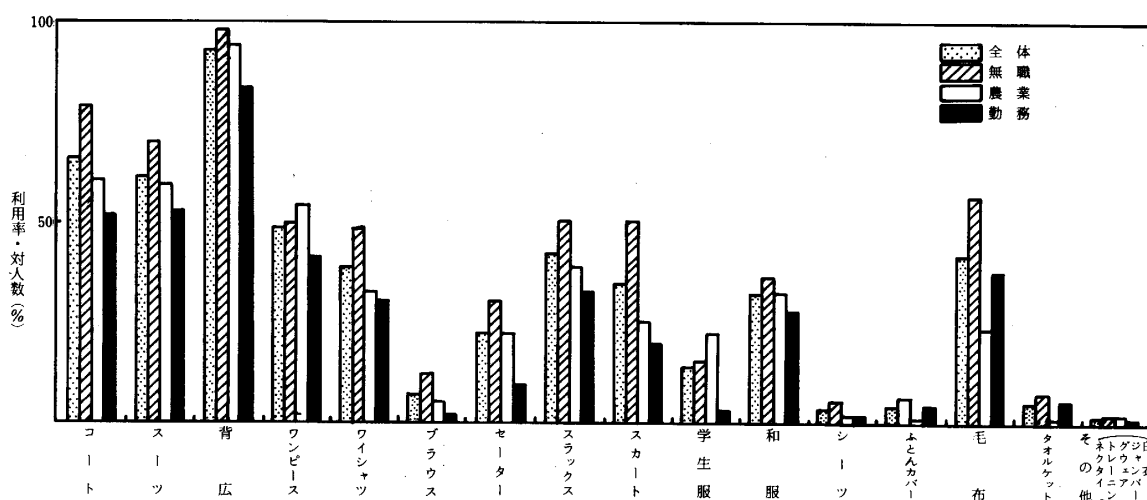
りである。利用率の最も高いものは背広の92.6%、次いでコート、スーツ、ワンピース、スラックスの順となっており、地域、年代による大きな差はみられなかった。次にこれを、低年令層と高年令層に分けて職業別にみると第62図の通りである。低年令層の無職や勤務の人が農業の人と比較して、ワンピース、ワイシャツ、セーター、スラックス、スカート、毛布において高い利用率を示し

ている。また、同じワイシャツについて、低年令層の農業の人が無職、勤務の人の約半分の利用率を示しているのに対して、高年令層の農業の人は勤務の人と同程度の利用率を示している。

次に、クリーニングの利用の程度についての結果は第63図に示す通りである。この結果より「衣替えのとき利用する」が最も多く、背広、コート、スーツ、ワンピー



第60図 クリーニング店の利用状況（低高年代別および職業別）



第61図 品目別クリーニング店の利用状況（全体および職業別）

ス、スラックスが目立った。また、「汚れが目立ったとき利用する」と答えた人は和服に多かった。「定期的に利用する」はワイシャツにみられたが、これはワイシャツ全利用者のみ程度でごくわずかである。この結果から衣料品は「取り扱い易さ」を考えて購入し、平素の手入れはできるだけ家庭で行ない、外出着については衣替えの時期にクリーニング店を利用するという人が多いことがわかる。

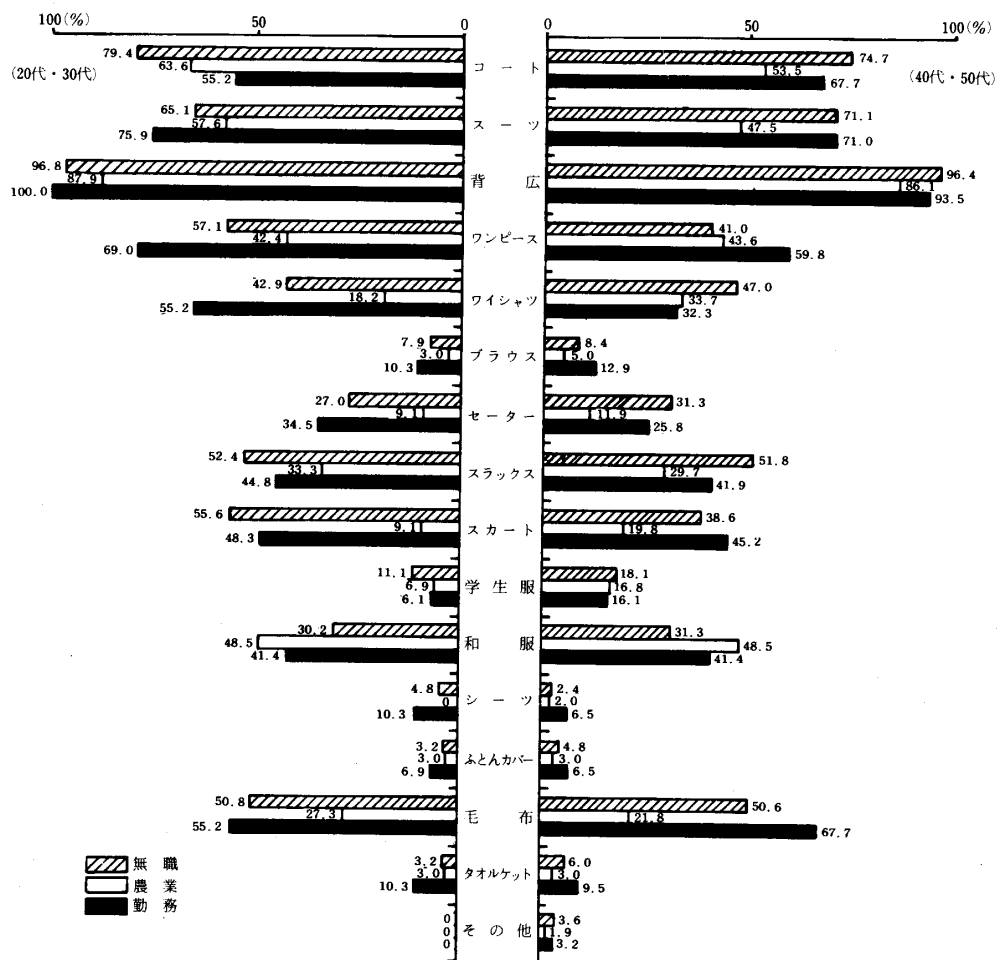
10-2 クリーニング店との受け渡し時の点検

クリーニング店に出すとき、素材やしみの種類・箇所を告げるか、またクリーニングが仕上がったとき点検してから受けとるかどうかを全体、地域別および年代別に示すと第64図の通りである。「素材やしみの種類・箇所を告げる」人は全体で69%あるのに対し、「仕上がったとき点検してから受けとる」人は全体の38%と少ない。地域別にみると都市部では、「出すとき告げる」が76%、「点検してから受けとる」が43%といずれも他地域に比べて大きな割合を示している。年代別では低年令層の人は、「出すとき告げる」が70%を越えており大きな割合を示しているが、「点検してから受けとる」人の割合が30%

前後と高年令層（特に50代は49%）に比べて大変低い。

10-3 クリーニングに対する苦情

クリーニングを依頼したとき困った経験を持っているか、その品物や事柄は何であったか、またどのようにして解決したかについて調べた結果、全体で147件の苦情があった。それらの苦情を「紛失、取り違い」「クリーニング処理ミス」「サービス」「ほつれ、ボタンとれ」「変退色」「汚れが落ちない」「変形、収縮」の7項目にまとめた。ここで「クリーニング処理ミス」に対する苦情とは「汚れ・しみなどがついて返ってきた、アイロン焼け、薬品などによる生地の変色・着色、やぶれなどである。また、「ほつれ、ボタンとれ」「変退色」「汚れが落ちない」「変形、収縮」の4項目はそれぞれ縫製、染色、汚れの種類および程度、素材にも大きく影響される事柄と考えられるので、ここでは「クリーニング処理ミス」とは別にして取り扱った。各項目ごとの苦情件数を全体および地域別に示すと第65図の通りである。なお図中の■は「代替品をもらう」「弁償」などの形で一応消費者に納得の得られた解決件数である。全体では「クリーニング処理ミス」に対する苦情が最も多く、「紛失、取り違い」がそれに



第62図 品目別クリーニング店の利用状況（低高年代別および職業別）

次いでいる。この2項目に「サービス」を加えると76件になり、全苦情の51.7%にのぼる。他の4項目の苦情も「ほつれ、ボタンとれ」23件、「変形、収縮」21件、「汚れが落ちない」18件、「変退色」9件とかなり多いが、これらの苦情をクリーニング店の全責任とするのは少し酷であろう。地域別では都市部で「紛失、取り違い」が「クリーニング処理ミス」と同件数あり大変多いのに対し、準農村部、農村部では少ないのが目立つ。また、納得の得られた解決を得た人は、準農村部、農村部でそれぞれ6件、4件で全体でも21件と極めて少ない。

11. 衣服の整理と保管

和服類、洋服類、肌着の収納用具および衣類の保管用具としてはどのようなものを利用しているかについて調べた結果を示すと第17表の通りである。和服は和ダンス、洋服類は洋服ダンス、肌着は整理ダンスに収納している人が80%以上あった。洋服について年代別にみると、洋服ダンス以外に低年令層で整理ダンス、高年令層で洋服箱が用いられている。また、季節外れの衣服の保管については衣裳缶が最も多く、次いでダンボール箱であった

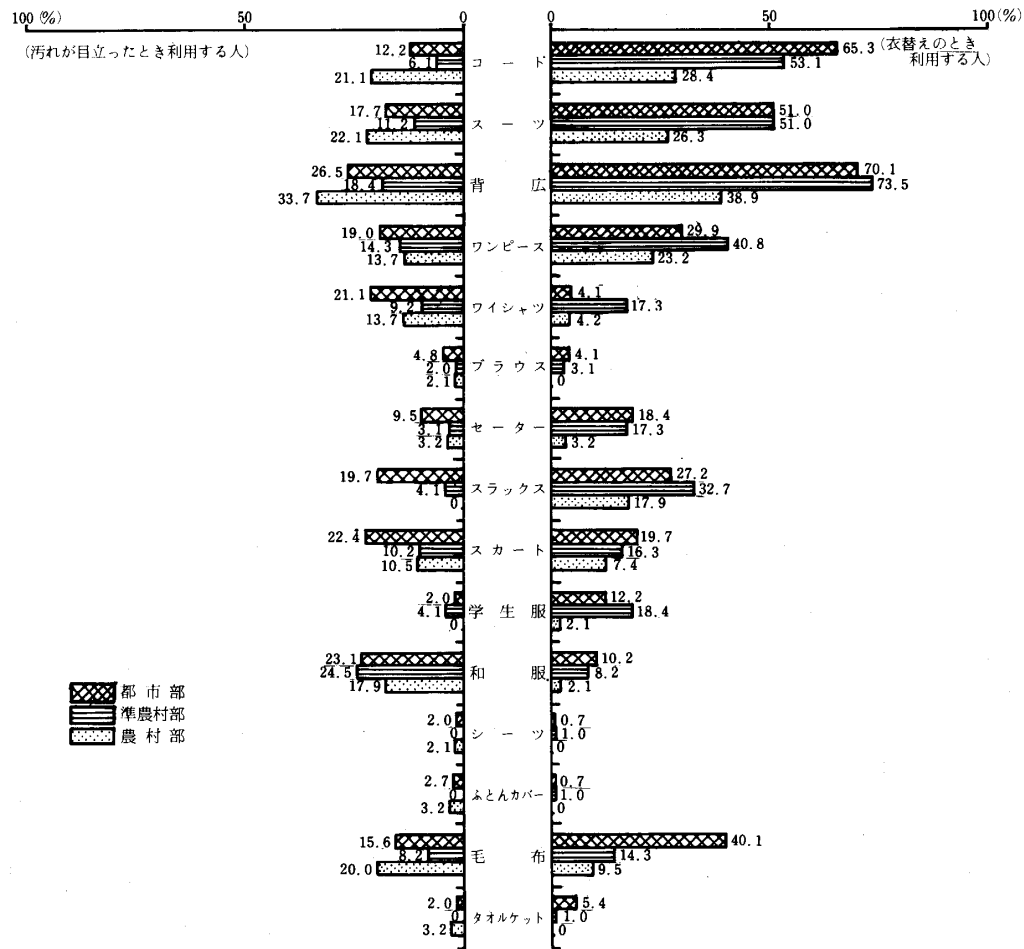
が、その他整理ダンス、茶箱、洋服箱、行李など多岐にわたって利用されている。

次に、虫干しについての調査を示すと第18表、第66～67図の通りである。虫干しは、全体で62.2%の人が行っており、地域別でみると都市部が年代別では低年令層において比較的多く行なわれている。また、虫干しの日数については、1日行なっている人が地域、年代に関係なく70～90%と高率を示した。また、2日、3日と行なっている人は、地域別では都市部で28.9%を示し、年代別では低年令層で29%を示し、高年令になるにしたがって少なくなっている。虫干しの時期については、土用干しといわれる「7～8月」に実施している人と、「3～5月」など虫干しの時期以外と思われる「その他」に実施している人を合せると地域、年代に関係なく80%程度となっている。これらの結果から、防虫、防黴、損傷の点検など虫干しの効用の中で防黴すなわち保管中に衣類が吸湿した水分を放散させ、カビの発生を防ぐ効果を主な目的として虫干しが行なわれているものと思われる。防虫剤についての結果は第19表に示す通りである。無使用

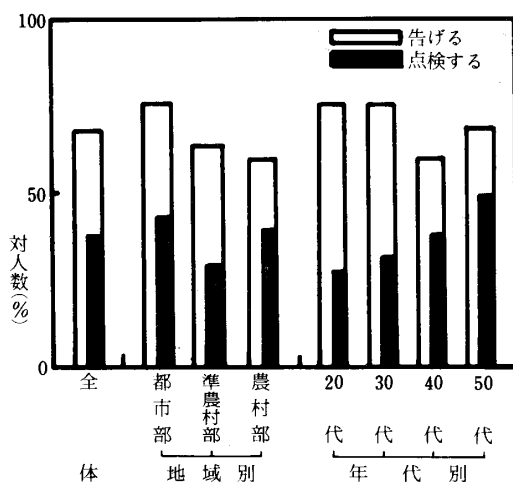
第17表 収納用具とその利用状況

(%)

収納衣料 調査対象	和服					洋服					肌着					季節外れの衣類																	
	地域別		年代別			地域別		年代別			地域別		年代別			地域別		年代別															
	全	体	都	市	農	村	20	30	40	50	全	体	都	市	農	村	20	30	40	50	全	体	都	市	農	村	20	30	40	50			
収納用具	和服ダンス	92.6	91.8	91.3	94.7	93.6	92.3	91.3	94.1	5.6	2.7	7.1	8.4	6.4	5.1	5.3	5.9	1.5	0	2.0	3.2	0	0	3.5	1.0	2.9	2.0	3.1	4.2	0	1.3	2.6	5.9
	洋服ダンス	2.1	2.7	0	3.2	6.4	2.6	0	2.0	87.4	91.8	84.7	83.2	85.1	82.1	93.9	84.2	3.8	4.1	2.0	5.3	4.3	7.7	0	5.0	4.7	4.1	2.0	8.4	0	6.4	0.9	9.9
	整理ダンス	4.7	6.1	3.1	4.2	4.3	3.8	4.4	5.9	16.2	19.7	17.3	9.5	36.2	26.9	8.8	5.0	84.1	87.1	84.7	77.9	89.4	85.9	83.3	81.2	15.6	10.2	15.3	24.2	8.5	9.0	11.4	28.7
	押入ダンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0.9	1.4	1.0	1.1	0	2.6	1.8	1.0	5.9	6.1	6.1	5.3	2.1	6.4	6.1	6.9	2.9	2.7	4.1	2.1	2.1	2.6	4.4	2.0
衣裳	2.9	4.1	3.1	1.1	2.1	3.8	2.6	2.9	13.2	17.7	12.2	7.4	10.6	15.4	16.7	8.9	10.3	11.6	13.3	4.2	6.4	15.4	12.3	5.9	60.3	67.3	60.2	49.5	74.5	66.7	62.3	46.5	
茶箱	1.5	3.4	0	0	0	1.3	2.6	1.0	2.1	3.4	2.0	0	0	2.6	2.6	2.0	2.9	4.1	4.1	0	0	2.6	5.3	2.0	13.2	21.8	10.2	3.2	2.1	12.8	12.3	19.8	
洋服箱	0	0	0	0	0	0	0	0	16.2	15.0	18.4	15.8	6.4	16.7	21.9	20.8	2.1	1.4	3.1	2.1	0	2.6	1.8	2.9	12.4	18.4	12.2	7.4	12.8	15.4	13.2	12.9	
ダンボール箱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.9	0.7	1.0	1.1	2.1	0	0	4.4	2.0	3.1	6.3	0	3.8	7.0	4.0	25.9	18.4	31.6	31.6	27.7	28.2	24.6	24.8	
行李	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.6	1.4	0	0	0	1.8	0	1.2	1.4	2.0	0	0	0	1.8	2.0	8.5	10.2	9.2	5.3	0	2.6	9.6	15.8	
ビニール袋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	1.0	0	0	0	0.9	0	0.3	0	1.0	0	0	0	0.9	0	4.7	1.4	10.2	4.2	6.4	6.4	5.3	2.0
ファンシーケース	0	0	0	0	0	0	0	0	1.8	2.0	0	2.1	6.4	0	0	1.0	0.9	0.7	1.0	1.1	0	2.6	0	1.0	0.3	0.7	3.1	0	0	3.8	0	1.0	



第63図 品目別クリーニング店の利用状況



第64図 クリーニング店との受け渡し時の点検

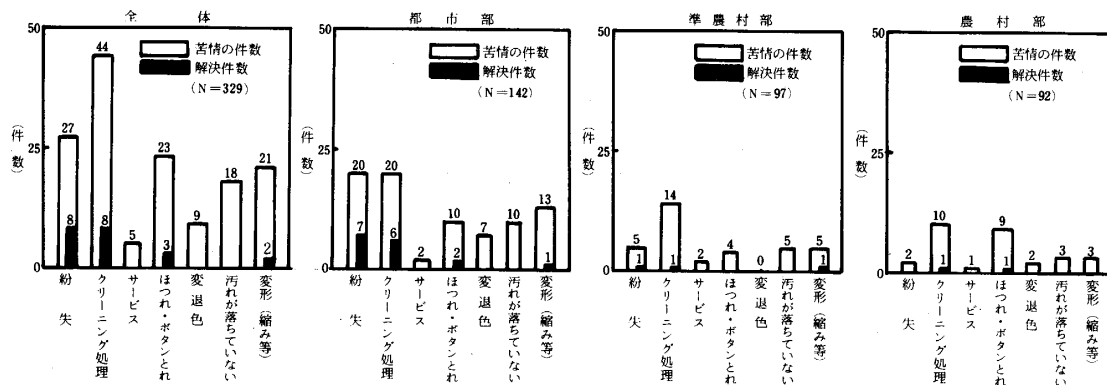
者が、都市部の20代に4%，準農村部の40代に3%あったが、ほとんどの人が使用しており、2種以上を混用している人はみられなかった。種類については、パラジクロールベンゼン系（パラゾールなど）が最も多く全体の50%程度を占めており、和服にはしょうのう、洋服には

第18表 虫干しの実施状況

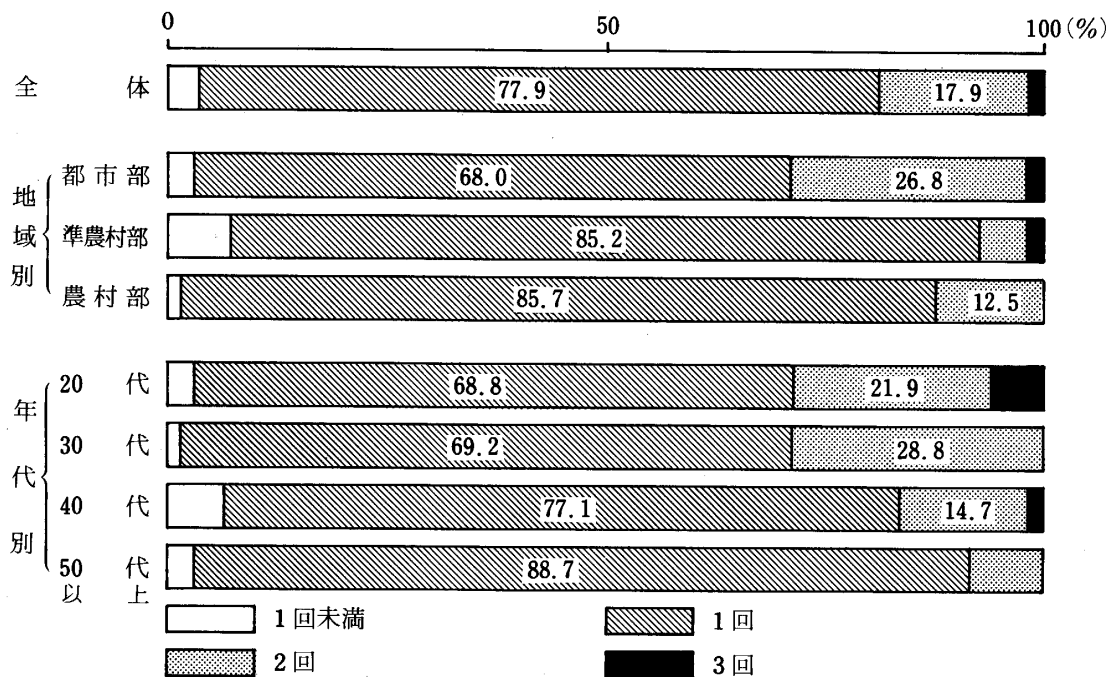
調査対象 事項	全 体	地 域 別			年 代 別			
		都 市	準 農 村	農 村	20 代	30 代	40 代	50 代以上
虫干しをする人	62.2	69.4	55.1	58.3	68.1	67.1	56.1	62.4
虫干しをしない人	37.8	30.6	44.9	41.7	31.9	32.9	43.9	37.6

第19表 防虫剤の種類と利用状況

調査対象 防虫剤	全 体	地 域 別			年 代 別			
		都 市	準 農 村	農 村	20 代	30 代	40 代	50 代以上
ショウノウ	24.7	21.5	29.6	24.3	21.6	20.0	32.3	20.9
ナフタリン	27.1	25.3	23.1	33.6	21.6	30.6	26.0	28.2
パラジクロールベンゼン	48.2	53.2	47.3	42.1	56.8	49.4	41.7	50.9



第65図 クリーニングに対する苦情



第66図 虫干の回数

パラジクロールベンゼン系と使い分けている人が全体の12%程度あった。なお、地域別、年代別における差はみられなかった。また、パラジクロールベンゼン系に比較して防虫効果の低いナフタリンを使用している人が、全防虫剤の30%程度を示したが、保管用具、虫干しの時期などについての今回の調査と併せ考えると、今後考慮する必要があると思われる。

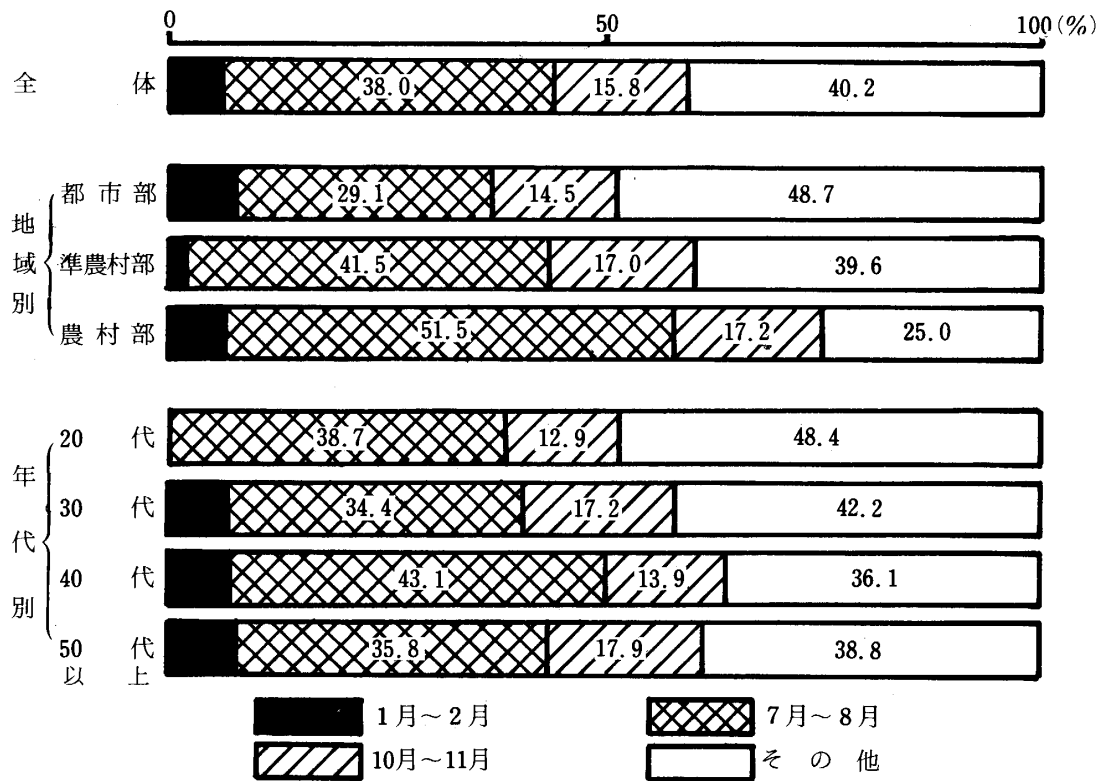
12. 廃棄衣料の処理方法

着用しなくなった衣料品をどのように処理するかについて調べた結果を、全体および地域別に示すと第68図の通りである。全体では「しまっておく」「クズとして処理する」と答えた人がきわめて多く、「人にあげる」がそれに次いでいる。「リフォームする」「交換する」などはわずかである。全体と地域別とを比較してみると、都市

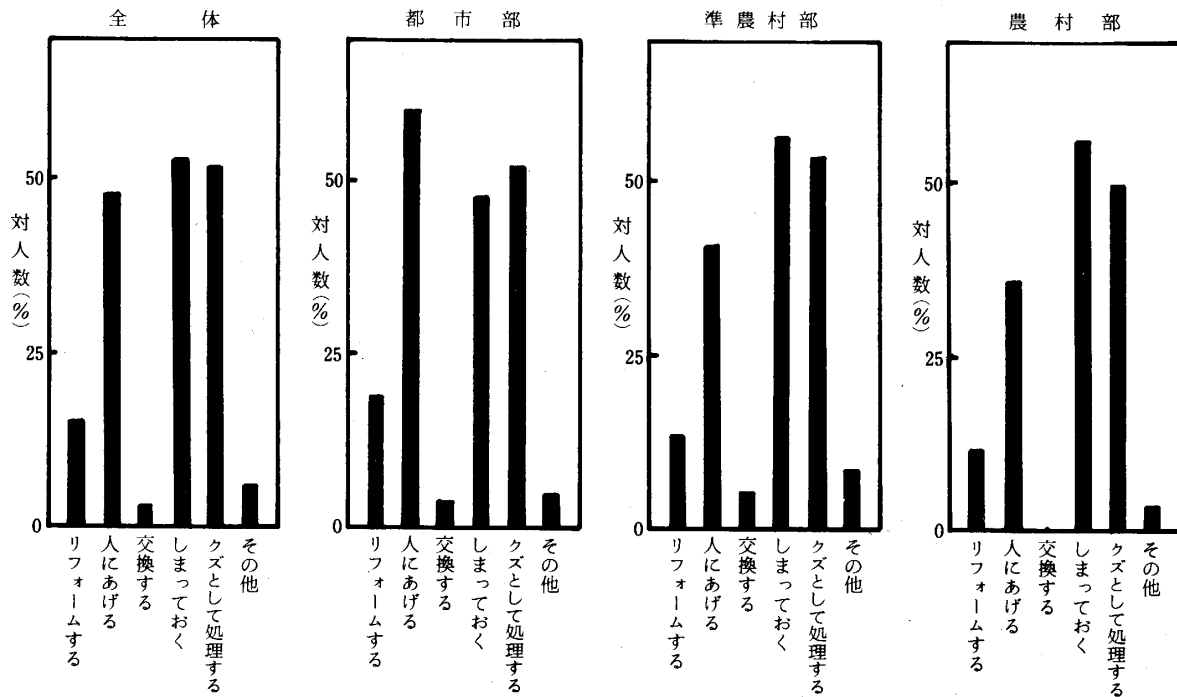
部では「人にあげる」「リフォームする」と答えた人の割合が全体よりも大きく、その結果、「しまっておく」と答えた人の割合が小さくなっている。それに対し、準農村部、農村部では「しまっておく」が全体よりも大きく、「リフォームする」「クズとして処理する」が全体より小さくなっているのが目立つ。年代別には特に興味ある結果は得られなかった。

13. 衣生活での衣料品に対する不満と苦情

これまでの衣生活で経験した衣料品に対する不満や苦情があるかどうか、またその内容について調べた。「ある」と答えた人は全体の33%であったが、件数では166件に及んだ。地域別では準農村部の人が、職業別では農業の人が「ある」と答えた人の割合が多くなり、年代別ではあまり相違がみられなかった。



第67図 虫 干 し の 実 施 時 期



第68図 衣 料 の 廃 棄 物 処 理 の 方 法

(複合選択回答)

次に、不満および苦情の内容を分類してまとめると第20表の通りである。ほつれ、ボタンとれなどの「縫製に関するもの」が72件と最も多く、次いで「サイズに関するもの」24件で以下「収縮に関するもの」「特価製品に関するもの」「素材、生地に関するもの」がいずれも10件を越えている。「縫製に関するもの」を地域別にみる

るもの」24件で以下「収縮に関するもの」「特価製品に関するもの」「素材、生地に関するもの」がいずれも10件を越えている。「縫製に関するもの」を地域別にみる

第20表 衣生活への不満と苦情

(件数)

不満および苦情事項種別		縫製に関するもの	サイズに関するもの	収縮に関するもの	特価製品に関するもの	素材・生地に関するもの	変色・退色に関するもの	型くずれに関するもの	価格に関するもの	洗剤に関するもの	表示に関するもの	流行に関するもの	販売方法に関するもの	その他	合計
全 体		72	24	15	14	11	6	4	4	4	3	2	2	5	166
地 域 別	都 市 部	13	11	6	4	3	2	0	1	4	2	1	1	2	50
	準農村部	42	12	7	7	2	2	3	1	0	1	0	0	2	79
	農 村 部	17	1	2	3	6	2	1	2	0	0	1	1	1	37

と、準農村部、農村部が他の苦情に比べて圧倒的に多く、これは農作業等の労働時の体験からでたものとして注目しなければならないと思われる。今後、縫製メーカーには縫製技術の向上、メーカー間のサイズの統一、表示の適正化などの努力を強く望みたい。

Ⅳ. 総 括

以上の調査結果から、島根県における主婦の衣生活の実態やその問題点などについて明らかになった主な事柄は次のようである。

(1) 主婦の和服着用の状況についてみると、平均所持枚数は日常着4.6枚、外出着18.4枚、礼服3.3枚、計26.3枚で、この中で所持枚数の最も多い種類は外出着の袷長着5.0枚で所持率は90%以上を占めている。しかし、和服の着用頻度は「よく着用する」が僅か3%で高年令層に多く、他方「全く着用しない」が24%にも達し、この傾向は低年令層ほど大きい。このことは、和服が死蔵率の極めて高い衣服であることを示している。

次に、冠婚葬祭など改まったときの装いは和服か、洋服かの間には和服着用が圧倒的に多く、入学式、卒業式になると9割近くが和服着用であり、この傾向は年令が高くなるほど大きく、また農村地域ほど多くみられる。さらに 貸衣裳の利用が多くなった中でその75%が留袖であることや 娘の結婚仕度品として和服はどの程度用意したか(またはするか)の間に「一揃用意した(する)」が約6割、「礼装用のみ用意した(する)」が約2割も示されたことなどから、今日の和服は日常着としては高年令層にみる従来からの生活習慣的着用のほかは極めて少なくなり、改まった場合に着用されるフォーマルな衣服に変わってきていることがわかった。生活の簡素化、合理化が提唱される中で、今後は所得水準の向上と共に日常

着では和服離れした若年令層でも美しく華やかな和服へのあこがれは高まっていくであろうし、和服は益々高級化の方向へ進んでいくものと考えられる。

和服の調製方法については、全体的には別誂が6割で最も多く、自家製(自分で仕立てる)は約4割程度である。これを年代別でみると、50代以上では浴衣の85.7%を最高に、ウール長着、ウール羽織などかなりが自家製であるのに対し、若年令層になると自家製は急激に減少していることが示された。

(2) 洋服類の購入状況や嗜好傾向、流行に対する意識などについてみると、最近1年間に購入された洋服の服種はワンピースが最も多く、次いでブラウス、スカートの順であった。購入枚数は1～3枚が過半数を占め、都市部または若年令層ほど多くなっている。

また、調製方法は自家製、別誂が少なく既製が全体で80%と高率を占めている。このことは最近のアパレル産業の急速な発達により既製の品質が向上し種類も多くなり、プレタポルテを含めて著しく普及してきたことを示している。

購入動機は全体では「必要にせまられて」が最も高く47.0%で「町へ出たついでに」14.1%、「季節の変わり目に」8.4%で「計画的に買う」が4.7%と低いことは衝動的、情緒的動機が少なくないといえる。しかし、農村部では「計画的に買う」が比較的高い率を示していた。

購入ポイントは全体では「色・柄」「デザイン」が上位を占め、次いで「価格」の順であるが若年令層では「デザイン」を、高年令層になるほど「材質」を挙げる人が多くなっている。なお、洗たくのしやすさを挙げた人は極めて僅少であった。

購入した既製服に対する着用感は「満足している」が66.3%、「不満足である」は6.2%と少なく、その内容

はサイズの不適、デザインの不足などである。

流行に対する意識や反応についてはテレビ、その他の情報の発達により都市部と山村部との地域差はかなり狭まり、平均化ないしは類似化が進んでいることが認められるが年代の差異は顕著に現われている。流行にある程度関心を持っている人は40代までは過半数を占めているが50代以上になるとその割合は急激に減少してくる。これは個々の服の形にもみられ、若年令層ではここ数年来のビッグなファッションの傾向がワンピースやスカートにも現われており、またスカート丈は若年令層ほどミディ、ロングなどの長いものが多く、衿、袖、スカートの形もバラエティに富んでいるが、高年令層になるにつれてノーマルな無難な形に集約している傾向がみられた。

次に、洋服の好まれる色・柄については色では全般的には無彩色、青・紺系統、茶・ベージュ系統があげられたが、農村部には特に白系統が目立ち、年代別では若年令層には赤・ピンク系統がやや多くみられる他は顕著な相違は認め難い。また、柄では約60%が無地、25%がプリントでチェック、たて縞、よこ縞、斜縞が残りの15%を占めている。ワンピースは他の服種と異なりプリントが過半数を占めている。

(3) ねまきの着用状況については全体的には夫・妻とも和服式より洋式のパジャマ、ネグリジェが多い。年代別では若年令層は洋式がほとんどであるが、年代が高くなるにしたがって和服式が増加し、50代以上では約7割を占めている。和服式ねまきの調製方法をみると全体では約3割が自家製であるが20代では皆無で高年令になるほど多くなっている。

(4) 農作業時の服装は夫の場合、服種としての「作業服」を着用する人は2割程度と少なく、「ワイシャツとズボン」が過半数を占め、主婦の場合も「ブラウスとスラックスまたはもんぺ」が多く、もんぺの着用は特に高年令層にみられる。

(5) 衣服の整理・保管についての調査の中で、家庭洗たくでの洗剤の適正分量が守られていないのが農村地域や若年令層に比較的多く、4割程度を占めていた。また、被洗物の一夜間予浸を行なっている人が全体で15%もあり特に農村地域に多かった。虫干しについては約6割の人が実施しており、その時期は7～8月と3～5月が全体の8割を占め、1～2月のいわゆる「寒干し」は僅少である。

(6) 取扱い絵表示に対する理解の程度について、記号6種すべてを理解している人は全体でわずかに3%程度で、記号すべてに無関心または誤った理解をしている人は70%弱を占めていた。品質表示の制定の趣旨から、もっと消費者の理解を高め実効のあるものとするためには、消費者への啓発教育もさることながら表示記号や用語自体の一部にも改善策を講ずる必要があるように思われる。

(7) 衣生活の中で経験した不満と苦情については、クリーニングに関係したものとして147件が示され、そのほとんどがクリーニング事故に対するものであった。次に、このクリーニングの関係を除いた衣料品についての不満・苦情には166件の事例が示され、その内容は「縫製に関するもの」が72件で最も多く、次いで「サイズに関するもの」であり、以下、寸法変化、形くずれ、特価製品の品質に関するものなどであった。また、品質表示に関して、その表示の不適正さに対する不満が30件も示されるなど意外に多くの不満や苦情の経験をもった人のあることがわかった。

(8) 洗剤の安全性や公害に対する関心度については「ある」と答えた人が半数にも満たなかった。地域別では都市部が比較的高かったが、これは洗剤による手あれ経験者が多いことや石けんの利用率の高いことと対応しているようである。

不用となった衣料の廃棄処理の仕方には、かなりの人が省資源的な意識をもちながら困惑していることがわかった。

最後に、今回の調査に御協力頂いた島根県農林水産部、調査地区の生活改良普及員ならびに面接に応じて下さった主婦の方々に深く感謝致します。

本調査は、昭和53年度より本学に新設された特別研究費により実施したものである。この結果が今後の消費者行政あるいは生活改良普及事業のための施策推進の立場で役立てられれば幸いである。

参 考 文 献

- 1) 上野清一郎：織消誌，16，56（1975）
- 2) 上野，山本：織消誌，18，109（1977）
- 3) 矢部，林：被服整理学概説，光生館，61（1969）

（昭和54年1月22日受理）

資 料

面接調査のための質問内容

あなたの年令と職業

主人の年令と職業

家族構成

1. 和服について

現在あなたが持っている和服すべての枚数を用途別に、また、その調製方法、着用頻度および染替の有無などについて答えて下さい。

和服の種類：浴衣、単衣長着、袷長着、単衣羽織、ウール羽織、袷羽織、コート、留袖、喪服

2. 改まった時の装い、および和服への関心度について

（選択事項）

①調製方法	②購入経路	③ 購 入 動 機		④ 購入ポイント		⑤ 色		⑥着用感
1. 自家製	1. 小 売 店	1. 計画的に買う	2. 必要にせまられて	1. 色・柄	2. デザイン	1. 赤系統	2. ピンク系統	1. 満 足
2. 別 誂	2. 専 門 店	3. 季節のvari目を買う	4. いつも同じ服ばかりなので	3. 価 格	4. サイズ	3. 茶系統	4. ベージュ系統	2. 普 通
3. 既 製	3. スーパーマーケット	5. 流行おくれと思ったとき	6. 安い物が見つかったとき	5. 着心地	6. 肌ざわり	5. 橙系統	6. 黄系統	3. 不満足
	4. 百 貨 店	7. 町に出たついでに買う	8. お金ができるとき	7. 材 質	8. その他	7. 緑系統	8. 青系統	
	5. そ の 他 (農協・行商など)	9. お正月・お盆・お祭に買う	10. 欲しかった			9. 紺系統	10. 紫系統	
		11. 人にすすめられて	12. そ の 他			11. 白系統	12. 灰系統	
						13. 黒系統		

4. 次の7種の洋服の中で気に入っているものを一着ずつあげ、下記の項目について答えて下さい。

服種：スーツ、ワンピース、ベスト、ブラウス、スカート、カーディガン、セーター

（質問項目および選択事項）

① 色		② 柄	③ 服の丈	④ 衿の形	⑤ 袖の形	⑥スカートの形	⑦ 流行のとり入れ方
1. 赤系統	2. ピンク系統	1. 無 地	1. ミ ニ	1. テーラード・カラー	1. ノーマルスリーブ	1. タ イ ト	1. 流行をいち早く取り入れる
3. 茶系統	4. ベージュ系統	2. プリント	2. カ ー ド	2. へちまカラー	2. パフ ス リ ー ブ	2. プリーツ	2. ある程度流行に添うようにする
5. 橙系統	6. 黄系統	3. チェック	3. ト ミ デ ィ	3. シャツカラー	3. フレアースリーブ	3. フレア	3. 自分の個性や好みを考慮して取り入れる
7. 緑系統	8. 青系統	4. たて縞	4. ロ ン グ	4. フラットカラー	4. ドロップショルダー・スリーブ	4. ギャザー	4. 流行にとらわれず自分の好みを主体にする
9. 紺系統	10. 紫系統	5. よこ縞	5. 上 W.Lまで	5. スタンドカラー	5. フレンチスリーブ	5. キュロット	5. 流行には余り関心がない
11. 白系統	12. 灰系統	6. 斜 縞	6. 衣 H.Lまで	6. タイ カラー	6. シャツスリーブ	6. そ の 他	
13. 黒系統		7. その他	7. 丈 H.L以上	7. 衿 な し	7. ラグランスリーブ		
				8. そ の 他	8. そ の 他		

5. 下着について

1) 今、着用している下着を肌に近い方から順に答えて下さい。冬についても答えて下さい。

2) シャツやスリッパを買うとき、どんな点に留意されますか。また、その素材は主に何ですか。

(選択事項)

○購入ポイント 1. サイズ 2. 取り扱い易さ
3. 材質 4. 肌ざわり 5. 着心地 6. 価格
7. デザイン 8. ブランド 9. 縫製 10. その他

○素材 1. 綿 2. キュプラ 3. ナイロン 4. 混紡

3) ブラジャー、ガードルなどの整客下着を着用されますか。着用される場合は着用理由を、着用されない場合は非着用理由を答えて下さい。

(選択事項)

○着用理由 1. 体型補正 2. 気持ちがい 3. すべりがよい 4. 活動しやすい 5. 腰痛によい
6. あたたかい 7. その他

○非着用理由 1. 所持していない 2. 体型補正の必要がない 3. 圧迫感が気になる 4. 気持ちが悪い 5. 活動しにくい 6. その他

6. ねまきについて

主人とあなたのねまきに関する次の1)～5)の事項について、季節ごとに答えて下さい。

1) 所持数 2) 型式 3) 素材 4) 生地 5) 着用方法および着用日数

(選択事項)

○型式 1. 和服式 2. パジャマ 3. ネグリジェ

○素材 1. 綿 2. 毛 3. 合繊(混紡を含む)

○生地 1. ブロード 2. ネル 3. タオル 4. ガーゼ 5. メリヤス 6. ゆかた地 7. サッカー 8. その他

7. 作業着について

作業をする時はどんな服装をしますか。また、作業内容は何か。主人のことも聞かせて下さい。

8. 品質表示について

1) 「家庭用品品質表示法」という言葉を知っていますか。それは何で知りましたか。

(選択事項) 1. 講習・講演会 2. 新聞・テレビなど 3. 広報 4. 衣料品についているのを見て 5. 学校 6. その他

2) 衣料品を買うとき、どんな繊維でできているか、表示を見ますか。

(選択事項) 1. 必ず見る 2. 見ることもある

3. 全然見ない

3) 次の取扱い絵表示はどういう意味をあらわしていると思いますか。



4) 衣料品についている品質表示などで不満を感じた経験はありますか。その時の具体例を聞かせて下さい。

9. 家庭洗たくについて

(1) 洗たく回数と用水

1) 冬期、春秋期、夏期それぞれにおける、洗たく機を使つての洗たくを週何回位行ないますか。

2) 洗たく用水は何を使っていますか。

(選択事項) 1. 水道水 2. 井戸水 3. 風呂の残り湯 4. 湯 5. その他

(2) 洗たくの方法

1) 洗たくの際、衣料品についている表示を見て活用していますか。

2) 洗たくの際、洗たく物の分類はどのようにしていますか。

(選択事項) 1. 色・柄物と白物の区別をする 2. 繊維の種類で区別する 3. 上着と下着で区別する 4. よごれの程度で区別する 5. 区別しない 6. その他

3) 洗剤の分量はどのようにして決めますか。

(選択事項) 1. 表示どおりはかる 2. コップ等で目安をたててはかる 3. スプーンではかる 4. 目分量 5. その他

(3) 予浸と予洗

1) 洗たくの際、あらかじめ浸しておきますか。また、浸す場合、一夜間以上浸しておきますか。

2) 洗たくの際、下洗いは行ないますか。

(4) 洗剤

1) 衣料用洗剤として何を使用していますか。

(選択事項) 1. 固形石けん 2. 粉末石けん 3. 粉末合成洗剤 4. 液体洗剤 5. その他

2) 合成洗剤の使用が原因であると考えられる“手あれ”などの経験がありますか。

3) 合成洗剤の安全性や公害の問題について関心がありますか。

(選択事項) 1. 強い関心を持っている 2. 関心がある 3. 余り関心がない 4. 全く関心がない

10. クリーニングについて

(1) クリーニング店の利用

1) クリーニング店をよく利用しますか。

(選択事項) 1. よく利用する 2. 余り利用しない
3. 利用したくても近くに店がない 4. 全て自分で処理するので利用の必要がない 5. その他

2) クリーニング店に出される衣類はどんな品物ですか。また利用の程度について答えて下さい。

(選択事項)

○品物：コート類，スーツ，ワンピース，背広，スラックス，ワイシャツ，ブラウス，セーター，スカート，学生服，和服類，シャツ，ふとんカバー，毛布，タオルケット

○利用の程度 1. 定期的に利用する 2. 汚れが目立ったとき利用する 3. 衣替えのとき利用する

(2) クリーニング店との受け渡し

クリーニングに出すとき，素材やしみの種類・箇所などを告げますか。また，クリーニングが仕上がったとき，点検してから受けとりますか。

(3) クリーニングに対する苦情

クリーニングを依頼したとき，困った経験をお持ちですか。その品物や事柄は何でしたか。また，どのようにして解決しましたか。

11. 衣服の整理・保管について

1) 和服類，洋服類，肌着類の収納用具および衣服の保管用具としては，どのようなものを利用していますか。

(選択事項)

○収納・保管用具 1. 和ダンス 2. 洋服ダンス
3. 整理ダンス 4. 押入ダンス 5. 衣裳缶
6. 茶箱 7. 洋服箱 8. ダンボール箱 9. 行李 10. ビニール袋 11. ファンシーケース 12. その他

2) 虫干しは行ないますか。また，その回数，時期についても答えて下さい。

3) 防虫剤としては何を使っていますか。

12. 廃棄衣料の処理方法について

着用しなくなった衣料品は，どのように処理していますか。

(選択事項) 1. リフォームする 2. 人にあげる
3. 交換する 4. そのまましまっておく 5. クズとして処理する 6. その他

13. 衣生活の不満・苦情の経験について

これまでの衣生活で経験された不満や苦情がありますか。その事柄は何ですか。